

千葉県匝瑳郡光町

# 芝崎遺跡 I

—住宅宅地関連公共施設等総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査—

平成17年3月

千葉県海匝地域整備センター

財団法人 東総文化財センター

千葉県匝瑳郡光町

しば さき い せき I  
芝 崎 遺 跡

—住宅地関連公共施設等総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査—

## 序 文

九十九里平野の中央部に位置する光町は、北部に下総台地、南部には太平洋を臨む広大な水田地帯が広がっています。町境には豊かな水をたたえた栗山川が流れ、この地域特有の温暖な気候による豊かな自然を水面に映し出しております。

この自然環境は、数千年に及ぶ人々の暮らしに恵みを与え、町内には数多くの遺跡が遺されてきました。

このたび当文化財センター発掘調査報告書第30集として刊行いたします芝崎遺跡は、栗山川に隣接する標高5m前後の低地の遺跡で、古代の竪穴住居跡が数多く発見されたほか、中世から近世にかけての畑跡が確認されるなど極めて貴重な成果を得ることができました。本書が学術資料としてだけでなく、郷土史・地域史の資料として活用され、広く文化財に対する理解を深めるための一助となることを願ってやみません。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまで、ご指導とご協力をいただきました千葉県海匠地域整備センター、千葉県教育委員会、光町教育委員会をはじめ関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成17年3月

財団法人 東総文化財センター  
理事長 江波戸 義治

## 例 言

- 1 本書は、千葉県海匝地域整備センター（旧 八日市場土木事務所）による住宅宅地関連公共施設等総合整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県匝瑳郡光町芝崎字水神1262-1ほかに所在する芝崎遺跡である。
- 3 芝崎遺跡の遺跡コードはH47である。遺跡コードのHは光町のローマ字表記の頭文字である。47は『千葉県埋蔵文化財分布地図』（平成6年）の分布地図に記載されている光町の遺跡番号を使用している。
- 4 芝崎遺跡の発掘調査は、千葉県海匝地域整備センター（旧 八日市場土木事務所）の委託を受けて、千葉県教育委員会及び光町教育委員会の指導のもとに、財団法人東総文化財センターが実施した。発掘調査及び整理作業の詳しい経緯については、第1章第1節で記している。
- 5 本書の編集・執筆は主任研究員 道澤 明が行い、縄文土器の分類・実測については当センター調査研究員 白崎智隆、土師器・須恵器の実測については、調査研究員 津田憲司の協力を得た。
- 6 発掘調査から報告書作成に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県海匝地域整備センター、光町教育委員会のご指導、ご協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、以下の通りである。

図1 国土地理院発行1/25,000地形図「多古」(NI-54-19-10-2)・

「木戸」(NI-54-19-7-3・4)・「八日市場」(NI-54-19-6-4)・

「成東」(NI-54-19-11-1)

# 目 次

## 序 文 例 言 目 次

1. 調査の概要	
1) 調査の経緯	1
2) 調査経過	1
3) 発掘調査及び整理作業	2
2. 遺跡の環境	
1) 遺跡の位置・地形	3
2) 遺跡の歴史的環境	3
3) 遺跡の地質	5
3. 発掘調査の成果	7
1) 縄文時代	10
2) 奈良・平安時代	16
芝崎遺跡土器胎土薄片観察	107
3) 鎌倉・室町時代(中世)	109
4) 江戸時代(近世)	123
5) 芝崎遺跡の自然科学分析	131
4. 結語	143
報告書抄録	

# 図 目 次

図1 遺跡位置図	4	図11 奈良・平安時代の遺構1	22
図2 12E-75-8での地山砂層	5	図12 奈良・平安時代の遺構2	23
図3 遺跡の地形と地名	6	図13 奈良・平安時代の遺構3	24
図4 発掘調査した芝崎遺跡の全体図と 空中写真	8・9	図14 奈良・平安時代の遺構4	25
図5 縄文時代遺物分布	10・11	図15 奈良・平安時代の遺構5	26
図6 縄文時代出土遺物1	13	図16 奈良・平安時代の遺構6	27
図7 縄文時代出土遺物2	14	図17 奈良・平安時代の遺構7	28
図8 縄文時代出土遺物3	15	図18 奈良・平安時代の遺構8	29
図9 奈良・平安時代の畑跡以外に検出した 遺構	18・19	図19 奈良・平安時代の遺構9	30
図10 奈良・平安時代の時期区分	21	図20 奈良・平安時代の遺構10	31
		図21 奈良・平安時代の遺構11	32
		図22 奈良・平安時代の遺構12	33

図23	奈良・平安時代の遺構13	34	図66	奈良・平安時代の遺物20	81
図24	奈良・平安時代の遺構14	35	図67	奈良・平安時代の遺物21	82
図25	奈良・平安時代の遺構15	36	図68	奈良・平安時代の遺物22	83
図26	奈良・平安時代の遺構16	37	図69	奈良・平安時代の遺物23	84
図27	奈良・平安時代の遺構17	38	図70	奈良・平安時代の遺物24	85
図28	奈良・平安時代の遺構18	39	図71	奈良・平安時代の遺物25	86
図29	奈良・平安時代の遺構19	40	図72	奈良・平安時代の遺物26	87
図30	奈良・平安時代の遺構20	41	図73	奈良・平安時代の遺物27	88
図31	奈良・平安時代の遺構21	42	図74	奈良・平安時代の遺物28	89
図32	奈良・平安時代の遺構22	44	図75	奈良・平安時代の遺物29	90
図33	奈良・平安時代の遺構23	45	図76	奈良・平安時代の遺物30	91
図34	奈良・平安時代の遺構24	46	図77	奈良・平安時代の遺物31	92
図35	奈良・平安時代の遺構25	47	図78	奈良・平安時代の遺物32	93
図36	奈良・平安時代の遺構26	48	図79	奈良・平安時代の遺物33	94
図37	奈良・平安時代の遺構27	49	図80	奈良・平安時代の遺物34	95
図38	奈良・平安時代の遺構28	50	図81	奈良・平安時代の遺物35	96
図39	奈良・平安時代の遺構29	51	図82	奈良・平安時代の遺物36	97
図40	奈良・平安時代の遺構30	53	図83	奈良・平安時代の遺物37	98
図41	奈良・平安時代の遺構31	54	図84	奈良・平安時代の遺物38	99
図42	奈良・平安時代の遺構32	55	図85	奈良・平安時代の遺物39	100
図43	奈良・平安時代の遺構33	56	図86	奈良・平安時代の遺物40	101
図44	奈良・平安時代の遺構34	57	図87	奈良・平安時代の遺物41	102
図45	奈良・平安時代の遺構35(烟跡①)	58・59	図88	奈良・平安時代の遺物42	103
図46	奈良・平安時代の遺構36(烟跡②)	60・61	図89	奈良・平安時代の遺物43	104
図47	奈良・平安時代の遺物1	62	図90	奈良・平安時代の遺物44	105
図48	奈良・平安時代の遺物2	63	図91	奈良・平安時代の遺物45	106
図49	奈良・平安時代の遺物3	64	図92	鎌倉・室町時代の遺構1	110・111
図50	奈良・平安時代の遺物4	65	図93	鎌倉・室町時代の遺構2	112・113
図51	奈良・平安時代の遺物5	66	図94	鎌倉・室町時代の遺構3	114
図52	奈良・平安時代の遺物6	67	図95	鎌倉・室町時代の遺構4	115
図53	奈良・平安時代の遺物7	68	図96	鎌倉・室町時代の遺構5	116
図54	奈良・平安時代の遺物8	69	図97	鎌倉・室町時代の遺物1	117
図55	奈良・平安時代の遺物9	70	図98	鎌倉・室町時代の遺物2	118
図56	奈良・平安時代の遺物10	71	図99	鎌倉・室町時代の遺物3	119
図57	奈良・平安時代の遺物11	72	図100	鎌倉・室町時代の遺物4	120
図58	奈良・平安時代の遺物12	73	図101	鎌倉・室町時代の遺物5	121
図59	奈良・平安時代の遺物13	74	図102	江戸時代の遺構1	122・123
図60	奈良・平安時代の遺物14	75	図103	江戸時代の遺構2	124・125
図61	奈良・平安時代の遺物15	76	図104	江戸時代の遺構3	127
図62	奈良・平安時代の遺物16	77	図105	江戸時代の遺構4	128
図63	奈良・平安時代の遺物17	78	図106	江戸時代の遺物1	129
図64	奈良・平安時代の遺物18	79	図107	江戸時代の遺物2	130
図65	奈良・平安時代の遺物19	80			

## 1. 調査の概要

### 1) 調査の経緯

千葉県海匝地域整備センター（旧 八日市場土木事務所）から、千葉県匝瑳郡光町芝崎字水神地先で河川改修事業を計画し、平成14年5月22日付けで事業範囲5,700㎡の埋蔵文化財の有無及びその取扱いについての照会が光町教育委員会経由で千葉県教育委員会あて提出された。事業地内に所在する遺跡の取扱いについて、千葉県海匝地域整備センターと千葉県教育庁文化財課及び光町教育委員会との協議の結果、計画の変更が難しいことから、やむを得ず発掘調査を行って記録保存の措置を講ずることとなった。発掘調査及び整理作業は、千葉県海匝地域整備センターからの委託を受け財団法人東総文化財センターが実施した。

発掘調査及び整理作業の実施期間・職員・内容は以下のとおりである。

#### 発掘調査

平成14年度

期 間：平成15年2月7日から平成15年3月25日

職 員：調査課長 岸本雅人、主任調査研究員 道澤 明

内 容：上層本調査 1,900㎡

平成15年度

期 間：平成15年4月7日～平成15年7月11日 平成15年12月1日～平成15年12月22日

職 員：調査課長 蜂屋孝之、主任調査研究員 道澤 明

内 容：上層本調査 3,257㎡

#### 整理作業

平成16年度

期 間：平成16年6月1日から平成17年1月31日

職 員：調査課長 蜂屋孝之、主任調査研究員 道澤 明

内 容：水洗・注記から報告書刊行まで

### 2) 調査経過

芝崎遺跡のこの度の発掘調査は、平成15年2月から開始し、用地取得、排土の関係から調査区域を2つに分け、調査区域中央部から着手し、西へ発掘を進めていった。平成15年3月末までに、1,900㎡の調査を終了した。

平成15年4月からは3月に引き続き、残り西側部分の調査を5月末までに終了した。6月からは東半分の調査をするため、その箇所の表土を終了部分に移し、表土除去した所から遺構調査を進めた。しかし、この時点でも調査を着手できない用地が残ったため、そこを除外して調査を進めることにした。

6月中旬には光町生涯学習講座参加者による体験発掘を行い、1週間をかけて1軒の住居跡を発掘していただいた。

7月11日までに、これまでに調査可能な所はほぼ発掘し、用地取得が済んでないところを残して、一旦終了した。

平成15年12月になって、残りの用地が取得され調査可能となったことから、再びこちらの調査に入った。

これによって12月22日までに残り箇所の発掘をして、この事業による現地発掘調査を終了した。

発掘調査の整理作業は、平成16年6月から平成17年1月末まで行い、報告書作成までにいたる。

### 3) 発掘調査及び整理作業

芝崎遺跡の発掘調査ならびに整理では、東総文化財センター調査研究員の元、センター専属の補助員が作業に携わった。また、1週間ではあったが、光町生涯学習講座「古代ロマン発見」講座参加者20名が体験発掘とは言いながら、調査にご協力いただいた。

遺跡地上写真及び遺物写真は道澤が撮影し、空中写真は粟田商事に委託してラジコンヘリコプターを使って撮影した。

遺跡の測量は、地上遺構実測は補助員が行い、さらに細かい地形測量図については中央航業株式会社に委託して航空測量図面を作成、編集して報告書に使用した。

遺物の実測、トレースは補助員が行い、これを縄文時代ではセンター職員白崎智隆が、土師器・須恵器は同津田憲司が監修した。また、中世陶磁器は国立歴史民俗博物館助教授小野正敏氏に鑑定をお願いした。

自然化学分析をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その報告を3-5)に掲載した。

以下、氏名を記して慰労します(敬称略)。

#### 東総文化財センター調査補助員

飯田勝恵、石井圭子、石井チ子、石井睦子、石毛友子、伊藤あつ子、伊藤幸子、宇井末子、宇野文子、遠藤せい、大川義夫、大木和子、押尾栄子、角田照代、柏熊千恵子、加瀬秀幸、川口トシ江、川島幸子、川島弘子、佐藤恵美子、椎名美智子、椎名美代子、鈴木さとみ、塚本せつ、塚本治子、都築愛子、土屋登、林久子、林美津枝、藤井和子、傍土静太郎、水口キヨ、御簾納浩、宮内君代、宮負寛子、山口水雄。運転手兼任 森輝夫、北野新市。

#### 整理補助員

向後幸子、佐藤政代、菅原喜久美、高木みどり、高橋淳子、林りか。

#### 光町生涯学習講座「古代ロマン発見」講座参加者

市原勝、伊藤嘉映、鶴之澤正夫、大木洋子、大胡正寿、大胡博子、加藤松男、加藤スミ、越川毅、椎名聰子、土屋敦、長嶋千代美、野村俊二、野村加津子、樋口広三、深田隆明、福元省蔵、福元アイ子、道澤道子。



光町生涯学習講座参加者による体験発掘風景



## 2. 遺跡の環境

### 1) 遺跡の位置・地形

ここに報告する芝崎遺跡は、千葉県匝瑳郡光町芝崎字水神1262-1ほかに所在し、栗山川が下総台地の間から九十九里平野に流下する所の左岸の、砂州上の低地微高地に立地する。遺跡の標高は4mを測り、現在の地目は畑となっている。遺跡の東側あるいは栗山川を越えた南側は1m以上低くなって水田が広がり、北側には標高40m近い台地が迫っている。芝崎遺跡は北側の台地と南の栗山川、東の水田に挟まれていながら、東西2,000m、南北300mの広い範囲にわたっている。

### 2) 遺跡の歴史的環境

芝崎遺跡の周辺には、同じ低地微高地の砂州上にいくつか遺跡が確認されている。芝崎遺跡から東へ目を移すと、水田の中に中島遺跡、弥平野遺跡、三反田遺跡などがあり、これらを併せて芝崎低地遺跡群と呼ぶことにする。一方、北部台地上には芝崎台地上遺跡、同古墳群、虫生駒形遺跡、小田部遺跡、小川台古墳群、傍示戸遺跡の原始・古代遺跡、またこれと重なって芝崎城跡、田中砦跡、中の城跡、古城跡、駒形城跡、小田部城跡、傍示戸城跡、岩室砦跡、台城跡などの中世城郭群が分布する。また、栗山川流域には古くから独木舟がよく出土し、栗山川流域遺跡群として知られている。芝崎から栗山川を越えて西を眺めると、横芝町坂田城跡を間直に見ることができる。このようにこの地域は原始・古代から中世にかけての遺跡がひしめき合い、多くの人々が昔から集住したことが推察される。それは栗山川が下総国と上総国との国境に当たり、また、南から北へ向かう道筋にも当たっていたからであろう。またこの近辺を岩室郷と呼ばれ、ここから献上された麻布が正倉院に収められているという。つまり地政学的に要地であったばかりでなく、気候温暖で豊かな土地であったことから、ここに人々が集まってきたのであろうと思われる。

#### 図1 遺跡位置図上の主な遺跡

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1. 芝崎遺跡         | 縄文、奈良・平安、鎌倉・室町、江戸。 |
| 2. 中島遺跡         | 縄文、奈良・平安、鎌倉・室町。    |
| 3. 弥平野遺跡        | 縄文、江戸。             |
| 4. 三反田遺跡        | 縄文、江戸。             |
| 5. 芝崎虫生台地上遺跡    | 古墳、奈良・平安。          |
| 6. 芝崎城跡         | 室町                 |
| 7. 田中砦跡         | 室町                 |
| 8. 中の城跡         | 室町                 |
| 9. 古城(ふるんじょう)跡  | 室町                 |
| 10. 傍示戸城跡       | 室町                 |
| 11. 傍示戸遺跡       | 古墳、奈良・平安           |
| 12. 虫生・台駒形遺跡(城) | 縄文、奈良・平安、室町        |
| 13. 小田部城跡       | 室町                 |
| 14. 小田部遺跡       | 奈良・平安              |
| 15. 台城跡         | 室町                 |
| 16. 小川台古墳群      | 古墳                 |
| 17. 岩室砦跡        | 室町                 |
| 18. 小川台北遺跡      | 奈良・平安              |
| 19. 坂田城跡        | 室町                 |

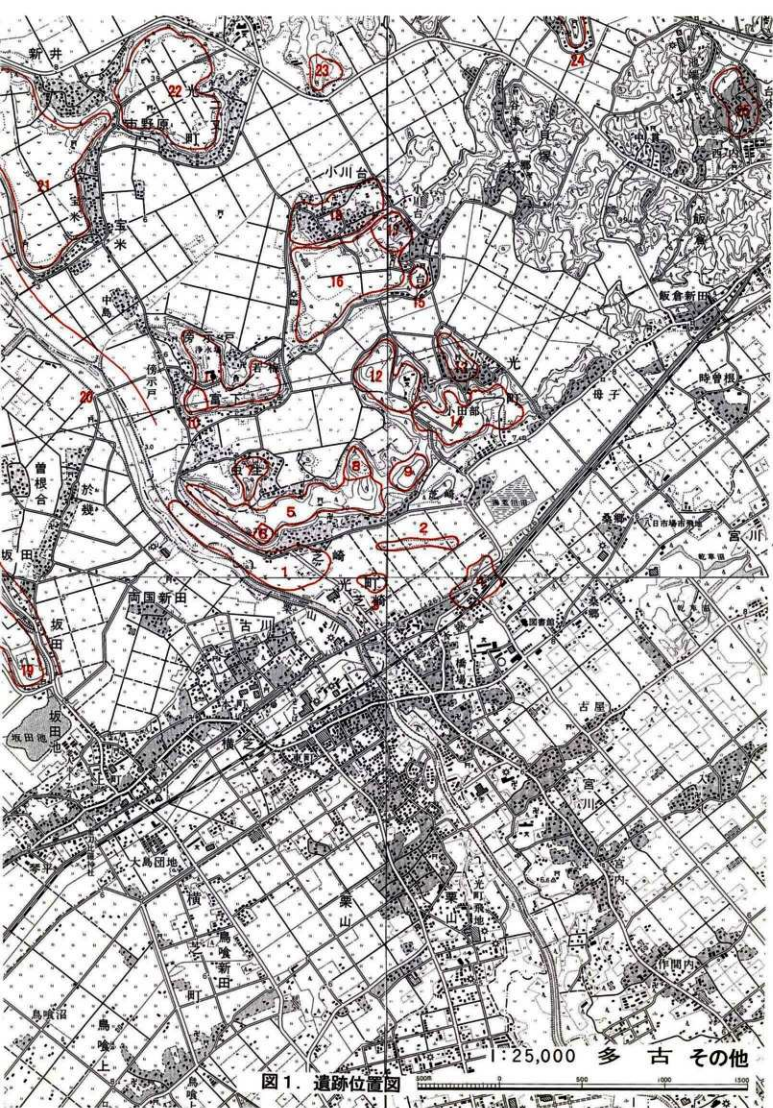


図1. 遺跡位置図

20	栗山川流域遺跡群	縄文
21	宝米遺跡	古墳、奈良・平安、室町
22	二又遺跡	古墳、奈良・平安
23	八石田遺跡	奈良・平安、室町
24	新城跡	室町
25	飯倉城跡	室町

### 3) 遺跡の地質

芝崎遺跡の現況は畑として利用されていたため、平均0.3mの耕作土が堆積し、その下に0.2~0.5mの黒色土が堆積し、その下に砂層が出てくる。この砂層が砂州の構成層に当たり、遺跡の地山層となる。砂層は場所によってさらさらに軟らかくなっている所があれば、鉄分が沈着して堅くなっている所もあり、後者は水が通った所であろう。また、調査区域の東部では、砂層中に粘土層が挟まれて堆積しているのが認められた。この粘土層が何に由来するか分析した所、各種火山ガラスが混じっているところから、風成2次堆積の関東ローム層であることが分った(分析の詳しい結果は後の自然科学分析に所収)。その地層断面観察図を下に示す。

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 赤褐色砂              | 5. 灰白色粘土 (砂が混じり、生痕あり) |
| 2. 灰色砂 (少し粗い)        | 6. 灰色砂 (灰白色粘土が混じる)    |
| 3. 暗灰褐色砂 (細かく少し堅い)   | 7. 灰色砂                |
| 4. 灰色砂 (粘土が混じり、生痕あり) |                       |

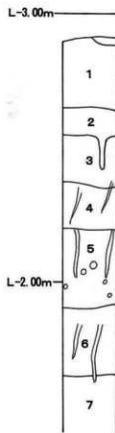


図2. 12E-75-8での地山砂層

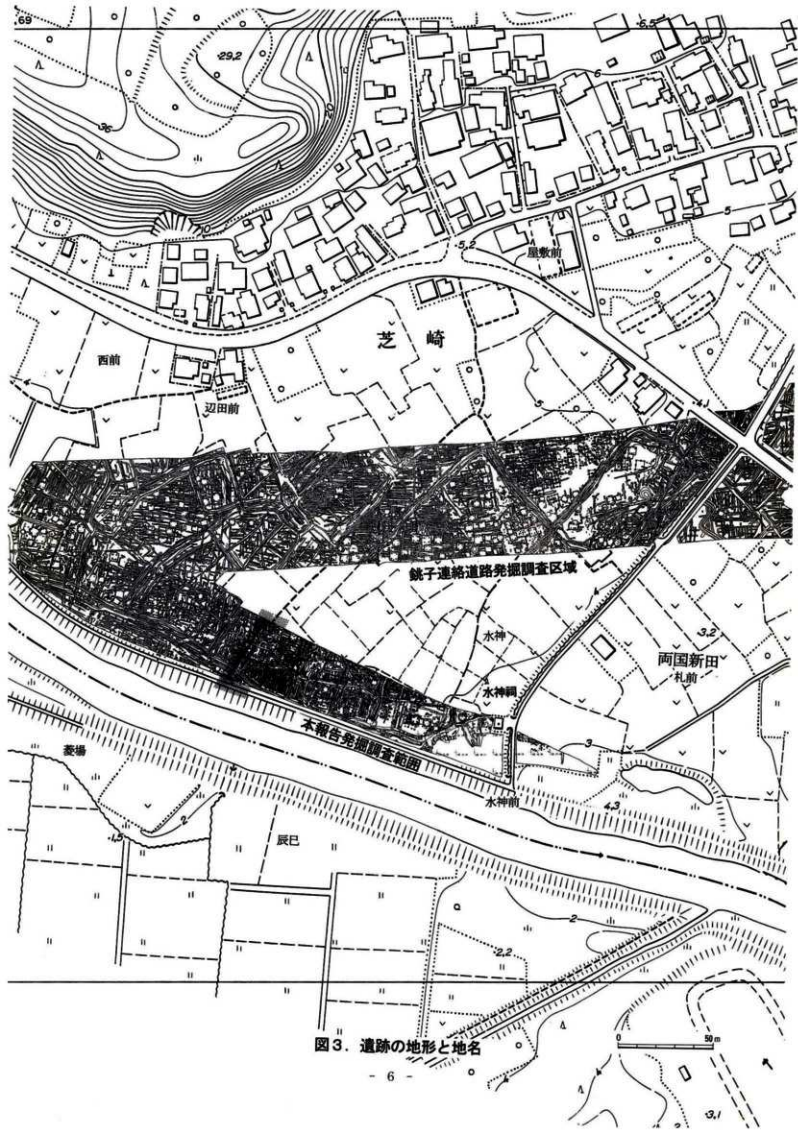


図3. 遺跡の地形と地名

### 3. 発掘調査の成果

今回の芝崎遺跡の調査区域は、栗山川沿いに東西200mの、南北最大幅35mの範囲で、5,157㎡を発掘調査した。その結果、古いものでは遺構は検出されなかったが縄文時代の土器片から、奈良・平安時代の集落跡や畑跡、西から延びる中世の溝、現在の畑地割り直下から出てきた近世の溝などが、調査区域全体から検出された。遺跡の東側には栗山川の河跡湖があり、調査区域の東部では地盤が低くなって栗山川の旧河道を検出し、遺構がなくなって遺跡の南東部の限界を確認した。

縄文時代では、主に中期から晩期にかけての土器片が、調査区域全体から散在して出土した。

奈良・平安時代の住居跡は全体的に散在し、住居跡同士が重なることは少ないが、半数近くが後世の遺構によって一部を失っていて、完全な形で検出したものは12軒である。また2軒は一部が調査区域外に出るため、全体を発掘できなかった。また同時代の掘立柱建物跡も散在して11棟を確認したが、中には柱穴の並びが不明確なものもあり、その数に変動があるかもしれない。畑跡は調査区域の中央部から西部に見られ、ほとんどが南北の畝方向で、耕作痕の溝が検出され、部分的に東西方向の耕作痕溝が見られる。ほかに調査区域中央部から奈良時代の溝を検出した。1条は畑跡の区画溝と思われるが、他の2条は分岐して曲折し、深さも一定しない。遺物は住居跡からの出土が多いが、他に奈良時代の溝からも多く出土した。

中世の遺構は溝のみであったが、西から延びる溝は緩やかな曲線を描き、掘り方が規則的でなく、西で検出された鎌倉時代のもと同時代と推定される。それに対して東部にある溝は、直角に近い角度で曲がり、底面が広く仕切を有して、掘り方が規則的であるところから中世後期の城跡に見られるような堀に似ている。この堀状の溝は東へ行くと穴が連続するものになり、これはおそらく底の仕切部分のみが残ったものと考えられる。つまりこれらの堀状の溝は、本来もっと深かったものと推定される。また、これらの堀状の溝の北側には水神祠があって、水神が祀られている。この水神がいつから祭られているかわからないが、この堀となんらかの関連があるか考えたい。遺物は陶磁器、銭貨、火葬骨片などが出土した。

近世の溝は、出土遺物のみでなく、溝の一部から1706年噴火の富士宝永火山灰が堆積していたことから、江戸時代中期にすでに存在していたことが確認できた。また、東部ではこの宝永火山灰を敷き詰めて路盤とした道跡を検出した。遺物のほとんどは陶磁器である。

このように芝崎遺跡の今回の発掘調査では、縄文時代から江戸時代までの遺構、遺物が出土し、北部の銚子連絡道路予定地部分の発掘調査とほぼ同様の内容であった。

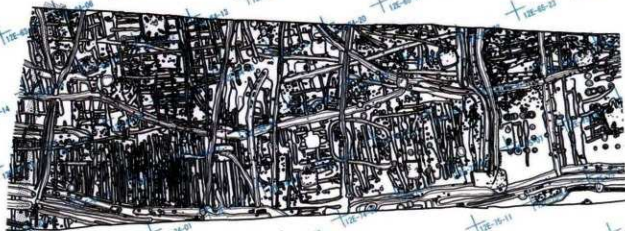
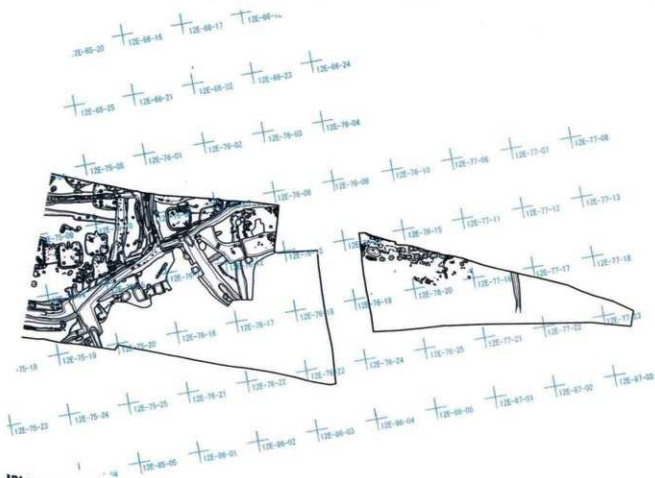


図4. 発掘調査した芝崎



跡の全体図と空中写真





- 早期 (攝永文系)
- 中期 (阿玉台・加曾利E式)
- 後期初頭 (稱名寺式)
- 後期中葉 (加曾利B式)
- 後期後葉 (曾谷・安行I・II式)
- 晚期 (安行III・山武地山・新浦・荒海)



攝永文系并草下層I式



阿玉台II b式



加曾利E I式



稱名寺I式



加曾利B I式



安行II式



安行III a式

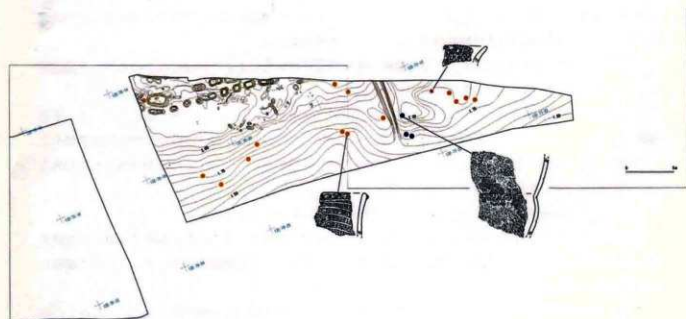
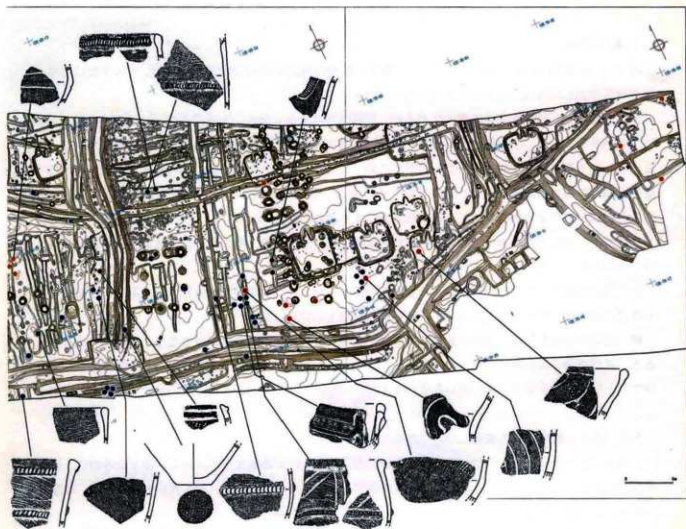


荒海式



圖5. 縄文時





代遺物分布

## 1) 縄文時代

縄文時代の遺構は検出されなかったが、中期から晩期の土器片が100点ほど出土した。その半数以上の土器片を分布として押さえたので、その分布から述べる。

縄文土器の分布は調査区域全体に広がるが、西端部では少なくなる。土器型式で示した各時期毎にさらにその分布を見ると、その偏在性が認められる。中期では中葉の阿玉台式から後葉の加曾利E式まで、12E-64・75の調査区域中央部から少し西寄りの所に多く分布する。後期初頭の称名寺式では、12E-75の調査区域中央部から東寄りの所に分布が集中する。後期中葉の加曾利B式から曾谷式では、12E-64・74・77など比較的散在する傾向がある。後期後葉安行1・2式から晩期では、12E-75の調査区域中央部に多く分布する。また1点のみであるが、早期燃糸文系土器と思われる土器片が、調査区域東端の12E-77-17から出土している。

次に縄文土器の出土層位であるが、ほとんどが地山砂層より上に堆積する黒色土層、あるいは奈良・平安時代の遺構覆土中から出土していて、砂層からは出土しなかった。

縄文土器片の大きさは、大きいもので一辺10cmを超え、中には復元実測が可能なほど器径が分るものもある。破片の多くは割れ口がほとんど摩滅してなく、接合するものも多々ある。このようなことから本遺跡で出土した縄文土器は、他の所から流れてきたのではなく、縄文人が当地で使い遺棄したものと推定する。

次に出土した縄文土器の概要について簡単に述べる。

1は口縁部の土器片で、口縁が外反し、口唇付近まで縦位の単節縄文が施されているところから、早期燃糸文系の土器と考えた。だとすれば芝崎遺跡群で出土した土器の中でも、最も古いものになり、本遺跡が立地する砂州の形成時期の推定なども含めて、検討を要する資料となろう。

2から9までは中期の土器で、中葉阿玉台Ⅱb式から加曾利Ⅳ式まであり、芝崎遺跡全体や中島遺跡からも多く出土している。また、近隣の虫生駒形遺跡では同時期の集落や貝塚が確認されていて、この時期の縄文人は、台地から低地に活動範囲を拡大していった時であろう。

10から16は後期初頭の称名寺式で、芝崎遺跡の他の調査区域からはあまり出土しなかったが、中島遺跡からは多数出土し、こちらとの関係が考えられる。

18から22は後期中葉の加曾利B式から曾谷式の土器で、芝崎遺跡では東端部で多く出土している。中島遺跡でも出土しているが芝崎遺跡ほど多くは出土していない。しかし、芝崎遺跡群の中で弥平野遺跡や三反田遺跡、同町桑郷など広い範囲で同時期の加曾利B式土器が出土していて、この時期の縄文人が低地を積極的に活動していたことが推定される。

23から26・39は後期後葉の安行1・2式で、芝崎遺跡群全体では少なくなる。

24から42は晩期の土器で、安行3式、山武姥山式、前浦式、荒海式などがある。晩期では栗山川を越えた西方台地に山武姥山貝塚があり、栗山川上流へ遡ると近年知られた志摩城跡があつて、これらの遺跡との関連が考えられる。

このように芝崎遺跡の今回の調査では、決して多くはないが様々な縄文土器が出土した。これはこの地が地理的な特徴から、各期の縄文人が行き交った十字路であったことが想定される。

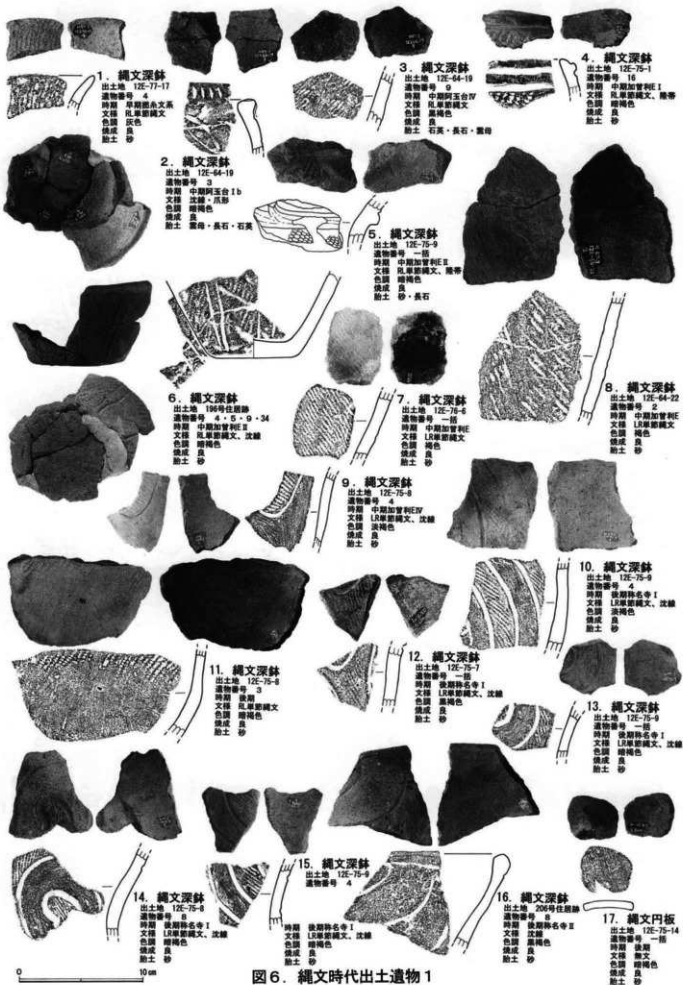


図6. 縄文時代出土遺物 1

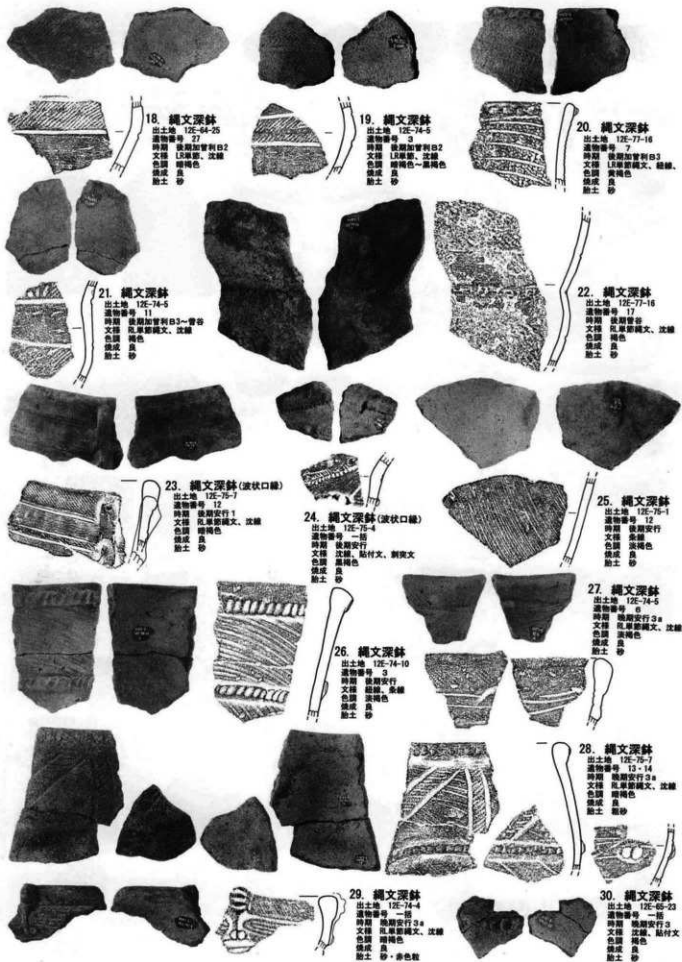


図7. 縄文時代出土遺物2

0 10cm

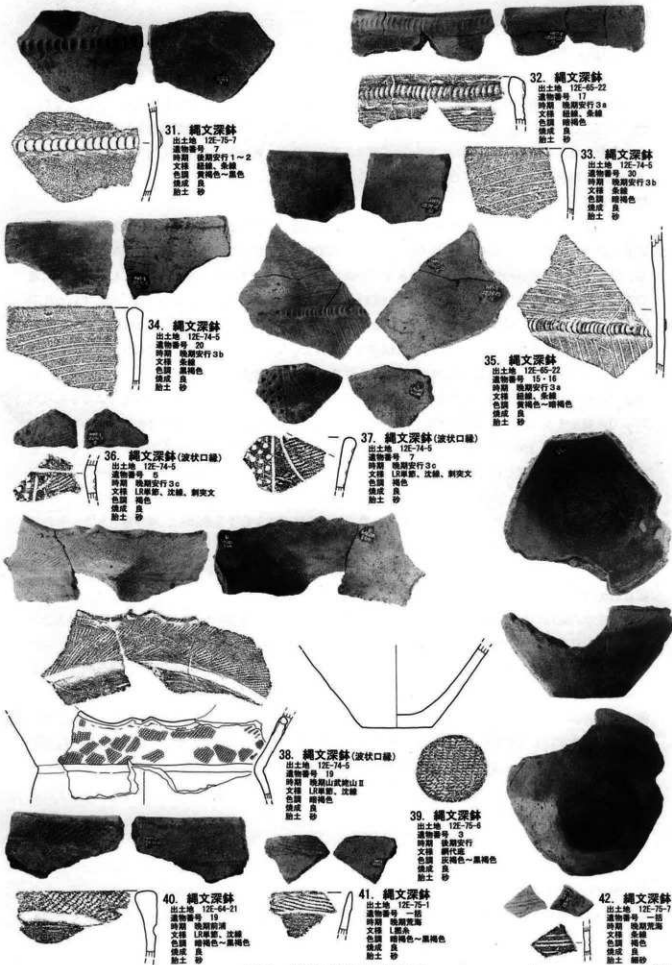


図8. 繩文時代出土遺物3

## 2) 奈良・平安時代

### (1) 遺構

本遺跡の発掘調査によって検出した遺構のほとんどが当該期のもので、この時期が遺跡の中心になる。遺構は竪穴住居跡が26軒あって、調査区域の中央部から西に散在する。掘立柱建物跡は11棟、中央部を中心に分布する。畑跡は西半分約3,000㎡に広がり、西に濃密で、東ほど薄くなって東半分で見られなくなる。以下、遺構の種類ごとにさらに詳しく述べる。

### 竪穴住居跡

この発掘調査では奈良・平安時代の竪穴住居跡は26軒検出し、うち2軒は一部が調査区域外に出、12軒が後世の遺構によって一部を失っていた。それでも当該期の住居形態が方形で、竈を有しているところから、ほとんどの住居跡の規模、主軸の向きなどの傾向を知ることができた。住居跡の多くは北壁中央に竈を有し、その主軸の角度は6°~27° 東に向いていて、ほぼ南北を示している。ほかに西に向いている住居跡が2軒、反対に東へ回転しているのが2軒ある。住居跡の規模では、一辺2.0~5.3mの間にあり、3mを越すと柱穴を有するようになるが、中には200号住居跡のように、一辺5mを有しながら柱穴が検出できなかった住居跡もある。床面の深さは0.1~0.5mと、住居跡によって差があり、深いと壁が崩れて傾斜している住居跡が多い。床面は砂地のため、硬く踏み固められた住居跡はなく、掘った砂地をそのまま平らに整地して床面とする(189・191号住居跡)か、掘って凸凹になった地山に他の土砂を埋めて整地して床面にした住居跡(188・196号住居跡)とがある。竈のほとんどは構築材に黒色土と砂を混ぜて作っていて、住居跡覆土とほとんど同じ色調、土質をしているが、硬くなっていることで識別できた。竈内壁及び天井部は赤変しているが、火床部はほとんど赤変していない。これは低地のため地面の水分が多いため、温度があまり上がらなかったことが考えられる。竈では住居跡以外から1基検出し、屋外竈とした。形態的にも内部が焼けている所から、竈として問題ないと思われるが、住居跡としての掘り込みや床面、柱穴は検出できなかった。図中、住居番号のカッコ内は調査時の検出番号である。

### 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は11棟検出されたが、先述したように不明確な柱穴並びのものがあって、さらに増えることも考えられる。規模では柱間1×1間(2.5×2.3m)の最小のものから、3×4間(6×9m)の大きいものまであり、一定しない。また、67号掘立柱建物跡のように変則的な柱並びであって、構造的にどのようになるか想定が難しいものもある。

掘立柱建物跡の主軸方向は、南北から10°~17° 東に向き、住居跡とほぼ共通しているものがほとんどで、住居跡と同時平行して存在していたことが想定される。柱穴の大きさでは、直径が1mを超えない比較的小さい掘立柱建物跡と、直径が1mを超す比較的大形の柱穴を有した掘立柱建物跡とがあり、出土遺物は少なく時期の決め手は少ないが、柱穴が小さいものは古く奈良時代、大形の柱穴は平安時代のものと推定される。

### 土坑

奈良・平安時代の土坑は、8基検出された。規模は1mを超えない小さいものから、3mを超す大きいものまであり、土坑の性格として様々なものがあると考えられる。75号土坑は楕円形であるが、掘り方が住居跡の様であり、83号土坑は底面に木炭を敷き詰められ、77号土坑からは焼土を検出した。また、78・

79・82号土坑は規模が1.5m前後、楕円形であることから墓坑と推定される。

## 溝

溝は奈良時代に当たるものが3条確認され、土器が多く出土したことから、当該期と断定できた。特に1号奈良時代溝からは北部先端から、覆土上部で土師器坏や甕・甔など11個体が出土した。いずれも潰れて割れた状態で、復元して完形になるものはないことから、投棄したものと思われる。この溝はこの先端部で深く、南へ行くにしたがって浅くなり、曲線を描いているが、何のために掘られた溝か見当がつかない。2号溝は1号溝から分岐する。

## 畑跡

畑跡は調査区域中央部から西で検出され、特に12E-63-19から64-16にかけて濃密に耕作痕の溝が確認された。この耕作痕溝から東西35m、南北15mの畑1枚分の区画が読み取れ、1つの畑跡の規模が確認できた。この畑跡の耕作痕溝方向はN-20°-Eで、住居跡等の主軸方向とほぼ共通する。溝の間隔は約1m、地山面での掘り込みは0.1mであるが、他の所では間隔1~2m、深さ0.1~0.3mと、場所によってまちまちである。この畑跡の東隣では東西方向に長さ6m程度の溝があり、またその東側では南北方向に溝が走るというように、隣同士の畑跡では溝方向が90°換わり、あたかもモザイク模様を成していた畑であった様である。

この耕作痕溝は上部に堆積する粘質の黒色土と砂とを混ぜるため、鋤で砂層まで連続的に掘り起こして耕した跡と考えられる。その推論のヒントは、地元で現在耕作している方から聴取した話で、「ここは土が粘質なため砂を客土し混ぜて耕し易くしている」とのことからである。また耕作痕溝は他の畑跡検出例から照らし合わせて、畝の溝として見る事ができる。つまり耕作痕溝が畝溝として捉え、この溝が確認された所を畑跡であるとした。芝崎遺跡では道路部分の調査も含めてほぼ全域でこの畑跡が確認され、そのほとんどは奈良・平安時代のもので、この時期の集落を含めた農村の姿が見えてきた。

## (2) 遺物

奈良・平安時代の遺物は、ほとんどが住居跡から出土した土師器・須恵器で、その当時の生活用具の基本の一部であったろうと思われる。また畑跡が検出された所から、農耕具の出土を予想したが、思ったほど出土せず、消耗が激しかったことと木製品が残る条件がなかったことによると考えられる。しかし、基石と思われる石製品や灯明具に使ったと思われる器が多く出土したりと、少し変わった遺物が出土したのも、本遺跡の特徴と言えよう。以下、出土遺物について少し触れることにする。

## 土師器

土師器の主要な器は、坏と甕、そして甔である。特に坏は形態の変化が大きく、この形態変化を主に取上げて、芝崎遺跡の奈良・平安時代の時期区分を図9のように示した。

**1期** 芝崎遺跡で最も古い形態で、底部が丸く、器面を丁寧に磨き上げているものが多い。先時期の名残と思われる高坏もある。甕では器厚が1cm以上あって、大形のものが多く、特に胴下部を捻撫で調整し、胎土に石英・長石・雲母を含んだ常総型と呼ばれるものがある。また特異な形態として、甔の形をして底部を有する甕がある。奈良時代前半のものと考えられている。

**2期** 須恵器を真似た轆轤引きで作られ底部が平らな坏が現れ、これをさらに磨き上げて赤彩したもの、内面を黒色にしたものもある。甕は大形のものはあるが、器厚は薄くなる。

**3期** 平底手握ねと轆轤引きの坏が並存するが、両者の器形は体部傾斜がほぼ同じで似てくる。轆轤引き

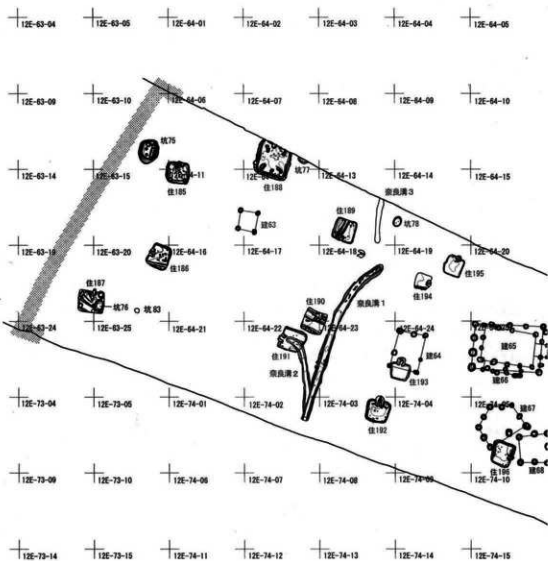
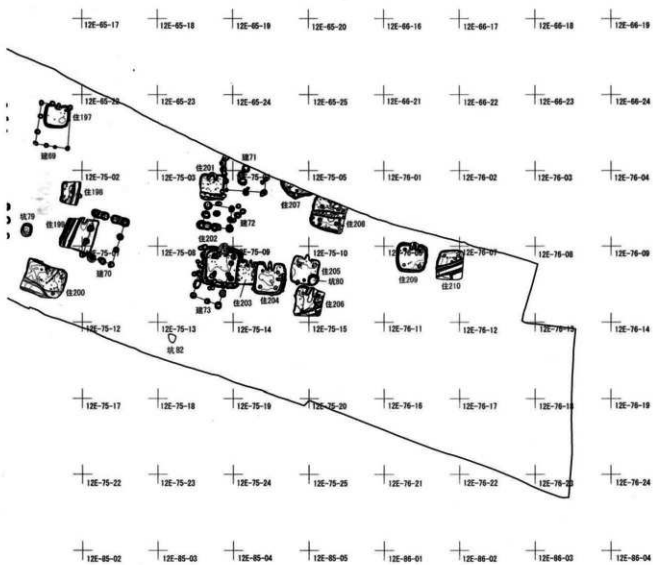


図9. 奈良・平安時代の





知跡以外に検出した遺構

坏の中でも内面を磨いて、黒色処理したものや、灯明具に使ったものもある。甕は小形・中形のものになり、篋削りした丸い胴部に、段を有した口縁の千葉で一般的な形が主になる。しかし、1点刷毛目の胴部に、内側に屈曲した口縁を持ち、胎土がきめ細かな甕があり、形態的な類別では京都長岡京で出土しているものに似る。

4期 手捏ね坏がなくなり、轆轤引き坏の体部はより開き、45°以上になる。甕は変化があまりない。

5期 坏は口縁が少し内湾するようになり、丸みを有する。甕は好例がない。

6期 坏の体部が全体的に丸みを有するようになり、底は糸で切り離した後、整形処理しなくなる。甕は中形で少し小さめになり、胴の丸みも弱くなる。またこの時期に鉢が加わる。

7期 坏は大きく丸みを有した碗形になって、底には高台が着くようになる。坏の内面はよく磨かれ、黒色にしたものがあるが、胎土は粗く、出来はあまりよくない。甕はあまり変化がない。

8期 本調査区域では検出されず、道路部分の調査区域で出土しているので、これを示した。坏は丸みを有した体部に強く外反した口縁で、底に脚の高い高台が付く。器厚は薄く、内面を磨いているが、胎土は粗い。甕は胴が丸いが全体形は不明。また、口縁が波状の鉢がある。いずれも胎土に砂が多い。

以上、芝崎遺跡から出土した土師器をもとに、奈良・平安時代を8つの時期に区分した。本調査区域で検出した26軒の住居跡から出土した土師器から、時期区分したため、区分に粗さはあり、精密でないことは認めるが、これによって本調査区域の奈良・平安時代の遺構が、長期にわたって存在したことが理解されよう。また住居跡によっては、複数の時期に亘る遺物を出土した組み合わせもあり、これが長期に存続した住居跡なのか、あるいは1家族が移転しながらも土器を持ち続けた結果（伝世）なのか、検討する必要があるが、図説明では複数時期で表示した。

#### 須恵器

須恵器では破片で多く出土し、復元できるものはほとんどなかった。しかし、この破片の中に2次利用した痕跡のあるものがあり、胎土密な破片の内面が光沢磨耗したものが数点確認した。これは転用硯としての利用が考えられている。また、192号住居跡からは大破片が出土、これの中央部にも磨耗痕が認められた。しかし、これは胎土が少し粗く、捏鉢としての利用が考えられる。

#### その他の遺物

鉄製品では鎌の一部、刀子・鎌・釘などが出土したのみである。砥石は住居跡から計7点出土し、鉄製品に対して多過ぎる。このことから本遺跡での鉄刃物の消耗が著しかったことが推定される。195号住居跡からは、よく整形された扁平石玉が2点出土した。白玉は石英、黒玉は珪質頁岩で、まさに墓石であろう。

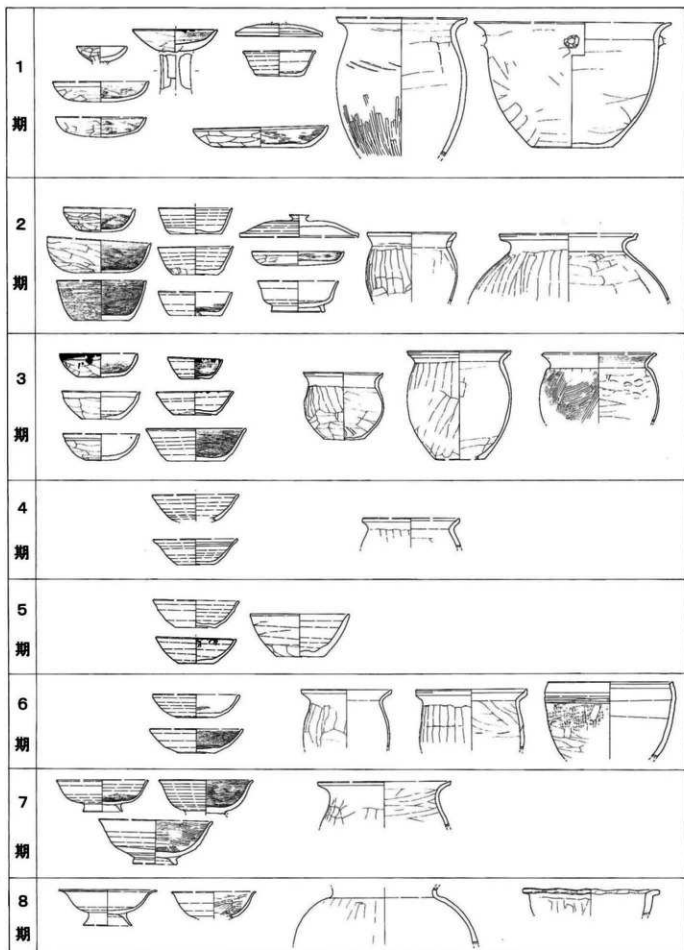
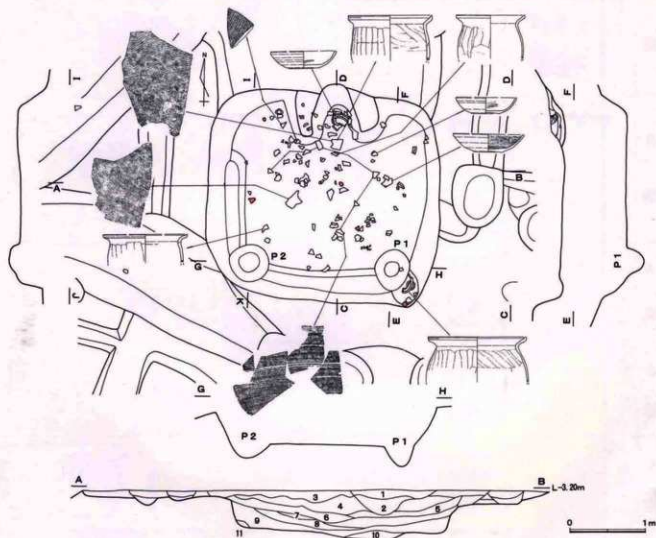


図 10. 奈良・平安時代の時期区分



### 185(12)号住居跡

時期 5期

位置 12E-63-15-64-11

規模 2.43×2.72m

主軸方向 N-7°-E

深さ 0.65m

床面 全体に敷石、中央部が窪む。

柱穴 南壁両側に、深さ0.2mの柱穴が2基。

甕(かまど) 北壁中央に位置し、両袖が良く残り、構築材は灰色砂。

遺物 覆土中に土師器片・壺片多数、甕に土師器壺。

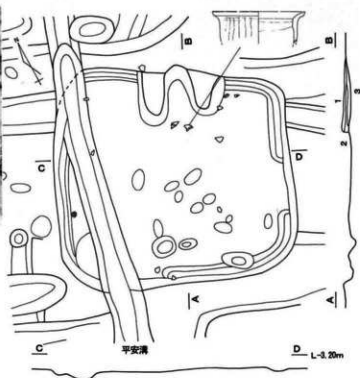
- | 層  | 層序   | 構成              |
|----|------|-----------------|
| 1  | 黒色土  | 砂・褐鉄混じる         |
| 2  | 黒色土  | 砂・褐鉄混じり、粘質      |
| 3  | 暗灰色土 | 砂・褐鉄混じる         |
| 4  | 黒灰色土 | 砂・褐鉄混じる         |
| 5  | 黒灰色土 | 砂・焼土・木炭少し・褐鉄混じる |
| 6  | 黒灰色土 | 砂・焼土・木炭・褐鉄混じる   |
| 7  | 黒色土  | 砂・焼土多・木炭混じる     |
| 8  | 黒灰色土 | 砂・褐鉄少し混じる       |
| 9  | 暗灰色砂 | 黒色土・褐鉄混じる       |
| 10 | 暗灰色砂 | 少し硬い            |
| 11 | 灰色砂  |                 |
| 12 | 暗灰色土 | 砂・褐鉄混じり、硬い      |
| 13 | 黒灰色土 | 砂多・焼土混じる        |
| 14 | 黒色土  | 砂・焼土混じる         |
| 15 | 暗灰色砂 | 焼土混じる           |

図 11 奈良・平安時代の遺構 1



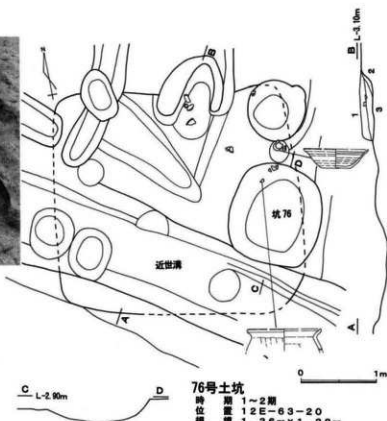
### 186(13)号住居跡

時期 3期  
 位置 12E-63-20  
 規模 2.72×2.98m  
 主軸方向 N-63°-W  
 深さ 0.1m  
 床面 中央部で少し低い  
 柱穴 未検出  
 遺物 北西壁中央に位置し、両袖が残る  
 遺層 堀周辺、壁際から土師器片・釜、須恵器破片  
 序 1. 灰色砂 黒褐色土・稀鉄混じる  
 2. 暗灰色土 稀鉄混じる  
 3. 灰色砂 褐色土・稀鉄混じる



### 187(14)号住居跡

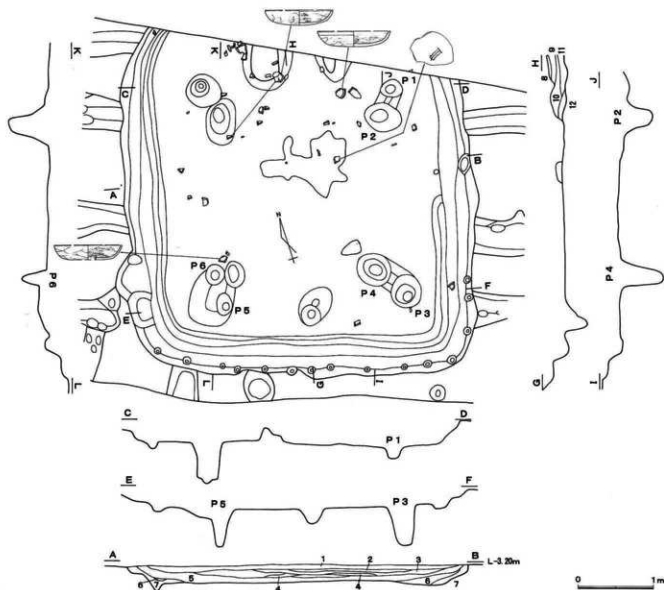
時期 3期  
 位置 12E-63-19・20  
 規模 2.92×3.24m  
 主軸方向 N-7°-E  
 深さ 0.13m  
 床面 大部分を埋跡・土坑、装代の溝に削られる  
 柱穴 北壁両隅、南西隅に浅い穴がある  
 遺物 北壁中央に位置し、両袖がわずかに残る  
 遺層 堀内に土師器破片、東部床面に土師器片  
 序 1. 暗灰色砂 黒褐色土・稀鉄混じる  
 2. 黒灰色土 砂・木炭混じる  
 3. 暗灰色砂 褐色土・稀鉄混じる



### 76号土坑

時期 1~2期  
 位置 12E-63-20  
 規模 1.36m×1.28m  
 主軸方向 N-24°-E  
 深さ 0.33m  
 遺物 特になし  
 特記事項 187号住居跡の下より検出

図 12. 奈良・平安時代の遺構 2



### 188(11)号住居跡

時期 1期  
位置 12E-64-7  
規模 >4.6×4.65m  
主軸方向 N-15°-E  
深さ 0.23m  
床面 中央部で低く、平埴

柱穴 対角線上に2基ずつ、深さ0.15~0.5mの主柱穴、兩壁  
脚中央に支柱穴があり、兩壁と東壁外側に壁柱穴ある。  
階 北壁中央にあるが、大平が調査区域外。  
遺物 覆土中から土師器杯・壺片、須恵器壺片、中央部床面  
より0.1m上に鉄土。  
特記事項 主柱穴が2基ずつあり、壁が段を有して拡張している  
ところから、建て替えている。

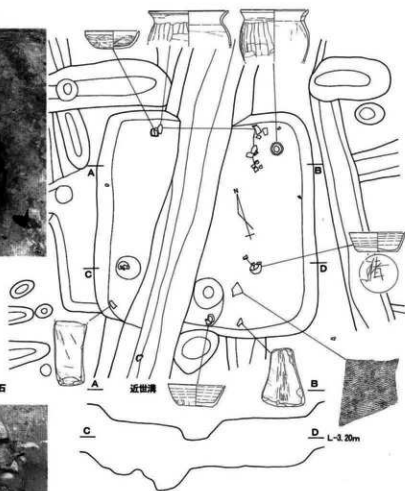
層序	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.
層	暗灰色土	暗灰色土	暗灰色土	暗灰色土	暗灰色土	暗灰色土	暗灰色土	暗灰色土
砂	砂・褐鉄混じる	砂・白色土混じる	砂・白色土・黒色粘土混じる	砂・黄土多く混じる	砂・褐鉄混じり、硬い	砂混じる	砂多く混じる	砂・黒色粘土混じる

図 13. 奈良・平安時代の遺構 3



### 189(10)号住居跡

時期 2期  
 位置 12E-64-13  
 規模 2.70×2.52m  
 主軸方向 N-18°-E  
 深さ 0.23m  
 床面 少し起伏であるが、ほぼ平坦。  
 柱穴 南西隅と南部中央に0.1mほどの穴がある。  
 遺物 近世溝が入り、消滅。  
 遺物 床面上から土師器坏・甕、須恵器甕片、転用礫、磁石



### 190(8)号住居跡

時期 5期  
 位置 12E-64-17・18・22・23  
 規模 2.76×2.83m  
 主軸方向 N-27°-E  
 深さ 0.20m  
 床面 煉瓦作風、中世溝が入り、中央部のほとんが消滅。  
 柱穴 検出せず  
 遺物 後代の遺構によって消滅  
 遺物 残存する床面上から、土師器坏・甕片、鐵燒鉢  
 層序
 

1. 黒灰色土 拘絞・砂混じる
2. 黒灰色土 砂・木炭混じる
3. 黒色土 砂混じる
4. 黒灰色土 砂・焼土混じる
5. 暗灰色土 砂多・木炭混じる
6. 黒色土 砂・焼土混じり、硬い
7. 灰色砂 黒色土混じる
8. 黒灰色土 砂・木炭混じり、硬い

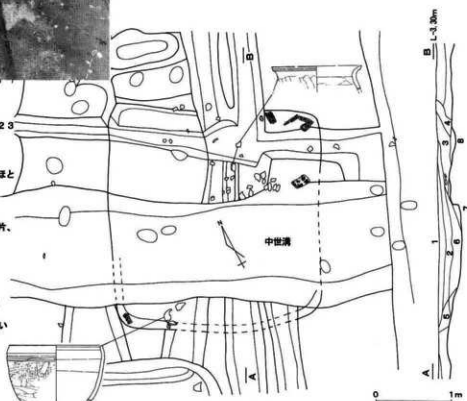
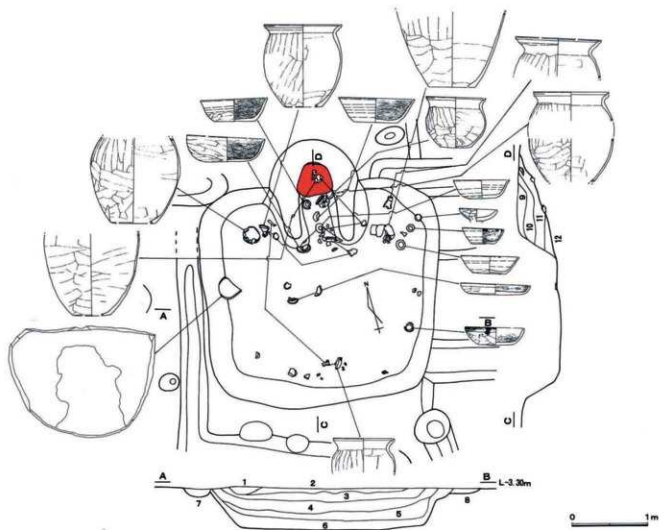


図 14. 奈良・平安時代の遺構 4



192(7)号住居跡

時期 1~3期  
 位置 12E-74-3  
 規模 2.62×2.66m  
 主軸方向 N-16°-E  
 深さ 0.52m、壁面崩れ、傾斜。  
 床面 少し軟弱であるが、平坦  
 柱穴 北西隅に深さ0.07mの穴がある  
 柱 北壁中央に位置し、両袖が良く残り、内壁が赤色になっている。  
 遺物 床面より少し浮いて土師器杯・壺・甕、須恵器甕大片、また甕から土師器杯・壺など多数。

- 層序
1. 黒色土 砂混じる
  2. 黒灰色土 砂混じる
  3. 暗灰色土 砂多・焼痕混じる
  4. 暗灰色土 砂・焼痕混じる
  5. 黒色土 砂多・木炭多く混じる
  6. 暗灰色土 砂多く混じり、硬い
  7. 黒灰色土 砂混じる
  8. 灰色土 黒色土混じる
  9. 黒灰色土 砂混じる
  10. 暗灰色土 砂多く、硬い、焼痕材
  11. 暗灰色土 砂・焼土混じる
  12. 暗灰色土 砂多く混じる

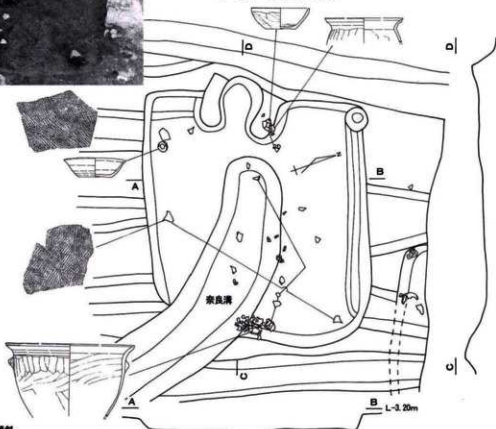
図 15. 奈良・平安時代の遺構 5





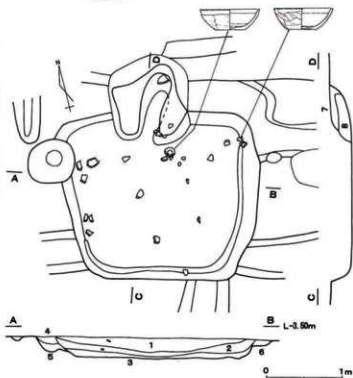
### 191 (9) 号住居跡

時期 3期  
 位置 12E-64-22  
 規模 3.00×2.72m  
 主軸方向 N-68°-W  
 深さ 0.20m  
 床面 少し軟弱であるが、平坦  
 柱穴 北西隅に深さ0.07mの穴がある  
 遺物 西壁中央に位置し、両袖がかろうじて残る  
 遺物 南西隅の床面上から土師器片、他は覆土中から土師器片・壺片・甌、須恵器壺片。



### 193 (6) 号住居跡

時期 3期  
 位置 12E-64-23・24  
 規模 2.00×2.33m  
 主軸方向 N-12°-E  
 深さ 0.28m、壁面少し崩れ、傾斜。  
 床面 中央部は硬く、平坦  
 柱穴 横出されず



遺物 北壁中央に位置し、両袖が良く残る。  
 遺物 床面より少し厚いて土師器片、他は覆土中から土師器片・壺片。

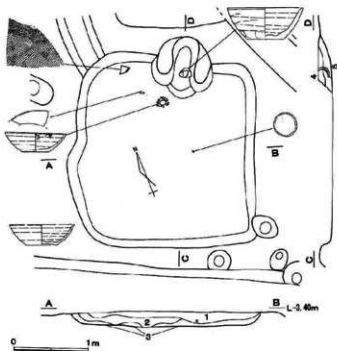
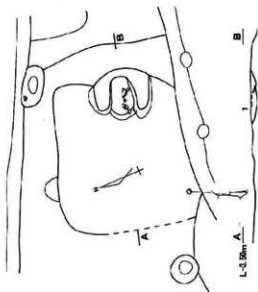
- 層序
1. 暗灰色土 砂・焼磁土混じる
  2. 黒灰色土 砂・黄褐鉄土混じる
  3. 黒灰色土 砂混じり、硬い。
  4. 暗灰色土 砂混じり、硬い。
  5. 黒灰色土 砂混じり、硬い。
  6. 暗灰褐色土 砂混じる。
  7. 暗灰色土 砂多く混じる。積層材。
  8. 黒灰色土 砂・焼土混じる

図 16. 奈良・平安時代の遺構 6



### 194(5)号住居跡

時期 4期  
 位置 12E-64-19  
 規模 2.00×1.70m  
 主軸方向 N-113°-E  
 深さ 0m  
 床面 中央部は低く、平坦  
 柱穴 検出されず  
 遺物 西壁中央に位置し、両袖がわずかに残る。  
 遺物 室内から土師器杯・壺片。  
 層序 1. 黒灰色土 砂・焼砂混じる。



### 195(4)号住居跡

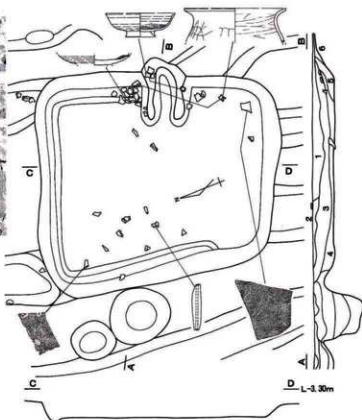
時期 4期  
 位置 12E-64-19  
 規模 2.35×2.20m  
 主軸方向 N-24°-E  
 深さ 0.21m  
 床面 全体に軟弱であるが、平坦  
 柱穴 検出されず  
 遺物 北壁中央に位置し、両袖が残る。  
 遺物 室内とその前から土師器杯、壺土中から基石2点。  
 層序 1. 黒灰色土 砂・焼砂混じる。  
 2. 黒灰色土 砂混じり、少し硬い。  
 3. 暗灰褐色土 砂多く混じり、少し硬い。  
 4. 黒灰色土 砂・焼砂混じる。  
 5. 暗灰色土 砂・焼砂混じる。

図17. 奈良・平安時代の遺構7



### 196(3)号住居跡

- 時期 7期  
位置 12 E-74-5  
規模 2. 60×2. 83m  
主軸方向 N-112°-E  
深さ 0. 30m  
床面 全体に硬く、平坦  
柱 検出されず  
柱穴 北壁中央に位置し、両軸が限る。構築材は黒灰色土。  
遺物 南の隅りや土中から土師器片、壺片。  
遺層 1. 黒色土 砂混じる。  
2. 黒灰色土 砂混じる。  
3. 暗灰褐色土 砂混じる。  
4. 黒灰色土 砂混じり、硬い。  
5. 黒灰色土 砂・焼砂混じる。  
6. 褐色土 少し赤い。



### 197(1)号住居跡

- 時期 2期  
位置 12 E-65-21  
規模 2. 56×3. 08m  
主軸方向 N-8°-E  
深さ 0. 35m  
床面 全体に硬く、平坦  
柱 北東隅に、深さ0. 1mの穴がある。  
柱穴 北壁中央に位置し、東側軸が直立柱穴に削られる。  
遺物 土中から土師器片、壺片。  
遺層 1. 暗灰色土 砂混じる。  
2. 暗灰色土 砂・焼砂混じる。  
3. 暗灰色土 砂・焼砂混じり、硬い。  
4. 黒灰色土 砂混じり、硬い。  
5. 暗灰色土 砂混じり、硬い。  
6. 暗灰褐色土 砂・焼砂混じり、硬い。  
7. 灰色土 砂混じり、硬い。  
8. 黒灰色土 砂・木炭混じる。  
9. 黒灰色土 砂混じる。  
10. 黒灰色土 砂・焼砂混じる。  
11. 黒色土 砂混じる。  
12. 灰色土 砂混じり、硬い、構築材。  
13. 暗灰色土 砂・焼土混じる。  
14. 暗赤灰色土 砂・焼土混じる。  
15. 黒灰色土 砂・焼土混じる。  
16. 灰色土 砂多く混じる。

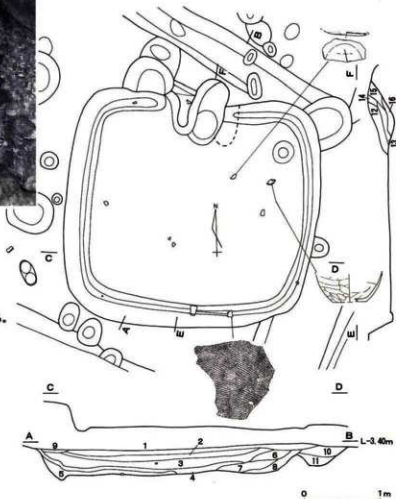
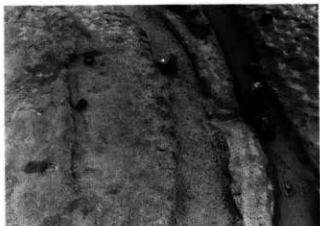
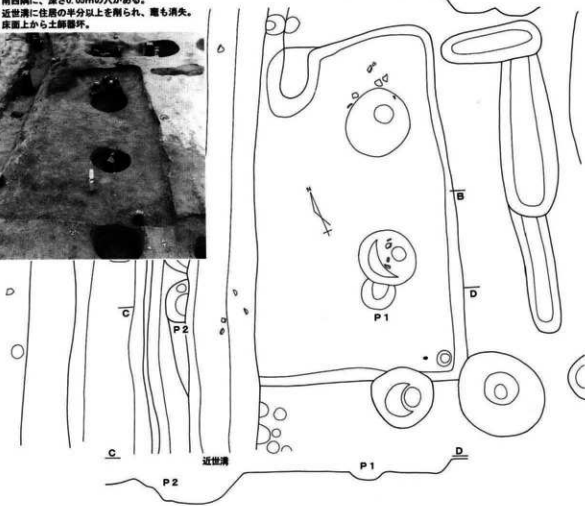
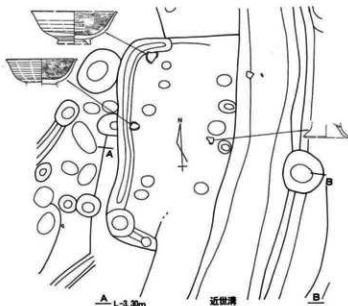


図 18. 奈良・平安時代の遺構 B



### 198(24)号住居跡

時期 7期  
 位置 12E-75-1  
 規模 2.78×>1.50m  
 主軸方向 N-11°-E  
 深さ 0.10m  
 床面 全体に軟弱で、平坦  
 柱穴 南西隅に、深さ0.05mの穴がある。  
 層 近世溝に住居の半分以上を削られ、竈も消失。  
 遺物 床面上から土師器片。



### 199(23)号住居跡

時期 1期  
 位置 12E-75-1・2・6・7  
 規模 4.48×>2.60m  
 主軸方向 N-19°-E  
 深さ 0.16m  
 床面 中央部で硬く、平坦  
 柱穴 南部で2基検出。他は後代の遺構に削られ、消失。

層 北壁中央に位置するが、近世溝に西半分を削られ、消失。竈も消失。

遺物 礫土から土師器片、甕片。  
 層序 1. 暗灰色土 砂混じり。  
 2. 暗灰色土 砂・縄紋混じり。  
 3. 暗灰色土 砂・縄紋混じり。硬い。

図 19. 奈良・平安時代の遺構 9



### 200(2)号住居跡

- 時期 1期  
 位置 12E-75-6  
 規模 >3.10×5.30m  
 主軸方向 N-20°-E  
 深さ 0.28m  
 床面 全体に軟弱、中央部で低くなる。  
 柱穴 南東部に、深さ0.3mの穴が1基ある。  
 土層 北壁中央に位置するが、近世溝に削られ、西側袖が残る。この袖に接して支脚出土。  
 遺物 礫土中から土師器片、瓦片、須恵器壁。  
 土層序  
 1. 黒灰色土 褐色砂・灰色砂混じる。  
 2. 暗灰褐色土 砂混じる。  
 3. 暗灰褐色土 黄色砂多く混じる。  
 4. 暗灰色土 砂・褐砂混じる。  
 5. 暗灰色土 砂混じり、硬い。  
 6. 黒灰色土 砂混じり、硬い。  
 7. 灰色砂  
 8. 暗灰色砂 硬い。

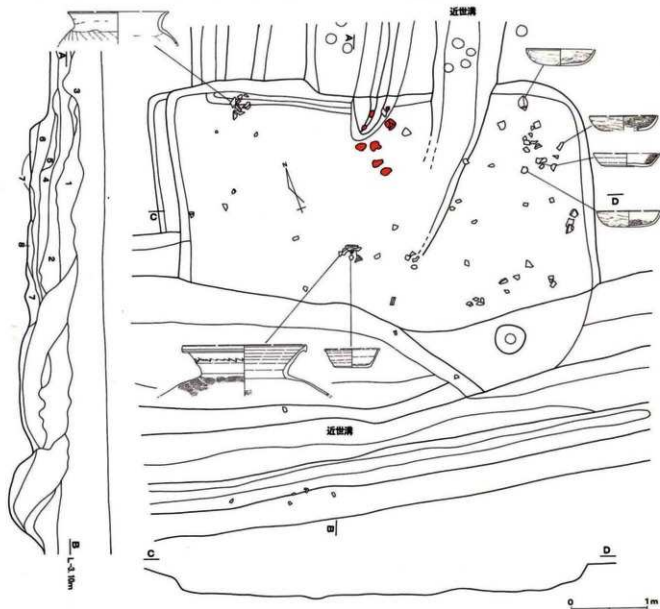
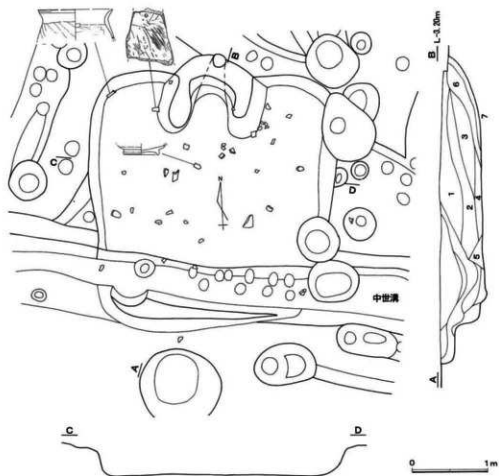


図 20. 奈良・平安時代の遺構 10



### 201 (22)号住居跡

- 時期 1~2期  
 位置 12E-75-3  
 規模 3.16 x 2.93m  
 主軸方向 N-6°-E  
 深さ 0.55m  
 床面 全体に硬く、平坦。南部に中世溝が入る。  
 柱穴 検出されず。東壁にかかる穴は71号竪立柱穴。  
 遺物 北壁中央に位置し、両袖・煙道部が良く残る。  
 遺物 覆土中から土師器坪・甍片、磁石、靱石。  
 層序 1. 暗灰色土 砂・褐鉄混じる。  
 2. 暗灰色土 砂混じり。  
 3. 暗灰色土 砂混じり、粘質で硬い。  
 4. 黒灰色土 砂混じり、硬い。  
 5. 暗灰色土 砂多く混じる。  
 6. 暗灰褐色土 砂混じり、粘質で硬い。竈構築材。  
 7. 黒色土 砂・木炭混じり、粘質で硬い。

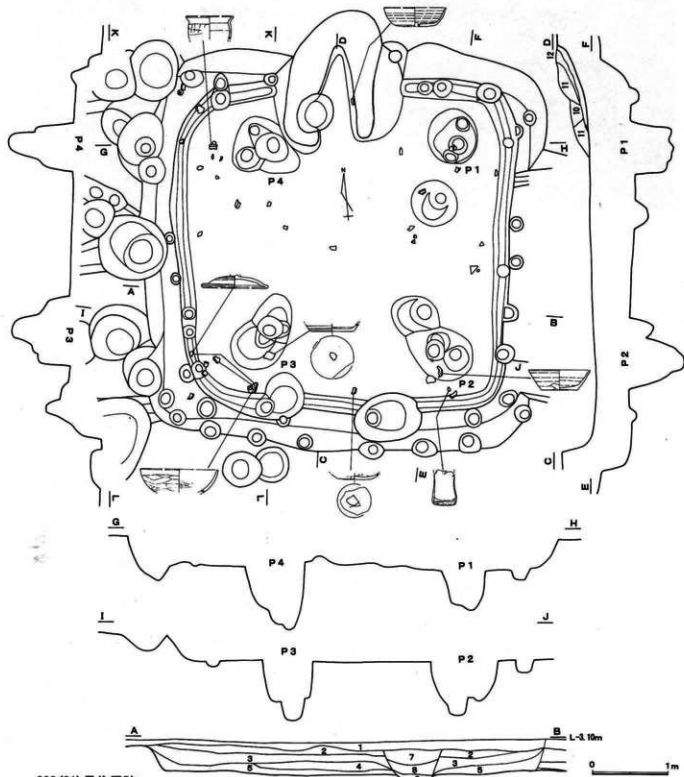


202号住居跡



202~204号住居跡(西側から)

図21. 奈良・平安時代の遺構11



202(21)号住居跡

時期 2~3期  
 位置 12E-75-8  
 規模 4.67×4.93m  
 主軸方向 N-5°-E  
 深さ 0.43m  
 床面 中央部で狭く、平埧。壁に沿って内側に周溝を検出。  
 柱穴 対角線上に3箇所ずつ掘った、深さ0.5~0.8mの主柱穴を  
 検出。また壁には壁柱穴がある。  
 備 北壁中央に位置し、両袖が残るが、西側が獨立柱穴に削られる

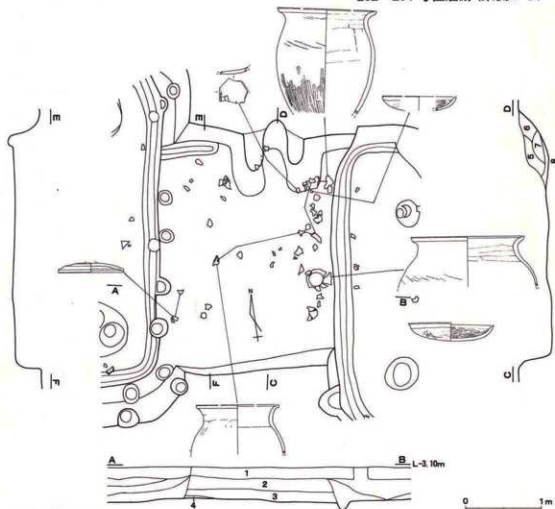
遺物 土器土から土師器片・壺片、須恵器蓋・壺片、磁石。  
 特記事項 柱穴、周溝から、2度の掘りで替えがあり、東側に203号  
 住居跡が重なり、本住居跡が後になる。

- 層序 1. 赤土 2. 暗灰色土 砂多く混じる。  
 3. 暗灰色土 砂・黒色土混じる。  
 4. 暗灰色土 砂・粘土・焼土混じり、硬い。  
 5. 暗灰色土 砂多く混じり、少し硬い。  
 6. 暗灰色土 砂・粘土混じる。  
 7. 灰色土 砂混じり、粘質で硬い。焼物残片。  
 8. 赤灰色土 砂・焼土混じる。焼天井部。  
 9. 黒色土 砂・焼土・灰混じる。

図 22. 奈良・平安時代の遺構 12



202~204 号住居跡(東側から)



203 (20)号住居跡

時期 1期  
位置 12E-75-9  
規模 3.02×3.00m  
主軸方向 N-5°-E  
深さ 0.42m  
床面 全体に硬く、平坦。  
柱穴 検出されず。

概 北壁中央に位置し、両袖が良く残る。  
遺物 床面上から土師器・土・土が1点ずつ、他は覆土中。  
特記事項 東西両側に後代の住居跡に挟まれる。

- 層序
1. 耕作土
  2. 暗灰色土 砂多く混じる。
  3. 暗灰色土 砂混じり、硬い。
  4. 暗灰色土 砂・褐鉄混じり、粘質で硬い。
  5. 暗赤灰色土 砂・褐鉄混じり、硬い。
  6. 暗赤灰色土 砂・粘土混じる。
  7. 黒灰色土 砂・粘土・灰混じる。

図 23. 奈良・平安時代の遺構 13





### 204(19)号住居跡

時期 2期  
 位置 12E-75-9  
 規模 3. 87×3. 87m  
 主軸方向 N-6°-E  
 深さ 0. 39m. 壁上部が崩れる。  
 床面 中央部で硬く、平坦。  
 柱穴 対角線上に4基. 深さ0.4~0.5mの主柱穴がある。また壁には壁柱穴がある。

層 北壁中央に位置し、両袖が残る。  
 遺物 西から土師器類. 物は埋土中. 土玉・鉄釘がある。  
 特記事項 西側に203号住居跡と重なり. 本住居跡が浅である。  
 層序 1. 耕作土 2. 暗灰色土 砂多く. 稀鉄混じる。  
 3. 暗灰色土 砂多・黒色土混じり. 硬い。  
 4. 暗灰色土 砂・黒色土混じる。  
 5. 暗灰色土 砂多く混じる。  
 6. 暗灰色土 砂混じり. 粘質で硬い。  
 7. 暗灰色土 砂・焼土・黒色土混じる。  
 8. 赤灰色土 砂・焼土・灰混じる。

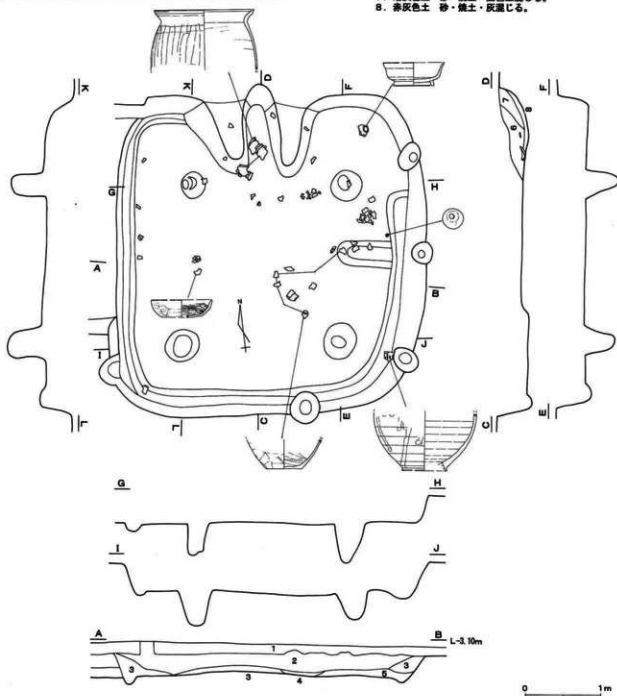
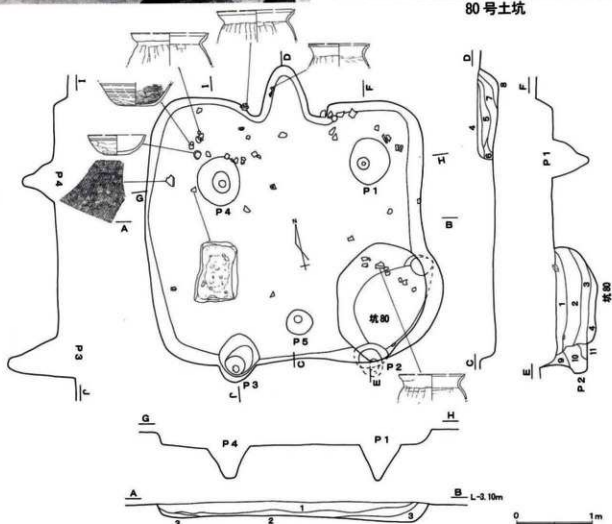


図 24. 奈良・平安時代の遺構 14



80号土坑



205(16)号住居跡

時期 3期  
位置 12E-75-9-10  
規模 3.30×3.47m  
主軸方向 N-10°-E  
深さ 0.20m  
床面 全体に少し敷割で、平坦。  
柱穴 北側2基は対角線上に、南側は壁に斜めに掘っている。  
深さは0.4~0.65m。また南側中央に支柱穴がある。

遺物 北壁中央に位置し、両軸は異なるが、燃焼部が外側に寄る。  
遺物 土中から土師器・土師器片・須恵器蓋・土師器片、磁石。

特記事項 南東部に80号土坑が重なる。土坑が浅。

- |    |                    |                    |
|----|--------------------|--------------------|
| 層序 | 1. 暗灰色土 砂多・塊状混じる。  | 7. 黒灰色土 砂・塊土・灰混じる。 |
|    | 2. 黒灰色土 砂多く混じり、硬い。 | 8. 黒灰色土 砂多・塊土混じる。  |
|    | 3. 灰色土 黒色土混じる。     |                    |
|    | 4. 灰色砂             |                    |
|    | 5. 暗灰色土 塊土多・砂混じる。  |                    |
|    | 6. 黒灰色土 砂混じる。      |                    |

80号土坑

時期 4期  
位置 12E-75-10  
規模 1.5m×1.4m  
主軸方向 N-23°-E  
深さ 1.25m  
遺物 土師器蓋、磁用磁、磁石

特記事項 205号住居跡南東隅に重なる

- |    |                     |
|----|---------------------|
| 層序 | 1. 黒灰色土(砂が多く混じる)    |
|    | 2. 黒灰色土(砂・木炭が混じる)   |
|    | 3. 暗灰色土(砂が多く混じる)    |
|    | 4. 黒灰色土(砂が多く混じり、壁い) |

図 25. 奈良・平安時代の遺構 15



### 206(17)号住居跡

- 時期 2期  
 位置 12E-75-9-10  
 規模 4.00×3.75m  
 主軸方向 N-7°-E  
 長さ 0.26m  
 床面 中央部で少し低く、平坦。  
 柱 対角線上に4基、高さ0.35~0.5mの主柱穴。  
 窟 北壁中央に位置し、両袖が良く残る。  
 遺物 覆土中から土師器片・瓦片。  
 特記事項 南東部を近世溝によって削られる。  
 層序  
 1. 暗灰褐色土 砂多・焼土混じる。  
 2. 黒灰色土 砂混じる。  
 3. 黒灰色土 砂多く混じり、少し硬い。  
 4. 暗灰色土 砂・焼土混じり、粘質。  
 5. 黒灰色土 砂・焼土・木炭砂混じる。  
 6. 暗灰色土 砂多・焼土混じる。

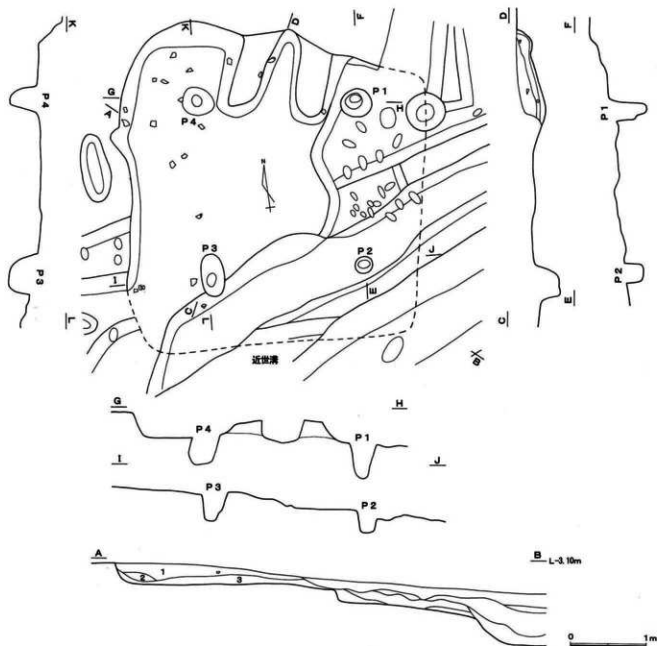
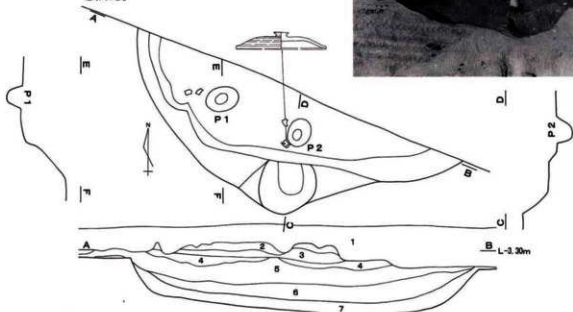


図 26. 奈良・平安時代の遺構 16

### 207(18)号住居跡

時期 2期  
位置 12E-75-4  
規模 >3.50m  
主軸方向 N-4°-E  
深さ 0.69m 壁が崩れて傾斜。  
床面 中央部で少し窪く、窪む。  
柱穴 壁近くに2基、深さ0.2mの柱穴検出。主柱と支柱穴と思われる。



遺物 壱土中から土師器片・壺片、須恵器片。  
特記事項 住居跡のほとんどが北側の調査区域外にある。  
層序 1. 耕作土 2. 黒色土 砂混じり。  
3. 黒灰色土 砂混じり。  
4. 黒灰色土 砂・焼土・木炭混じり。  
5. 暗灰色土 砂・焼土混じり。  
6. 暗灰色土 砂多く混じり、硬い。  
7. 暗灰色土 砂多・焼土混じり、硬い。



### 210(26)号住居跡

時期 3期  
位置 12E-76-6  
規模 >3.00m  
主軸方向 N-6°-W  
深さ 0.18m  
床面 全体に軟弱で、凹凸がある。  
柱穴 北側対角線上に2基、深さ0.3~0.35mの主柱穴がある。他は木炭痕か。  
壙 検出されず。  
遺物 壱土中から土師器壺片。特に壙内版と思われる壺あり。  
特記事項 南側半分を近世溝に削られ、消滅。

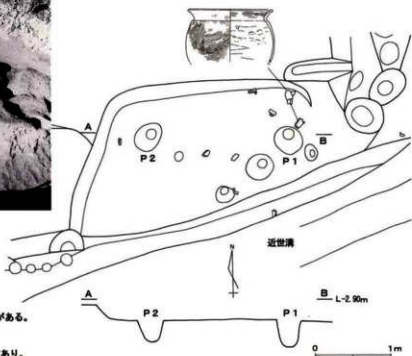


図 27. 奈良・平安時代の遺構 17



### 208(15)号住居跡

時期 2期  
 位置 12E-75-5  
 規模 >4.10x>4.30m  
 主軸方向 N-12°-E  
 深さ 0.33m  
 床面 中央部で少し低く、平坦。  
 柱穴 対角線上に4基、深さ0.35~0.77mの主柱穴があり、また壁際に壁柱穴がある。

遺物 北壁中央に位置し、両軸がわずかに見える。  
 遺土中から土師器杯・壺片、須恵器壺片、鉄鏃・刀子、中央部東西に中世溝、東側を近世溝が走る。

- 特記事項
- 層序
1. 暗灰色土 砂多く混じる。
  2. 暗灰色土 砂多く混じり、粘質で硬い。
  3. 暗灰色土 黒色土少し混じる。
  4. 暗灰色土 砂多く混じる。
  5. 黒色土 砂・焼土混じる。
  6. 黒灰色土 砂・焼土混じる。
  7. 黒色土 砂・焼土混じり、粘質。
  8. 黒灰色土 砂・焼土混じる。
  9. 暗灰色土 砂多く混じる。

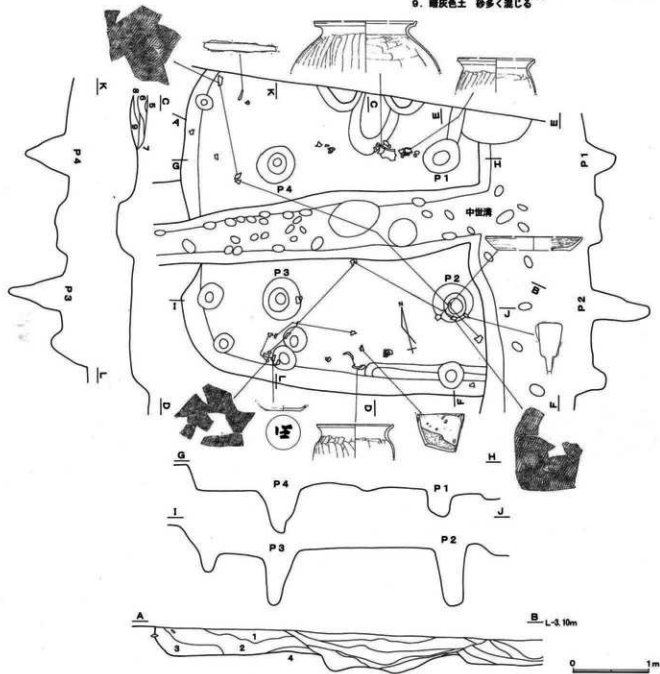


図28. 奈良・平安時代の遺構 18



### 209 (25)号住居跡

- 時期 2期  
 位置 12E-7.5-1.6  
 規模 3.48×3.82m  
 主軸方向 N-6°-E  
 深さ 0.21m  
 面 全体に少し硬く、平坦。  
 穴 対角線上に4基、深さ0.4~0.55mの主柱穴がある。  
 柱 北壁中央に位置し、両袖が良く残り、内部に横土堆積。  
 遺物 壁土中から土師器片・瓦片、須恵器破片、燧石・磁石。  
 遺層 序 1. 暗灰色砂 黒色土混じる。  
 2. 暗灰色砂 黒色土少し混じる。  
 3. 近年の掘り起こし。  
 4. 暗灰色砂  
 5. 暗灰色土 横土混じる。  
 6. 横土 暗灰色土混じる。  
 7. 黒灰色土 横土・灰混じる。

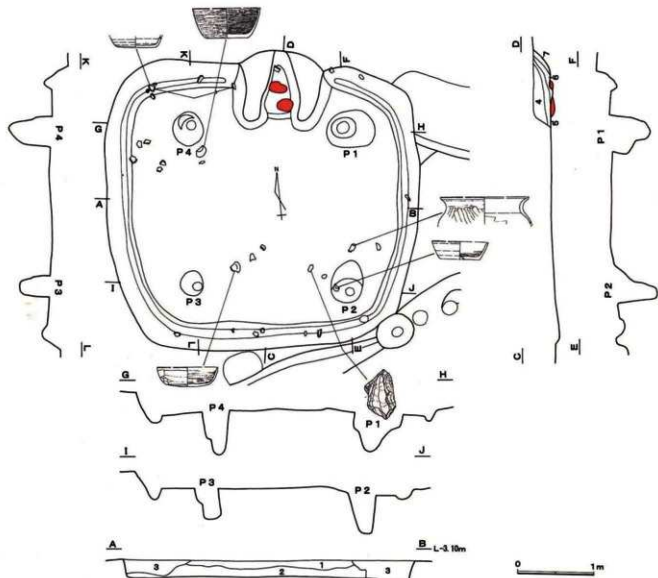
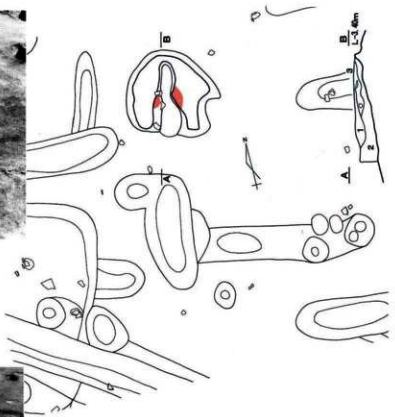


図29. 奈良・平安時代の遺構19



**屋外カマド**

時期 4期  
 位置 12E-64-18  
 規模 奥行3.1m、幅1.06m  
 主軸方向 N-10°-E  
 深さ 0.3~0.6m  
 遺物 土師器片・壺片  
 特記事項 カマド前面には床面、掘り込みが確認できなかった。



**63号掘立柱建物跡**

時期 2期か  
 位置 12E-64-12  
 規模(柱間) 桁行1間(2.5m)、梁行1間(2.3m)  
 主軸方向 N-11°-E  
 深さ 0.34~0.7m  
 柱穴径 0.65~0.7m  
 遺物 特になし  
 特記事項

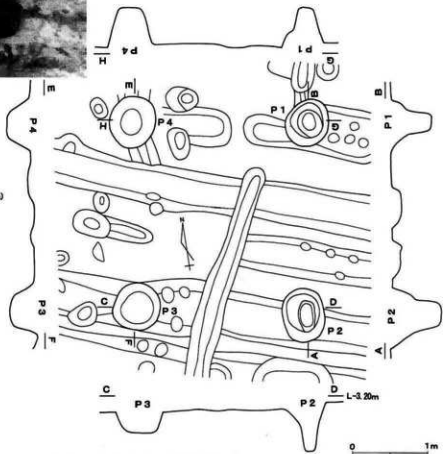


図30. 奈良・平安時代の遺構20



### 64号独立柱建物跡

時期 2期か  
 位置 12E-64-24  
 規模(柱間) 桁行3間(1.7m)、梁行2間(1.8m)  
 主軸方向 N-15°-E  
 深さ 0.4~0.8m  
 柱穴径 0.5~0.8m  
 遺物 物なし  
 特記事項 153号住居跡、中世溝によって3基の柱穴を失う。

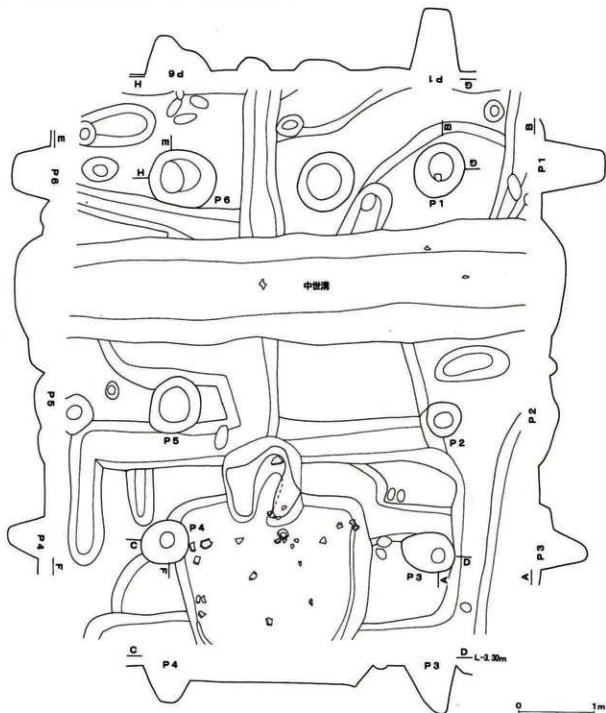
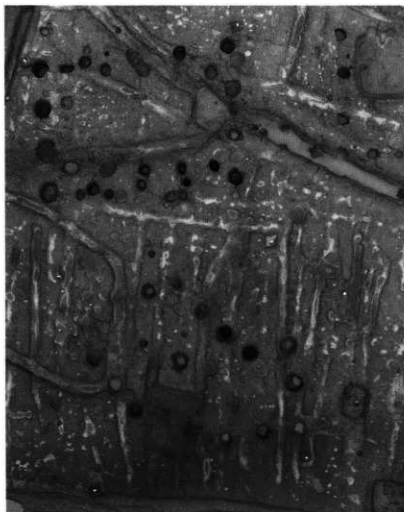


図 31. 奈良・平安時代の遺構 21





65～66号掘立柱建物跡（西側から）



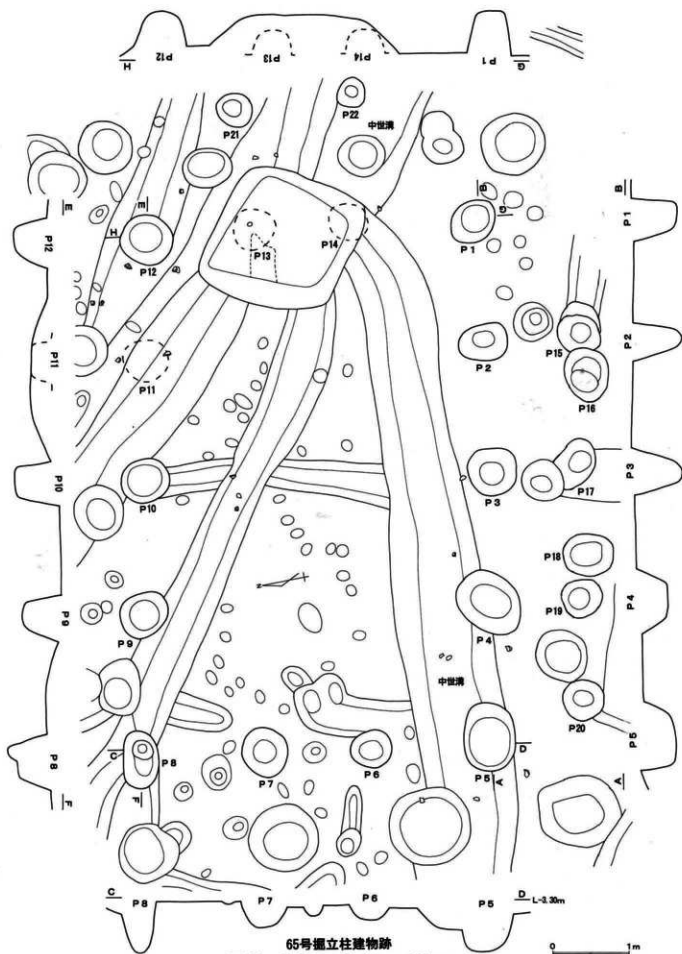
**65号掘立柱建物跡**

時期 1期か  
位置 12E-64-25  
規模(柱間) 桁行4間(1.75m)、梁行3間(1.6m)  
主軸方向 N-100°-E  
深さ 0.2~0.7m  
柱穴径 0.6~0.9m  
遺物 特になし  
特記事項 東側と南側に応柱らしき柱穴がある。

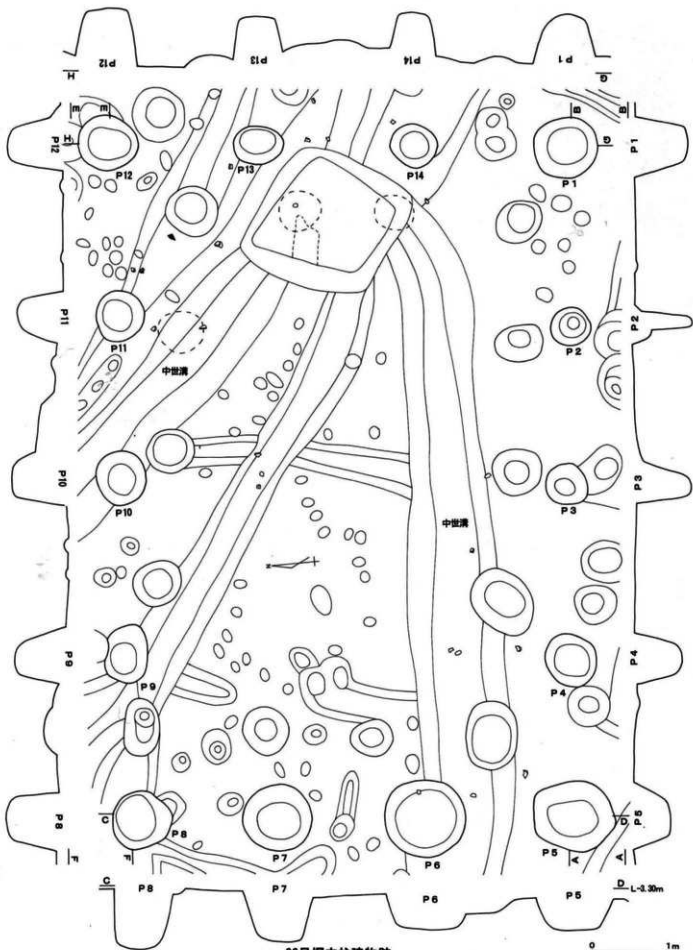
**66号掘立柱建物跡**

時期 2期か  
位置 12E-64-25  
規模(柱間) 桁行4間(2.25m)、梁行3間(2.0m)  
主軸方向 N-95°-E  
深さ 0.5~0.8m  
柱穴径 0.5~1.05m  
遺物 特になし  
特記事項 65号掘立柱建物跡の建て替えか。

65～69号掘立柱建物跡空中写真



65号掘立柱建物跡  
 図 32. 奈良・平安時代の遺構 22



66号獨立柱建物跡  
 図 33. 奈良・平安時代の遺構 23



**67号掘立柱建物跡**

時期 2期か  
 位置 12E-74-5  
 規模(柱間) 桁行2間(1.80m)、梁行2間(2.25m)  
 主軸方向 N-54°-W  
 掘さ 0.3~1.0m  
 柱穴径 0.6~1.05m  
 遺物 特になし  
 特記事項 柱穴が五角形に並び、どのような構造か不明。

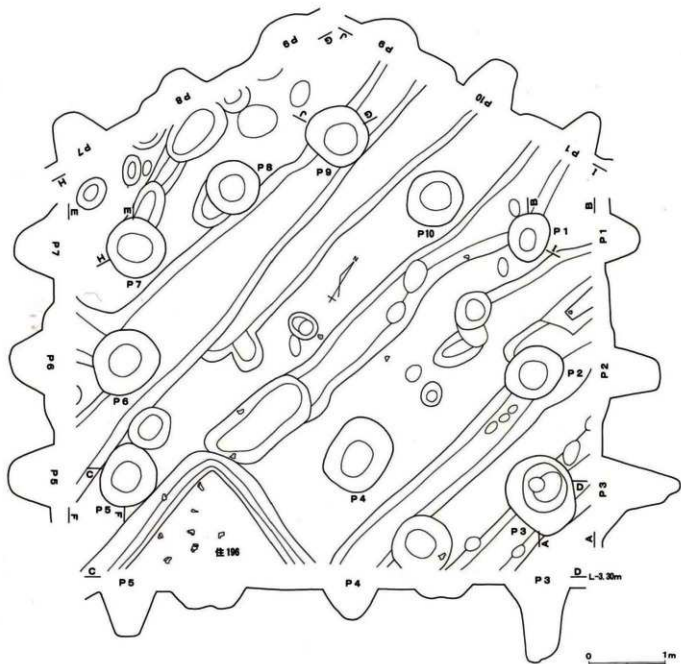
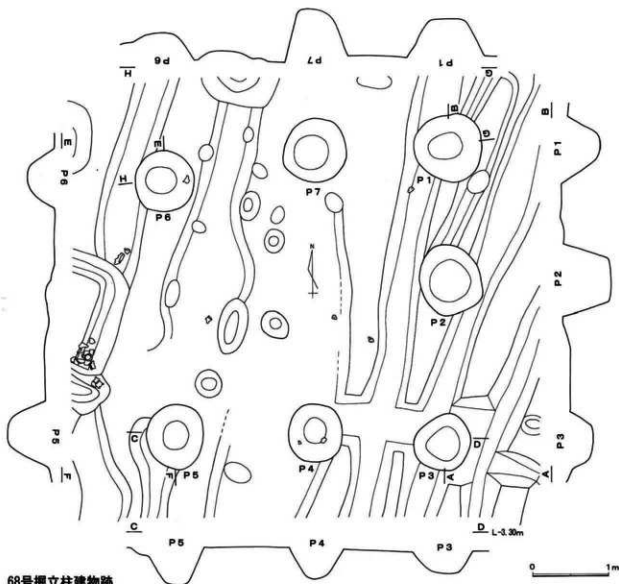
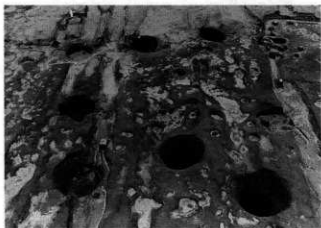


図 34. 奈良・平安時代の遺構 24



68号掘立柱建物跡

時期 第2期か  
 位置 12E-74-5  
 規模(柱間) 桁行2間(2.00m)、梁行2間(1.80m)  
 主軸方向 N-2°-W  
 深さ 0.35~0.7m  
 柱穴径 0.75~0.9m  
 遺物 物なし  
 特記事項 西側の中間柱穴がなく、この桁行が少し詰まる。

図 35. 奈良・平安時代の遺構 25



69号獨立柱建物跡

時期 3期か  
 位置 125-65-21  
 規模(柱間) 桁行3間(1.7~2.1m)、梁行2間(1.2~1.7m)  
 主軸方向 N-11°-E  
 深さ 0.2~0.4m  
 柱穴径 0.75~0.9m  
 遺物 特になし  
 特記事項 197号住居跡に重なり、東側は江戸溝に附られる。

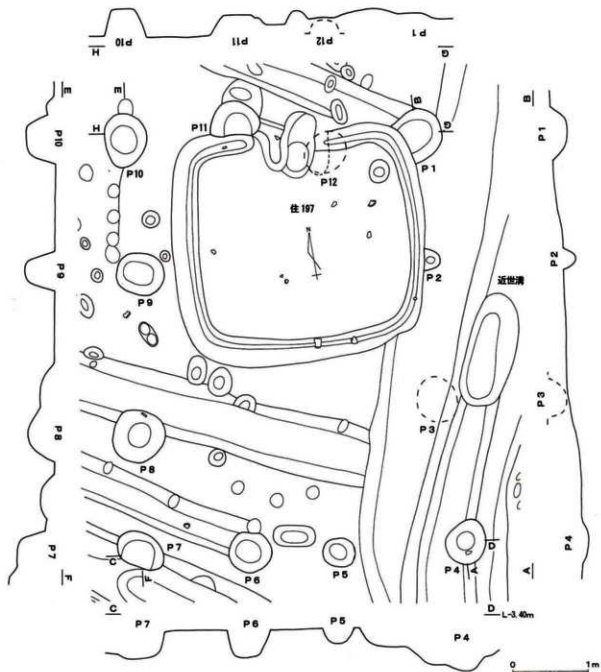


図 36. 奈良・平安時代の遺構 26



### 70号掘立柱建物跡

時期 4期か  
 位置 12E-75-2-7  
 規模(総幅) 桁行3間(1.9m)、梁行3間(1.3m)  
 主軸方向 N-17°-E  
 深さ 0.4~0.75m  
 柱穴径 0.7~1.2m  
 遺物 北側柱穴から土師器片出土  
 特記事項 西側で199号住居跡に重なり、北側柱穴が布張り状に2基ずつ狭いで覆っている。  
 層序 1. 暗灰色土(砂が混じる)  
 2. 黒灰色土(砂が混じる)  
 3. 暗灰色土(砂が多く混じる)  
 4. 黒灰色土(砂が多く混じる)  
 5. 暗灰色土(褐色砂が多く混じる)  
 6. 灰色砂(黒灰色土が混じる)  
 7. 暗灰色土(褐色砂・黒灰色土が混じる)

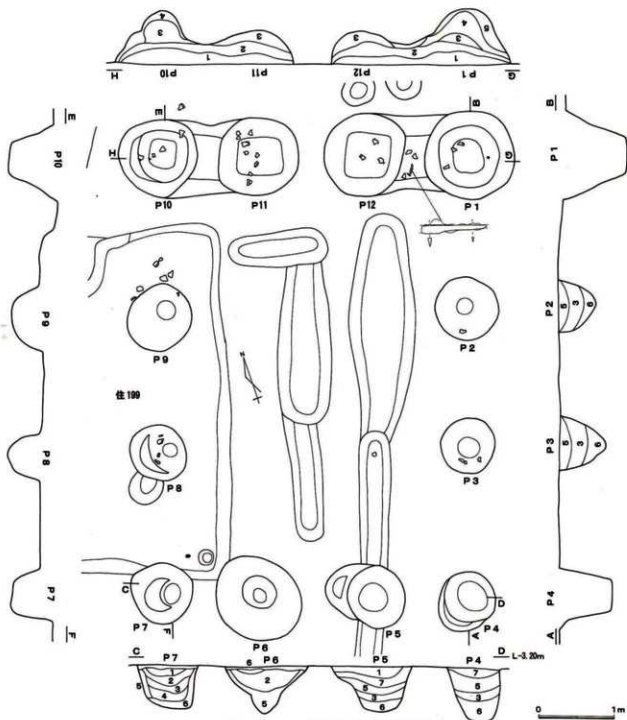


図 37. 奈良・平安時代の遺構 27



### 71号掘立柱建物跡

跡 跡 2基が  
 位置 12E-75-3-4  
 規模(柱間) 桁行2間(2.8m)、梁行2間(2.78m)  
 主軸方向 N-4°-W  
 深 さ 0.4~0.8m  
 柱 穴 径 0.6~1.0m  
 遺 物 周辺から土師器等出土  
 特記事項 此柱建物跡と思われるが、複数の柱穴が重なり、柱並びが不明。

- 層 序
1. 黒色土(砂が混じる)
  2. 黒灰色土(砂が混じる)
  3. 黒灰色土(砂が多く混じる)
  4. 暗灰色土(砂が混じる)
  5. 暗灰色土(砂が多く混じる)

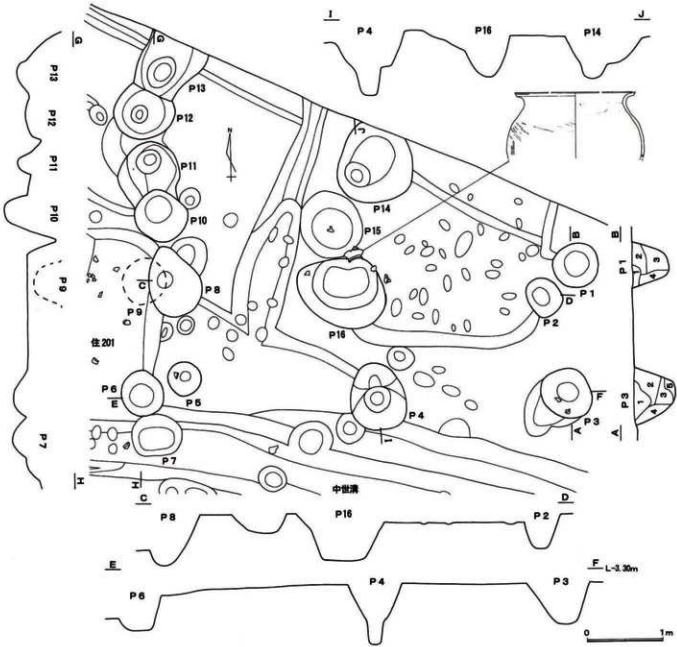


図 38. 奈良・平安時代の遺構 28





### 72号掘立柱建物跡

時期 4期か  
 位置 12E-75-3  
 規模(柱間) 桁行2間(1.4m)、梁行2間(1.8m)  
 主軸方向 N-10°-E  
 深さ 0.45~0.7m  
 柱穴径 0.7~1.2m  
 遺物 特になし  
 特記事項 掘立柱建物跡と思われるが、柱間が一定していない。

- 層序
1. 暗灰色土(耕作土)
  2. 暗灰色土(砂・雑草が混じる)
  3. 暗灰色土(砂が多く混じる)
  4. 暗灰色土(砂が混じる)
  5. 暗灰色砂
  6. 暗灰色砂(黒色土・雑草が混じる)
  7. 暗灰色砂(黒色土が混じる)
  8. 暗灰色砂(黒色土が混じり、硬い)
  9. 灰色砂
  10. 黒色土(砂が混じる)

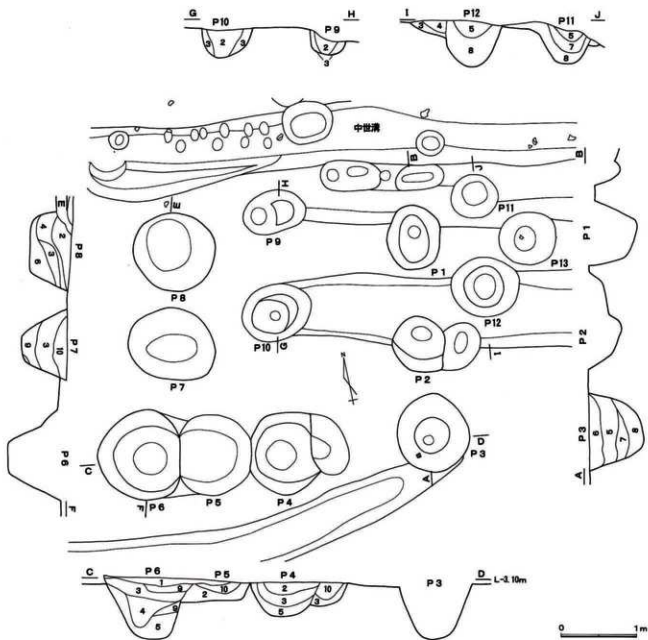
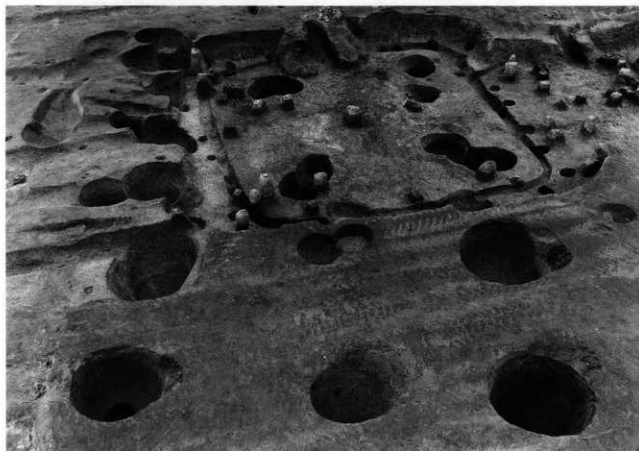


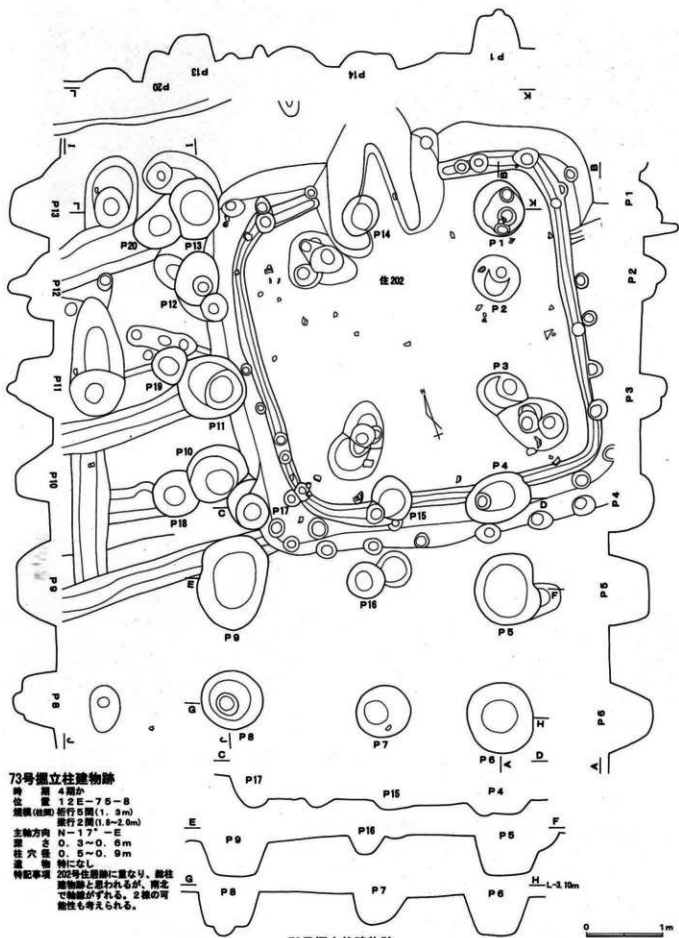
図 39. 奈良・平安時代の遺構 29



73号掘立柱建物跡(南側から)



70~73号掘立柱建物跡空中写真



**73号獨立柱建物跡**

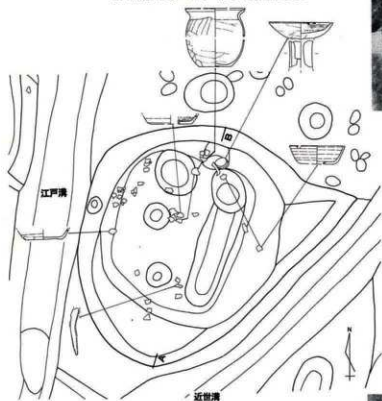
時期 4期か  
 位置 12E-75-8  
 規模(柱間) 縦行5間(1.3m)  
 横行2間(1.8~2.0m)  
 主軸方向 N-17°-E  
 長さ 0.3~0.6m  
 柱穴径 0.5~0.9m  
 遺物 特になし  
 特記事項 202号位置跡に重なり、総柱建物跡と思われるが、南北で軸線がずれる。2棟の可能性も考えられる。

73号獨立柱建物跡

図40. 奈良・平安時代の遺構30

### 75号土坑

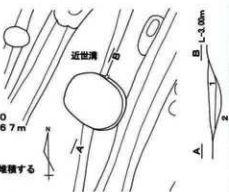
時期 1~2期  
 位置 12E-63-10  
 規模 3.3m×2.75m  
 主軸方向 N-18°-E  
 深さ 0.7m  
 遺物 土師器片・壺片・鉄釘  
 特記事項 住居跡の掘り込みに似る  
 層序 1. 暗灰色土(砂・木炭・焼土・雑骸が混じり、粘質)  
 2. 暗灰色土(砂・木炭・焼土・雑骸が混じる)



3. 暗灰色土(砂・木炭が混じる)
4. 暗灰色土(砂が混じる)
5. 暗灰色土(白色砂が混じる)
6. 暗灰色土(木炭が多く、砂が混じる)
7. 暗灰色土(黄色砂が混じる)
8. 暗灰色土(砂・木炭が混じり、堅い)
9. 暗灰色土(砂が多く混じる)

### 83号土坑

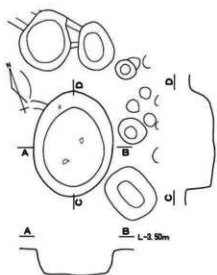
時期 4期か  
 位置 12E-63-20  
 規模 0.78m×0.67m  
 主軸方向 N-56°-E  
 深さ 0.15m  
 遺物 土師器片  
 特記事項 底一面に木炭粒が堆積する  
 層序 1. 暗灰色土  
 2. 木炭



### 77号土坑

時期 1期  
 位置 12E-64-7  
 規模 1.47m×-m  
 主軸方向 N-75°-W  
 深さ 0.15m  
 遺物 土師器片・壺片  
 特記事項 竈状の掘り込みに似る。  
 層序 1. 暗灰色土  
 2. 黒色土(焼土・木炭が混じる)

図 41. 奈良・平安時代の遺構 31



#### 78号土坑

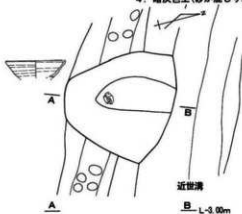
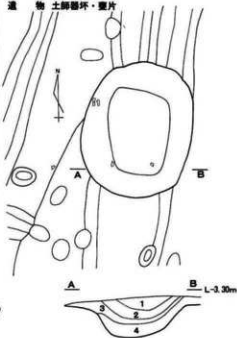
時期 4期  
位置 12E-64-14  
規模 1.4m×1.05m  
主軸方向 N-20°-E  
深さ 0.3m  
遺物 土師器坏・甕片



#### 79号土坑

時期 1~2期  
位置 12E-75-1  
規模 1.8m×1.43m  
主軸方向 N-7°-E  
深さ 0.5m  
遺物 須恵器甕片

特記事項  
層序 1. 暗灰色土(砂が多く、木炭粒が少し混じる)  
2. 灰色土(褐色砂が混じる)  
3. 暗灰色砂(暗褐色土が混じり、堅い)  
4. 暗灰色土(砂が混じり、堅い)



#### 82号土坑

時期 4期  
位置 12E-75-13  
規模 1.46m×1.45m  
主軸方向 N-20°-E  
深さ 0.44m  
遺物 土師器坏  
特記事項 北面を江戸溝に附られる

0 1m

図42. 奈良・平安時代の遺構 32



1号奈良時代溝

階 1階  
 位置 12E-64-18・23  
 規模 幅0.65m、長23.0m  
 主軸方向 N-20°56'-E  
 深 さ 0.2~0.4m  
 遺 物 土師器類・灰・壺・瓶  
 遺跡を区画する溝か  
 層 序 1. 雑灰色土(砂が多く、木炭粒が少し混じる)  
 2. 灰色土(褐色砂が混じる)  
 3. 雑灰色砂(暗褐色土が混じり、重い)

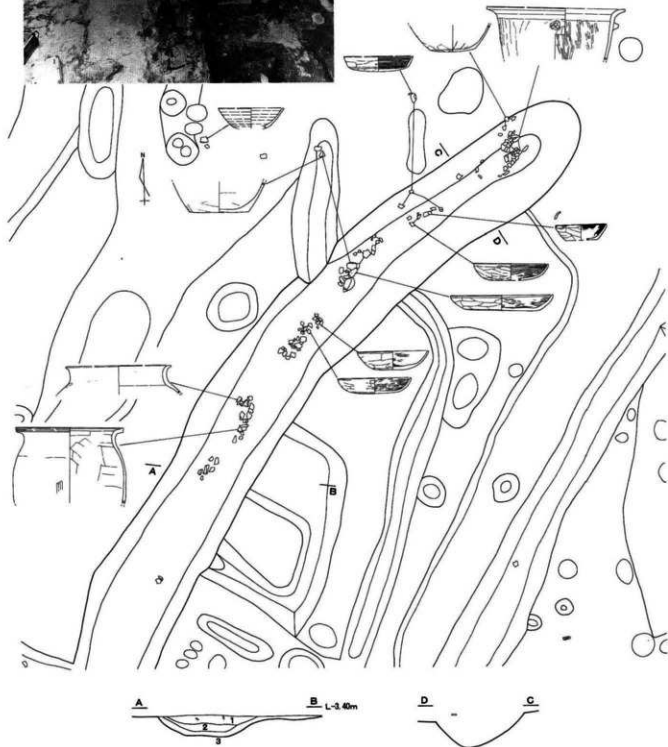


図 43. 奈良・平安時代の遺構 33



分岐する1・2号奈良時代溝



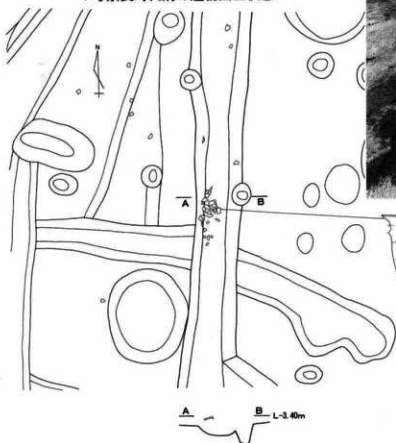
1号奈良時代溝北部先端



1号奈良時代溝の遺物出土状態

**2号奈良時代溝**

時期 1期  
位置 12E-64-22  
規模 幅0.5m、長10.0m  
主軸方向 N-8~47°-W  
深さ 0.2m  
遺物 土師器・土師器片  
特記事項 1号奈良時代溝から分岐する



3号奈良時代溝の遺物出土状態

**3号奈良時代溝**

時期 1期  
位置 12E-64-13  
規模 幅0.63m、長6.6m  
主軸方向 N-4°-E  
深さ 0.2m  
遺物 土師器  
特記事項 埋跡を区画する溝

図 44. 奈良・平安時代の遺構 34



12E-64-16 周辺の畑跡



12E-63-20 周辺の畑跡

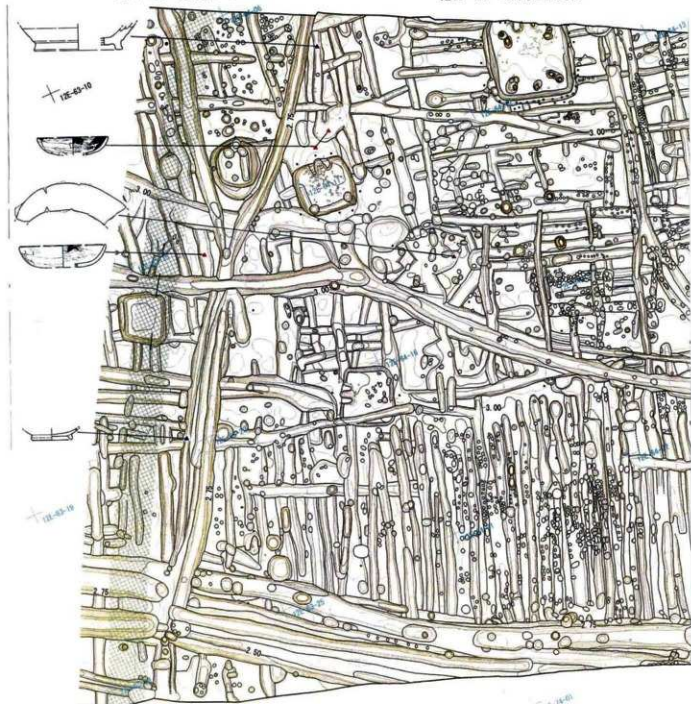


図45. 奈良・平安時



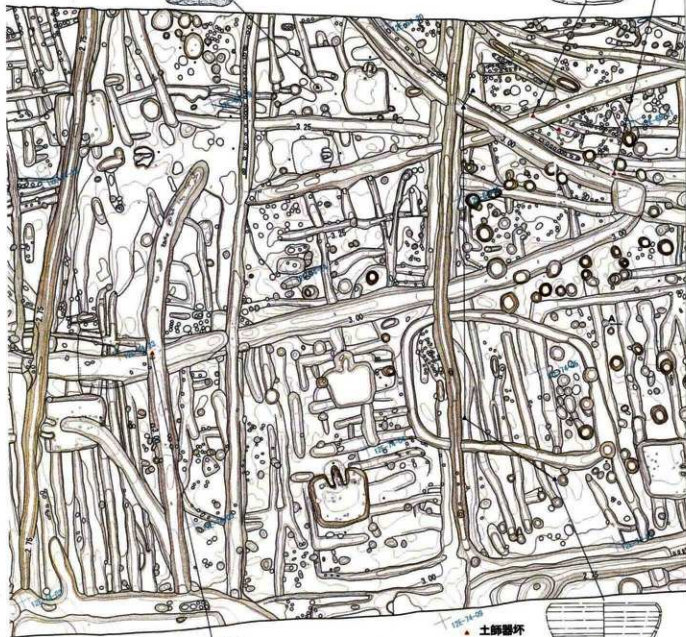


12E-74-4 周辺の燧跡

12E-84-11



12E-85-18



- ▲ 土師器坏
- 土師器壺
- ▲ 須恵器甕・瓶
- ▲ 鉄製品・石製品



代の遺構 35 (燧跡①)



12E-75-1 周辺の燻跡

+ 12E-75-2



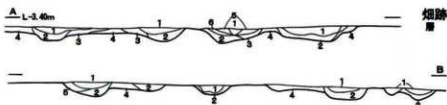
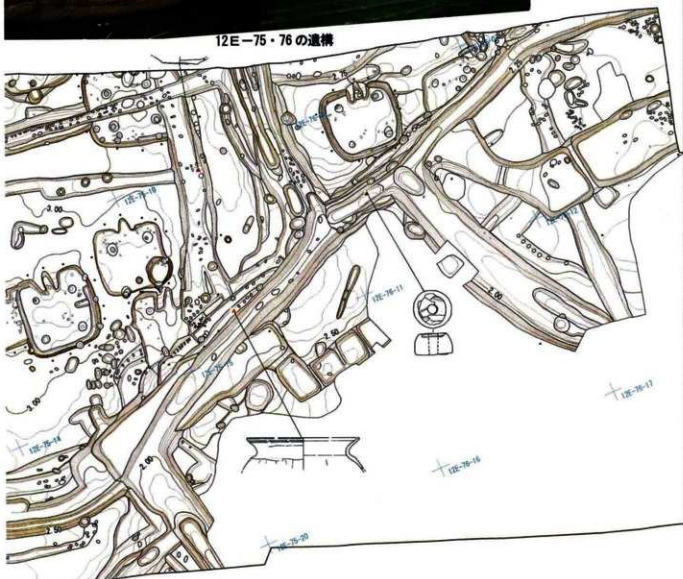
12E-74-10 周辺の燻跡



図 46. 奈良・平安時

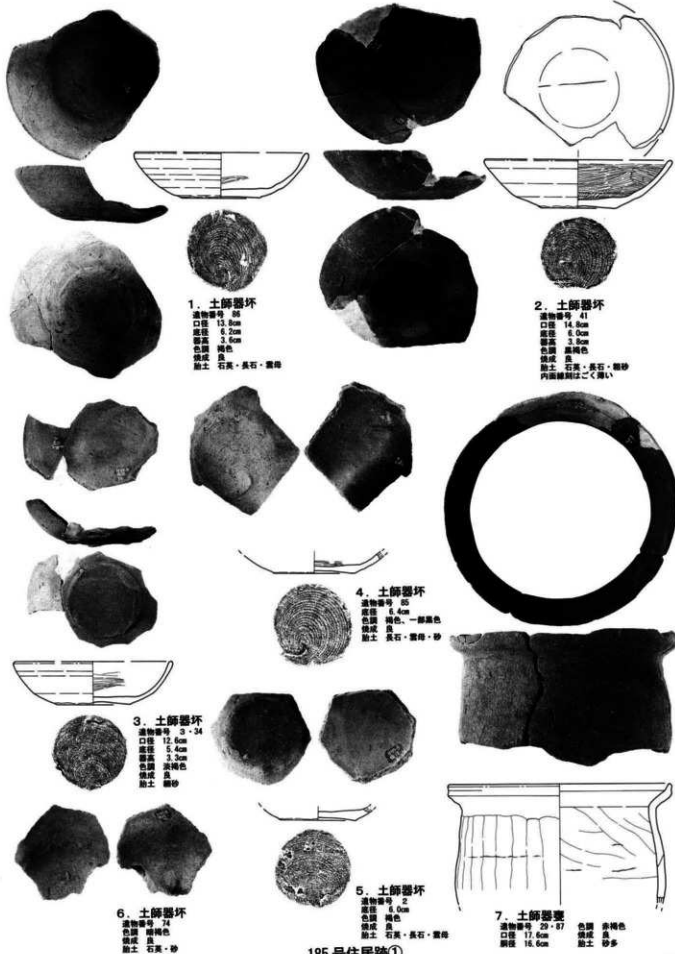


12E-75・76の遺構



畑跡 12E-74-5・75-1 覆土断面

- 層序
1. 黒灰色土 (砂が混じる)
  2. 暗灰色土 (砂が多く混じる)
  3. 暗灰色土 (砂が多く混じる)
  4. 暗褐色土
  5. 暗灰色土 (砂が混じる)
  6. 灰褐色土 (砂が多く混じる)



1. 土師器坏

遺物番号 86  
口径 13.8cm  
底径 6.2cm  
器高 3.6cm  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 石英・長石・雲母

2. 土師器坏

遺物番号 41  
口径 14.8cm  
底径 6.0cm  
器高 3.8cm  
色調 黄褐色  
焼成 良  
胎土 石英・長石・雲母  
内面縁部はごく薄い

3. 土師器坏

遺物番号 3・34  
口径 12.6cm  
底径 5.4cm  
器高 3.3cm  
色調 黄褐色  
焼成 良  
胎土 細砂

4. 土師器坏

遺物番号 25  
口径 6.4cm  
色調 褐色、一部黒色  
焼成 良  
胎土 長石・雲母・砂

6. 土師器坏

遺物番号 74  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 石英・砂

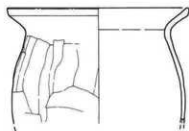
5. 土師器坏

遺物番号 2  
口径 6.0cm  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 石英・長石・雲母

7. 土師器坏

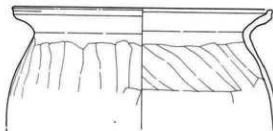
遺物番号 29・87  
口径 17.6cm  
底径 16.6cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂多

185号住居跡①  
図47 奈良・平安時代の遺物1

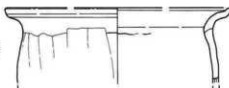


8. 土師器壺  
 遺物番号 29・32  
 口径 14.0cm  
 胴径 13.9cm  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 石灰・長石・赤色鉄

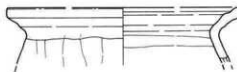
9. 土師器壺  
 遺物番号 60  
 口径 13.7cm  
 胴径 16.0cm  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



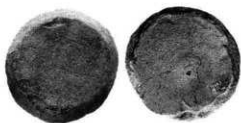
10. 土師器壺  
 遺物番号 79  
 口径 20.6cm  
 胴径 21.6cm  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



11. 土師器壺  
 遺物番号 67  
 口径 13.7cm  
 胴径 16.0cm  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



12. 土師器壺  
 遺物番号 38  
 口径 18.0cm  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂・長石



13. 土師器壺  
 遺物番号 70  
 口径 7.3cm  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



14. 土師器壺  
 遺物番号 64・66  
 口径 7.3cm  
 色調 褐色

焼成 良  
 胎土 砂

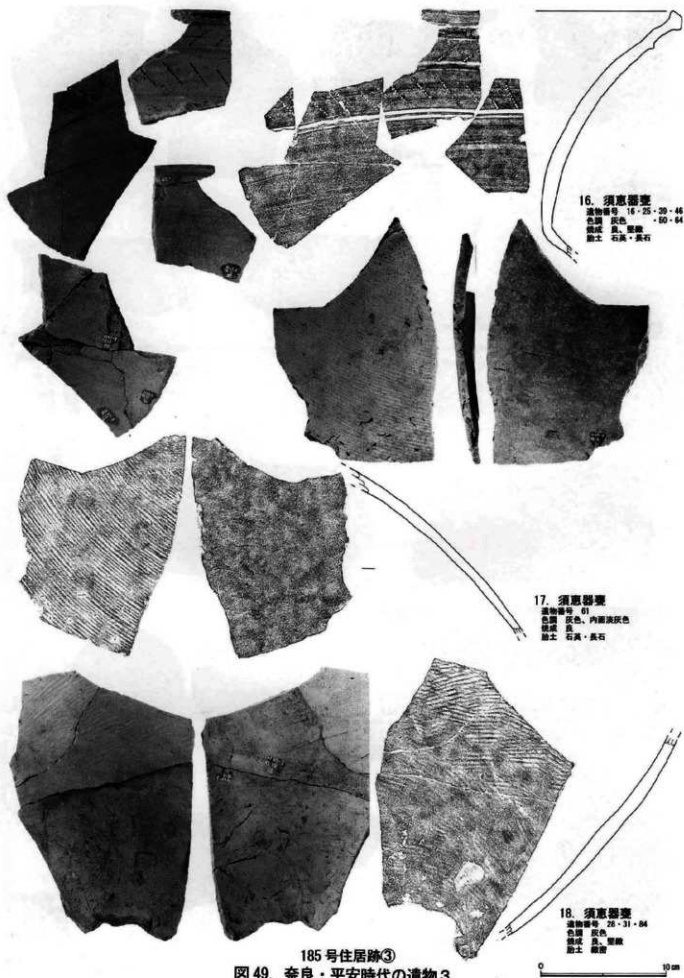


15. 須恵器壺  
 遺物番号 53・71  
 色調 黒灰色  
 焼成 良  
 胎土 石灰・長石

185号住居跡②

図 48. 奈良・平安時代の遺物 2

0 10cm



16. 須恵器壺  
 遺物番号 16・25・29・46  
 色相 灰色  
 構成 瓦、野織  
 胎土 石質・長石

17. 須恵器壺  
 遺物番号 01  
 色相 灰色、内面淡灰色  
 構成 瓦  
 胎土 石質・長石

18. 須恵器壺  
 遺物番号 20・31・04  
 色相 灰色  
 構成 瓦、野織  
 胎土 野織

185号住居跡③

図 49. 奈良・平安時代の遺物 3

0 10cm

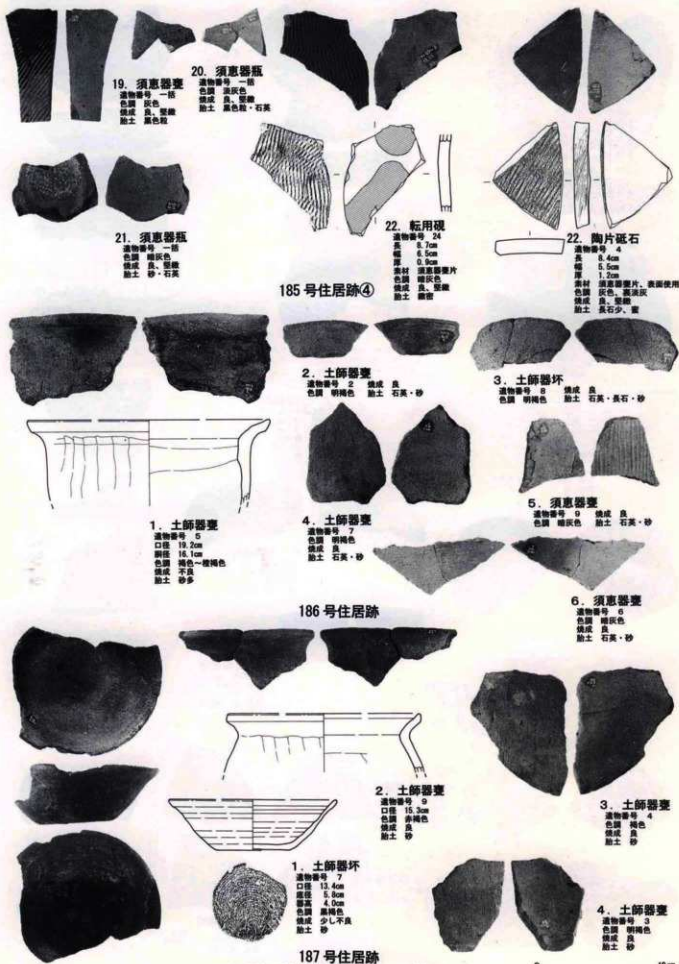


図 50. 奈良・平安時代の遺物 4



1. 土師器杯  
 遺物番号 11  
 口径 16.0cm  
 器高 2.2cm  
 色調 褐色、内面一部黒褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



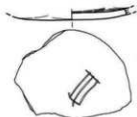
2. 土師器杯  
 遺物番号 9・17  
 口径 14.0cm  
 器高 3.1cm  
 色調 暗褐色  
 焼成 劣し、平潰  
 胎土 砂



3. 土師器杯  
 遺物番号 31  
 口径 14.0cm  
 器高 2.3cm  
 色調 暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂・赤色粒



5. 土師器杯  
 遺物番号 13  
 色調 灰褐色、一部黒  
 焼成 良  
 胎土 砂・赤色粒



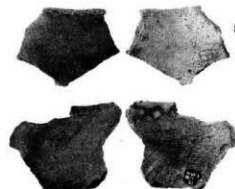
4. 土師器杯  
 遺物番号 23  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂・黒角  
 刻劃「J」



6. 土師器杯  
 遺物番号 29  
 色調 灰褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂・赤色粒  
 赤砂

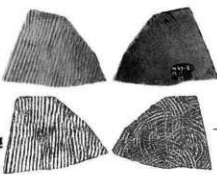


7. 土師器杯  
 遺物番号 8  
 口径 7.1cm  
 色調 灰褐色  
 焼成 良  
 胎土 細砂



8. 土師器壺  
 遺物番号 一括  
 色調 暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

9. 土師器壺  
 遺物番号 21  
 色調 暗赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



11. 須恵器壺  
 遺物番号 16  
 色調 灰白色  
 焼成 良、至良  
 胎土 磯野

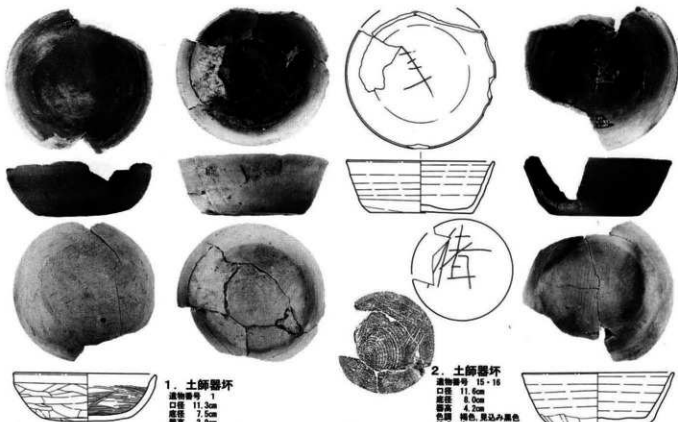


10. 須恵器壺  
 遺物番号 27  
 色調 灰白色  
 焼成 良、至良  
 胎土 磯野

188号住居跡  
 図51. 奈良・平安時代の遺物5







1. 土師器杯

遺物番号 1  
口径 11.3cm  
底径 7.5cm  
高さ 3.3cm  
色調 褐色、内面黒色  
焼成 良  
胎土 砂  
外観全体にて磨き

2. 土師器杯

遺物番号 15-16  
口径 11.6cm  
底径 8.0cm  
高さ 4.2cm  
色調 褐色、見込み黒色  
焼成 良  
胎土 砂・白色胎  
刷刺 底面「樗」、見込み「樗」



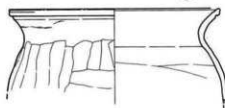
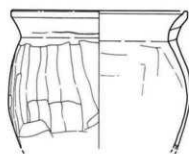
3. 土師器杯

遺物番号 18  
口径 11.8cm  
底径 7.0cm  
高さ 4.3cm  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 砂



4. 土師器杯

遺物番号 13  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 砂

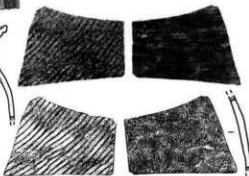


5. 土師器甕

遺物番号 9  
口径 14.2cm  
脚径 14.6cm  
高さ 良  
色調 緑赤褐色～黒褐色  
焼成 良  
胎土 砂

6. 土師器甕

遺物番号 2・4・8・10  
口径 16.8cm  
脚径 17.5cm  
高さ 良  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂

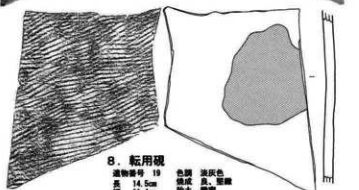
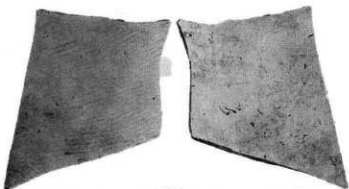


7. 須恵器甕

遺物番号 6  
胎土 刷刺  
色調 淡灰色  
焼成 良、堅緻



189号住居跡①  
図52. 奈良・平安時代の遺物6



8. 転用碗

遺物番号 19  
 口径 14.5cm  
 高 11.4cm  
 厚 0.8cm

色調 淡灰色  
 焼成 良、普通  
 胎土 灰土  
 素材 須賀産燐

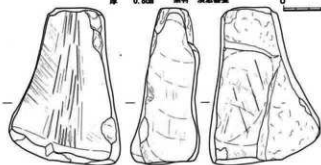
0 5cm



9. 磁石

遺物番号 12  
 口径 9.0cm  
 高 4.6cm

厚 3.5cm  
 重量 103.6g  
 素材 美濃粘



10. 磁石

遺物番号 20  
 口径 8.3cm  
 高 5.9cm  
 厚 3.7cm

重量 185.1g  
 素材 砂土  
 表面施化粘付着

189号住居跡②

0 5cm



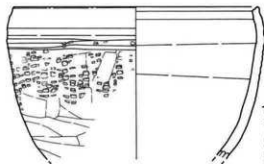
2. 土師器坏

遺物番号 19  
 色調 暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



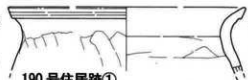
3. 土師器鉢

遺物番号 40  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂  
 表面スチ付着



1. 燻焼土器鉢

遺物番号 1・2  
 口径 19.7cm  
 脚径 20.6cm  
 色調 第一層赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂・白色粒

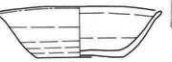


190号住居跡①

遺物番号 12・14  
 口径 18.7cm  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

0 10cm

図53. 奈良・平安時代の遺物7



1. 土師器杯

遺物番号 2・3  
口径 12.2cm  
底径 6.4cm  
器高 4.5cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂多



2. 土師器杯

遺物番号 23  
口径 12.8cm  
底径 6.5cm  
器高 3.8cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂



3. 土師器高台付杯

遺物番号 7  
底径 6.6cm  
色調 赤褐色、表面黒色  
焼成 良  
胎土 砂



4. 土師器杯

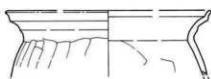
遺物番号 11  
色調 黒色  
焼成 少し不良  
胎土 砂



5. 土師器小鉢

遺物番号 10  
色調 黒色  
焼成 良  
胎土 砂

190号住居跡②



5. 土師器壺

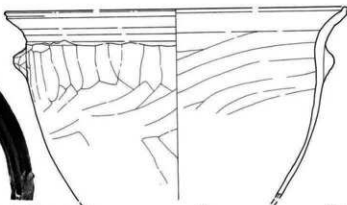
遺物番号 27  
口径 16.2cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂・白色粒



6. 土師器甌

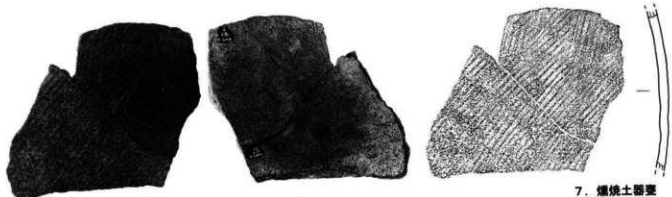
遺物番号 8・16-21  
口径 28.0cm  
脚径 23.7cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂

191号住居跡①



0 10cm

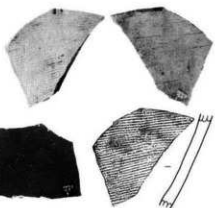
図54. 奈良・平安時代の遺物8



7. 焼土器壺  
遺物番号 5・24  
色調 黒灰褐色  
焼成 良  
胎土 砂多・白色粒

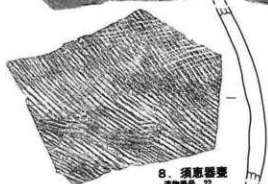


8. 須恵器壺  
遺物番号 22  
色調 黒灰色  
焼成 良・堅緻  
胎土 砂・炭屑・黒色粒



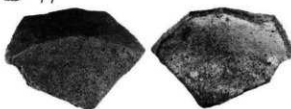
9. 須恵器壺  
遺物番号 9  
色調 黒灰色  
焼成 良・堅緻  
胎土 黒石粒

10. 須恵器壺  
遺物番号 6  
色調 灰白色  
焼成 良・堅緻  
胎土 礫物

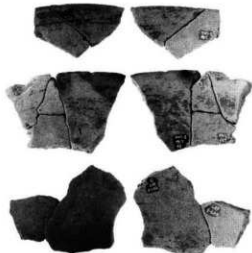


11. 土師器壺  
遺物番号 4・28  
色調 深褐色  
焼成 良  
胎土 石英・黒石・炭屑多

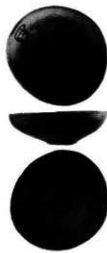
191号住居跡②



12. 焼土器壺  
遺物番号 15  
色調 赤灰褐色  
焼成 良  
胎土 砂・白色粒



1. 土師器坏  
遺物番号 13・21・23・28  
色調 褐色 赤部  
焼成 良  
胎土 砂



2. 土師器坏  
遺物番号 35  
口径 7.4cm  
色調 黄白色、一部褐色  
焼成 良  
胎土 砂

192号住居跡①

図 55. 奈良・平安時代の遺物 9





3. 土師器 坏

遺物番号 18-19  
口径 16.2cm  
器高 5.3cm  
色調 淡褐色  
焼成 良  
胎土 砂

4. 土師器 坏

遺物番号 14・15  
口径 14.3cm  
器高 2.2cm  
色調 淡褐色  
焼成 良  
胎土 砂  
底彫刻「=」

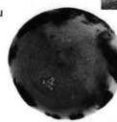
5. 土師器 坏

遺物番号 42  
口径 12.4cm  
器高 3.4cm  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 砂  
体部黒「4」・口縁タール



6. 土師器 坏

遺物番号 19  
口径 11.8cm  
器高 5.5cm  
器底 4.0cm  
色調 淡褐色  
焼成 良  
胎土 砂



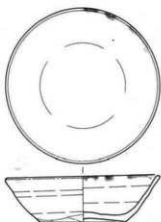
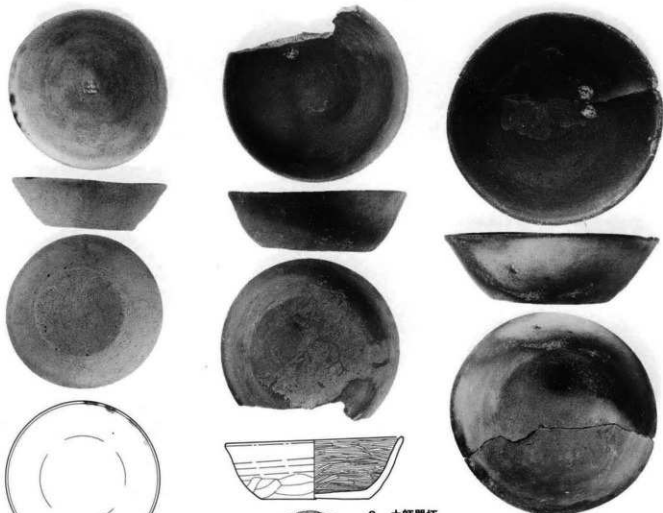
7. 土師器 坏

遺物番号 34  
口径 8.7cm  
器高 4.5cm  
器底 2.4cm  
色調 淡褐色  
焼成 良  
胎土 砂  
体部内黒タール付着

192号住居跡②

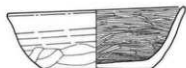
図 56. 奈良・平安時代の遺物 10





8. 土師器杯

遺物番号 32  
口径 12.3cm  
底径 6.8cm  
器高 3.6cm  
色調 濃褐色  
焼成 良  
胎土 砂  
口縁内面タール少し付着



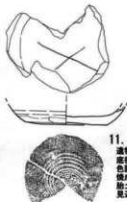
9. 土師器杯

遺物番号 8  
口径 14.2cm  
底径 8.7cm  
器高 4.7cm  
色調 褐色、内面黒色  
焼成 良  
胎土 砂



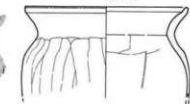
10. 土師器杯

遺物番号 6・10  
口径 15.7cm  
底径 9.0cm  
器高 5.2cm  
色調 濃褐色、内面黒色  
焼成 良  
胎土 砂



11. 土師器杯

遺物番号 26  
口径 6.0cm  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 砂  
底心内線刻「X」

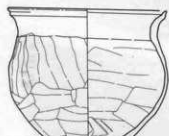


12. 土師器盃

遺物番号 3・39・40  
口径 12.9cm  
脚径 13.2cm  
色調 緑褐色～黒色  
焼成 良  
胎土 砂

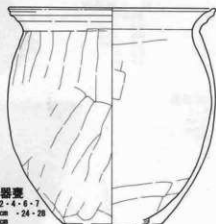


192号住居跡③  
図57. 奈良・平安時代の遺物 11



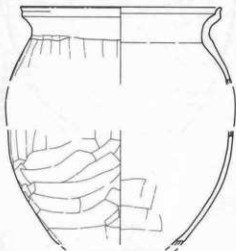
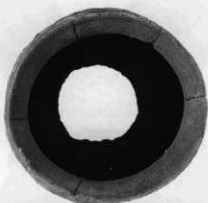
13. 土師器甕

遺物番号 9  
口径 12.7cm  
胴径 12.7cm  
底径 6.5cm  
高さ 10.6cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂・赤色粒



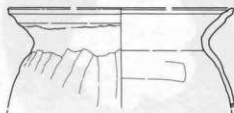
14. 土師器甕

遺物番号 2・4・6・7  
口径 16.5cm・24・28  
胴径 16.5cm  
底径 8.0cm  
高さ 17.4cm  
色調 紅赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂・白色粒



15. 土師器甕

遺物番号 8・9  
口径 15.3cm  
胴径 17.9cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂



16. 土師器甕

遺物番号 11  
口径 16.1cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂



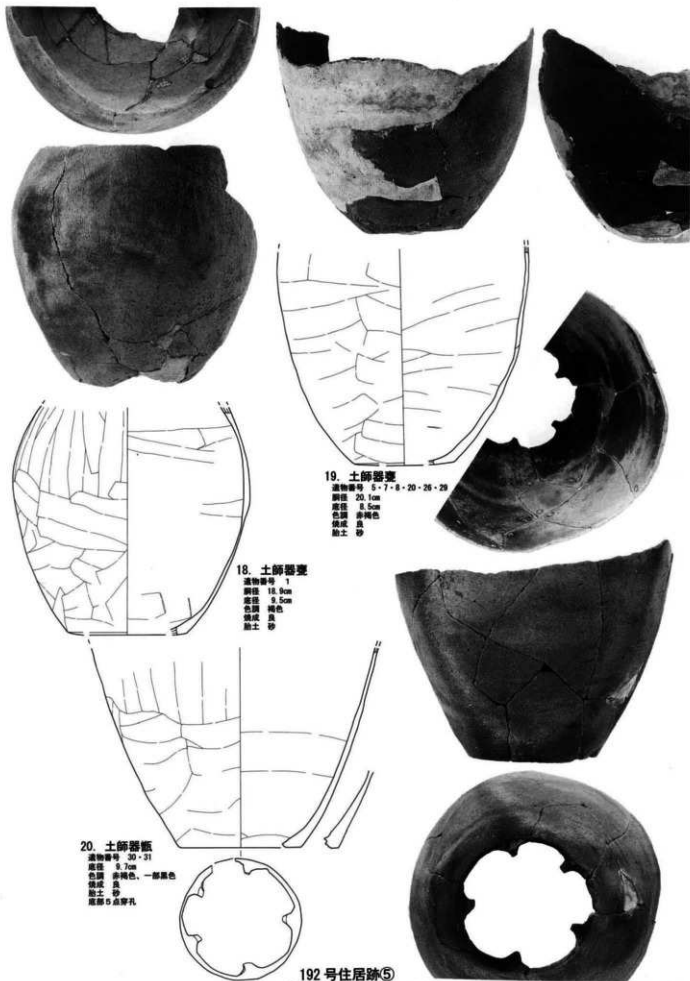
17. 土師器鉢

遺物番号 17  
色調 褐色、一部黒色  
焼成 良  
胎土 砂・白色粒

192号住居跡④

図58. 奈良・平安時代の遺物12

0 10cm

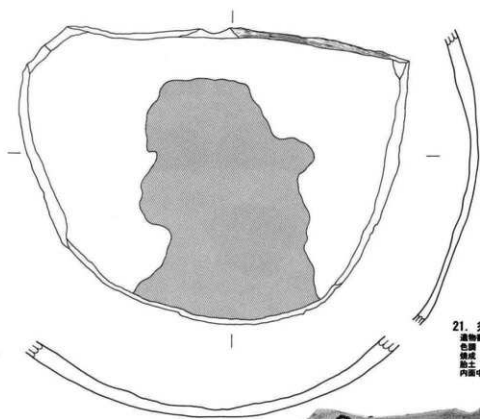


192号住居跡⑤

図 59. 奈良・平安時代の遺物 13

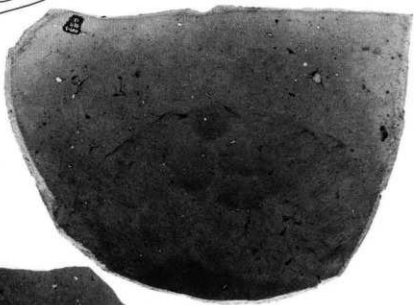
0 10cm





21. 須恵器壺

遺物番号 12  
 色調 灰色  
 色成 黄緑  
 胎土 長石粒・黒色粒  
 内面中央磨削



22. 須恵器瓶

遺物番号 37  
 色調 灰色、緑灰色輪  
 色成 黄緑  
 胎土 黄

図 60. 奈良・平安時代の遺物 14





1. 土師器坏  
 遺物番号 14  
 口径 12.2cm  
 底径 5.1cm  
 器高 4.3cm  
 色調 暗褐色  
 焼成 少し不良  
 胎土 砂多



2. 土師器坏  
 遺物番号 20  
 口径 12.2cm  
 底径 6.0cm  
 器高 4.4cm  
 色調 赤褐色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



3. 土師器坏  
 遺物番号 4  
 色調 褐色、内面黒色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



4. 土師器坏  
 遺物番号 11  
 色調 赤褐色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



5. 土師器壺  
 遺物番号 13  
 色調 赤褐色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



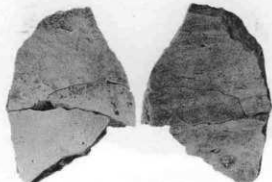
6. 須恵器壺  
 遺物番号 24  
 色調 灰褐色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



8. 焼焼土器壺  
 遺物番号 6  
 色調 暗赤褐色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



7. 焼焼土器壺  
 遺物番号 7  
 色調 赤褐色  
 焼成 良好  
 胎土 砂・石英



9. 須恵器壺  
 遺物番号 9  
 色調 灰色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



193号住居跡



10. 須恵器壺  
 遺物番号 8  
 色調 灰色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



1. 土師器坏  
 遺物番号 5  
 色調 赤褐色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



2. 土師器台付坏  
 遺物番号 1  
 底径 4.5cm  
 色調 褐色、内面黒色  
 焼成 良好  
 胎土 砂



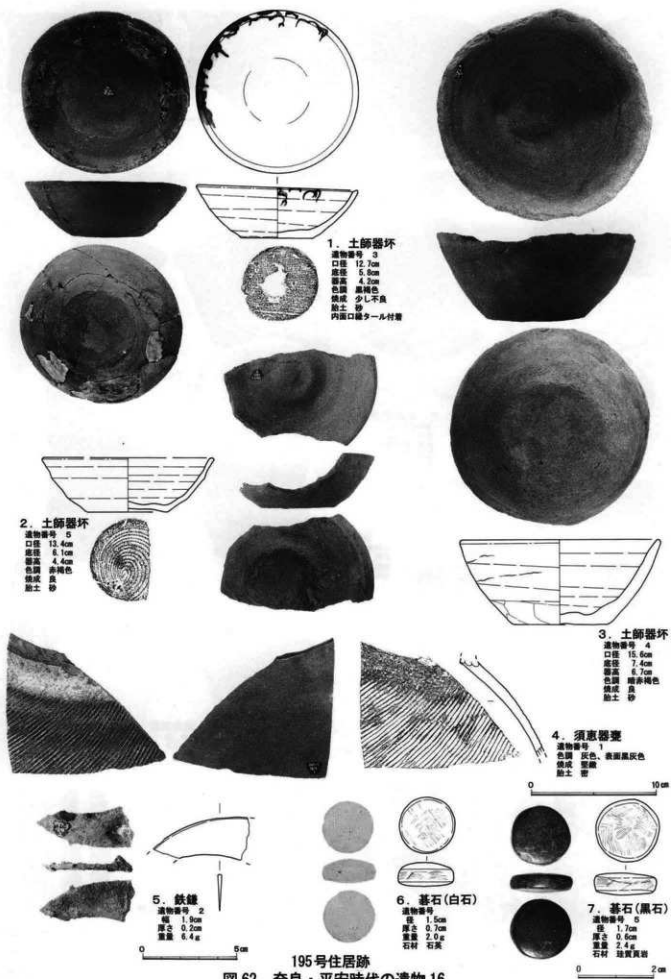
194号住居跡



3. 土師器壺  
 遺物番号 7  
 色調 褐色  
 焼成 良好  
 胎土 砂

図 61. 奈良・平安時代の遺物 15





1. 土師器杯

遺物番号 3  
 口径 12.7cm  
 底径 6.8cm  
 高さ 4.2cm  
 色調 黒褐色  
 焼成 少し不良  
 胎土 砂  
 内面口縁ターール付着

2. 土師器杯

遺物番号 5  
 口径 13.4cm  
 底径 6.1cm  
 高さ 4.4cm  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

3. 土師器杯

遺物番号 4  
 口径 15.6cm  
 底径 7.4cm  
 高さ 6.7cm  
 色調 黒赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

4. 須恵器壺

遺物番号 1  
 色調 灰色、表面黒灰色  
 焼成 堅緻  
 胎土 雲

5. 鉄鏝

遺物番号 2  
 長さ 1.9cm  
 厚さ 0.2cm  
 重量 6.4g

6. 基石(白石)

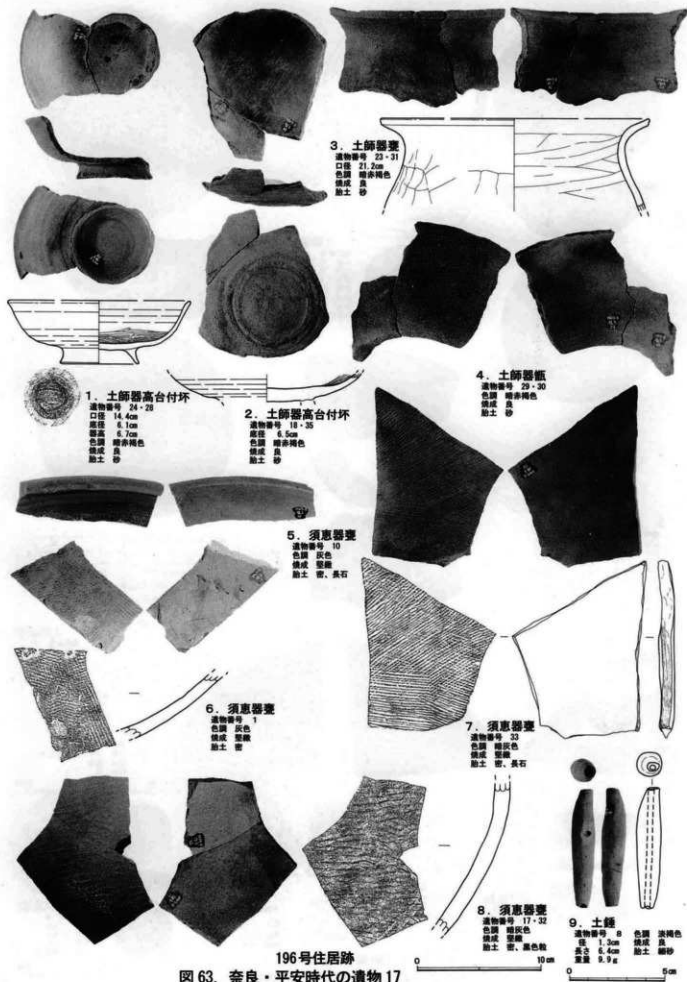
遺物番号  
 径 1.5cm  
 厚さ 0.7cm  
 重量 2.0g  
 石材 石英

7. 基石(黒石)

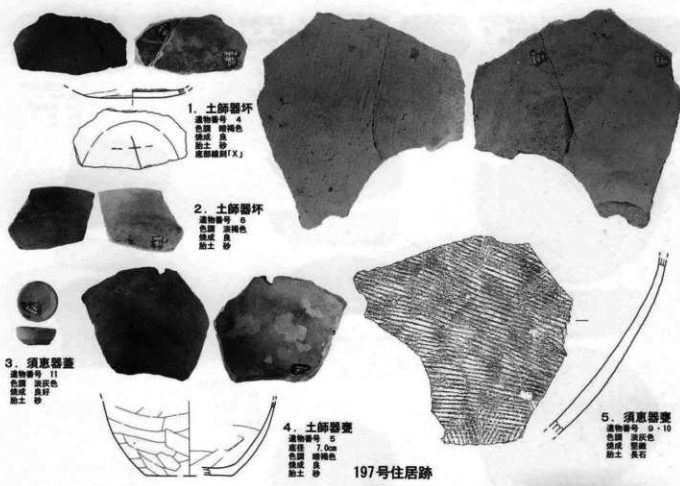
遺物番号 5  
 径 1.7cm  
 厚さ 0.6cm  
 重量 2.4g  
 石材 珪質頁岩

195号住居跡

図 62. 奈良・平安時代の遺物 16



196号住居跡  
 図 63. 奈良・平安時代の遺物 17



1. 土師器坏  
 遺物番号 4  
 色調 暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂  
 底彫線刻「X」

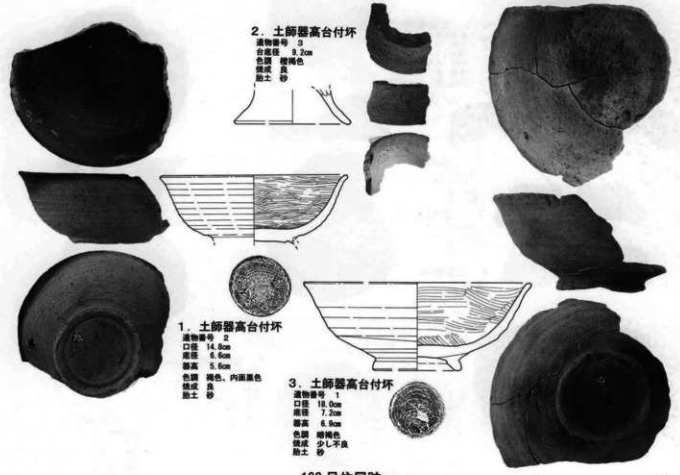
2. 土師器坏  
 遺物番号 6  
 色調 深褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

3. 須恵器蓋  
 遺物番号 11  
 色調 淡灰色  
 焼成 良好  
 胎土 砂

4. 土師器甕  
 遺物番号 5  
 高さ 7.0cm  
 色調 暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

5. 須恵器蓋  
 遺物番号 9・10  
 色調 淡灰色  
 焼成 良好  
 胎土 真石

197号住居跡



2. 土師器高台付坏  
 遺物番号 13  
 台座径 9.2cm  
 色調 暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

1. 土師器高台付坏  
 遺物番号 2  
 口径 14.8cm  
 高さ 6.5cm  
 底径 5.5cm  
 色調 褐色、内面黒色  
 胎土 砂

3. 土師器高台付坏  
 遺物番号 1  
 口径 15.0cm  
 高さ 7.2cm  
 底径 4.5cm  
 色調 暗褐色  
 焼成 少し不良  
 胎土 砂

198号住居跡

図 64. 奈良・平安時代の遺物 18





1. 土師器环  
 遺物番号 一括  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



2. 土師器环  
 遺物番号 6  
 色調 淡赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



3. 土師器环  
 遺物番号 9  
 色調 淡赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

199号住居跡



2. 土師器环

遺物番号 24  
 口径 14.2cm  
 器高 3.1cm  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



3. 土師器环

遺物番号 29  
 口径 13.3cm  
 器高 2.4cm  
 色調 淡褐色、内面淡赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



1. 土師器环

遺物番号 15  
 口径 14.1cm  
 器高 3.5cm  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



5. 須恵器环

遺物番号 43・47  
 口径 11.6cm  
 器高 8.0cm  
 器底 4.0cm  
 色調 暗灰色  
 焼成 良好  
 胎土 砂・黒石



6. 土師器环

遺物番号 一括  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



7. 土師器环

遺物番号 一括  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



8. 土師器环

遺物番号 一括  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



9. 土師器环

遺物番号 一括  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



4. 土師器环

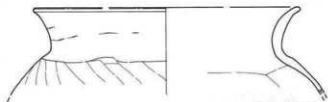
遺物番号 26・27  
 口径 13.8cm  
 器高 10.8cm  
 器底 2.8cm  
 色調 褐色、赤影  
 焼成 良  
 胎土 砂



200号住居跡①

図 65. 奈良・平安時代の遺物 19

0 10cm



10. 土師器甕

遺物番号 2  
口径 21.0cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 砂



11. 須恵器甕

遺物番号 55  
色調 淡灰色  
焼成 整  
胎土 密



12. 須恵器甕

遺物番号 54  
色調 淡灰色  
焼成 整  
胎土 密



13. 須恵器甕

遺物番号 41-42  
口径 26.2cm  
色調 暗青灰色  
焼成 整  
胎土 密

図 66. 奈良・平安時代の遺物 20 200号住居跡②

0 10cm

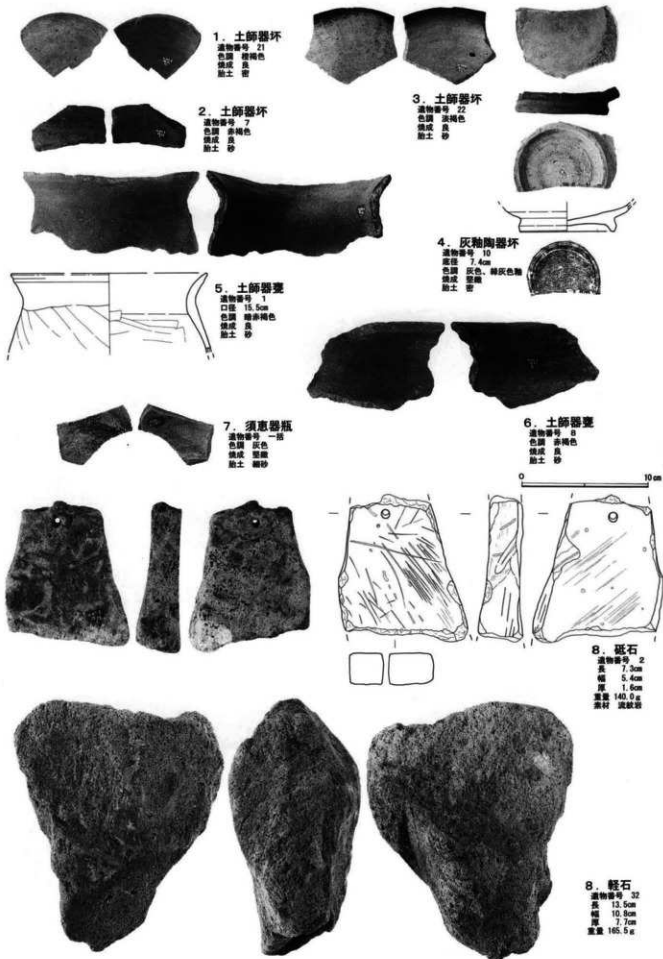


図 67. 奈良・平安時代の遺物 21 201号住居跡



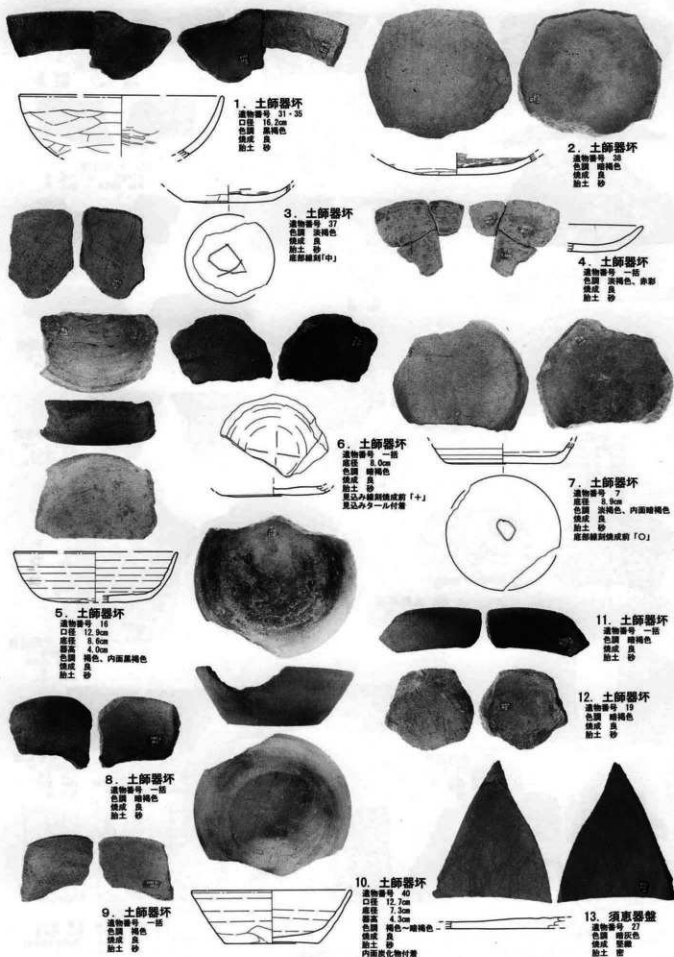
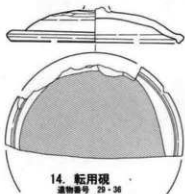
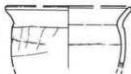


図 68. 奈良・平安時代の遺物 22 202号住居跡①

0 10cm



14. 転用碗  
 遺物番号 29・36  
 口径 14.0cm  
 器高 2.6cm(碗内穴縁)  
 色調 灰色  
 焼成 堅緻  
 胎土 密、灰石  
 素材 須恵器製



15. 土師器壺  
 遺物番号 6  
 口径 8.9cm  
 色調 褐色～暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 良砂



17. 土師器壺  
 遺物番号 22  
 色調 黄褐色  
 胎土 良砂



18. 土師器壺  
 遺物番号 一括  
 色調 暗褐色  
 胎土 良砂



16. 土師器壺  
 遺物番号 12  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 良砂



19. 土師器壺  
 遺物番号 一括  
 色調 暗赤褐色  
 胎土 良砂



20. 土師器壺  
 遺物番号 一括  
 色調 暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 良砂



21. 土師器壺  
 遺物番号 一括  
 色調 黄褐色  
 焼成 良  
 胎土 良砂



22. 土師器壺  
 遺物番号 一括  
 色調 暗褐色  
 焼成 少し不良  
 胎土 良砂



23. 土師器壺  
 遺物番号 一括  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 良砂



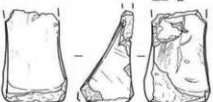
24. 土師器壺  
 遺物番号 3  
 色調 黄褐色  
 焼成 良  
 胎土 良砂



25. 須恵器瓶  
 遺物番号 42  
 色調 灰色  
 焼成 堅緻  
 胎土 密



26. 須恵器壺  
 遺物番号 30  
 色調 灰色  
 焼成 堅緻  
 胎土 密



27. 須恵器壺  
 遺物番号 25  
 色調 灰色  
 焼成 堅緻  
 胎土 密



28. 砥石  
 遺物番号 一括  
 厚 1.4cm  
 長 2.7cm  
 重 11.8g  
 幅 3.2cm  
 素材 須恵器

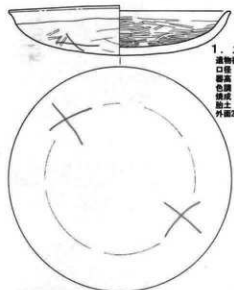


29. 砥石  
 遺物番号 41  
 重量 30.4g  
 素材 須恵器  
 厚 5.0cm  
 長 11.0cm  
 幅 3.5cm  
 表面酸化鉄付着



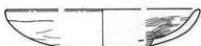
202号住居跡②

図 69. 奈良・平安時代の遺物 23



7. 灰軸陶器壺  
 遺物番号 一拾  
 色調 灰色  
 焼成 堅焼  
 胎土 砂

8. 須恵器杯  
 遺物番号 一拾  
 色調 緑灰色  
 焼成 良  
 胎土 長石



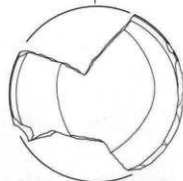
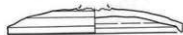
2. 土師器杯  
 遺物番号 42  
 口径 15.4cm  
 色調 緑褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



3. 土師器杯  
 遺物番号 32  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



4. 土師器杯  
 遺物番号 6  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



5. 土師器杯  
 遺物番号 9  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂・赤色胎  
 底面線刻「口」

6. 転用碗  
 遺物番号 39・40  
 口径 13.5cm  
 高さ 3.5cm(胎内欠損)  
 色調 灰色  
 焼成 堅焼  
 胎土 砂・長石  
 素材 須恵器

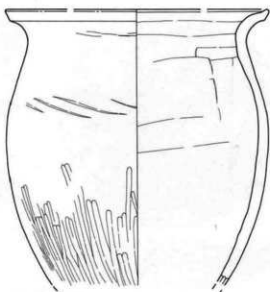
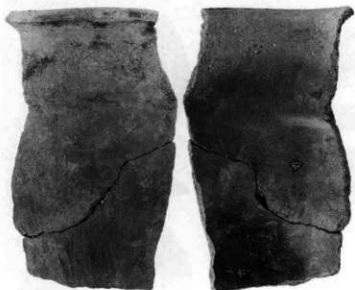


9. 土師器壺  
 遺物番号 11・21・22・36  
 口径 17.4cm  
 高さ 20.0cm  
 色調 緑赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

203号住居跡①

図70. 奈良・平安時代の遺物24





10. 土師器壺

遺物番号 12・15  
口径 20.7cm  
胴径 20.6cm  
色調 暗褐色  
地成 灰  
胎土 砂・石英・長石・雲母



12. 須恵器壺

遺物番号 14  
色調 灰色  
地成 灰  
胎土 密

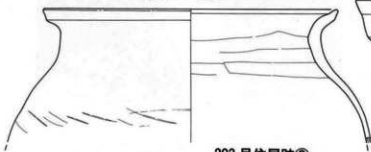
13. 須恵器壺

遺物番号 26  
色調 灰色  
地成 灰  
胎土 密

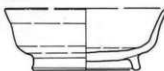


11. 土師器壺

遺物番号 27  
口径 23.4cm  
色調 灰褐色～暗褐色  
地成 灰  
胎土 砂・石英・長石・雲母



203号住居跡②



1. 土師器高台付坏

遺物番号 16  
口径 12.8cm  
底径 8.5cm  
器高 4.9cm  
色調 暗赤褐色、内面黒色  
地成 灰  
胎土 砂



2. 土師器坏

遺物番号 33  
口径 12.8cm  
底径 8.4cm  
器高 3.7cm  
色調 暗褐色  
地成 灰  
胎土 砂

204号住居跡①

図 71. 奈良・平安時代の遺物 25



3. 須恵器盤  
遺物番号 一箇  
色調 灰色  
地成 灰  
胎土 密、長石

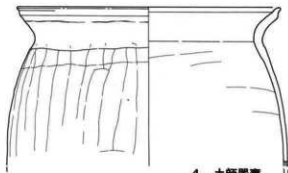




5. 土師器壺  
遺物番号 27  
色調 暗褐色  
焼成 灰成  
胎土 砂

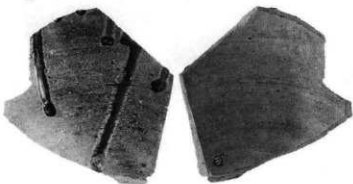


6. 土師器壺  
遺物番号 25  
色調 暗褐色  
焼成 灰成  
胎土 砂・長石・霞石

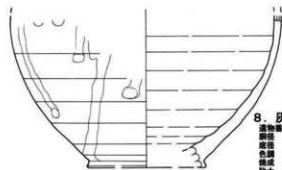


4. 土師器壺  
遺物番号 7・8  
口径 21.0cm  
胴径 22.5cm  
色調 赤褐色～黒色  
焼成 灰成  
胎土 砂

7. 土師器壺  
遺物番号 23・28・30・31  
口径 7.4cm  
色調 黒色、内面暗褐色  
焼成 灰成  
胎土 砂



9. 須恵器壺  
遺物番号 25  
色調 暗灰色  
焼成 窯成  
胎土 密、石英・長石



11. 鉄釘  
遺物番号 一括  
径 0.5cm  
厚さ 2.5cm  
長さ 3.2cm  
重量 0.3g

8. 灰軸陶器瓶  
遺物番号 29  
口径 21.4cm  
胴径 18.5cm  
色調 灰色、濃緑軸  
焼成 窯成  
胎土 密、長石・黒色燧

10. 土玉  
遺物番号 20  
径 2.5cm  
厚さ 2.5cm  
重量 19.3g

12. 鉄釘  
遺物番号 一括  
径 0.5cm  
厚さ 2.5cm  
長さ 3.2g



図 72. 奈良・平安時代の遺物 26 204号住居跡②



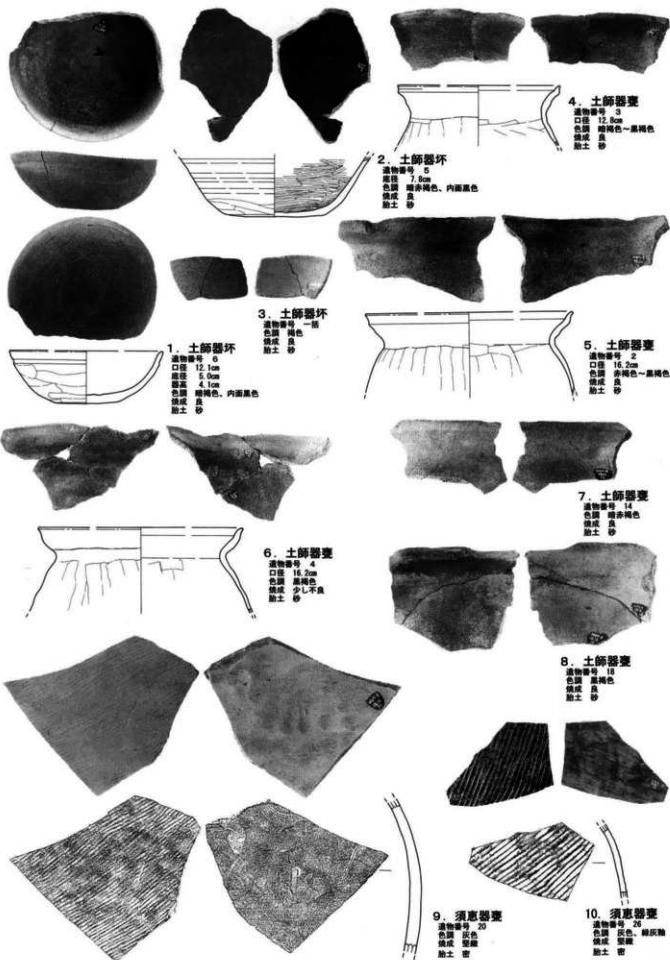
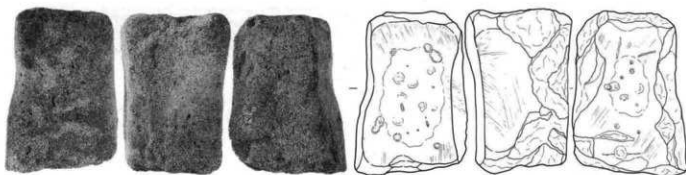


図 73. 奈良・平安時代の遺物 27 205号住居跡①

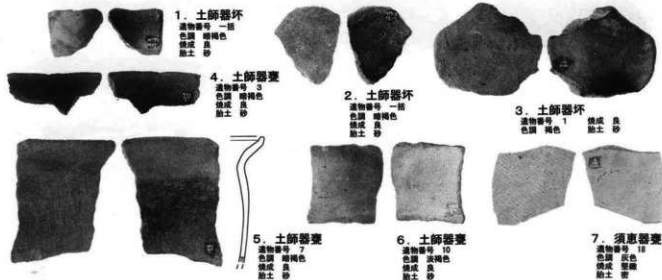
0 10cm



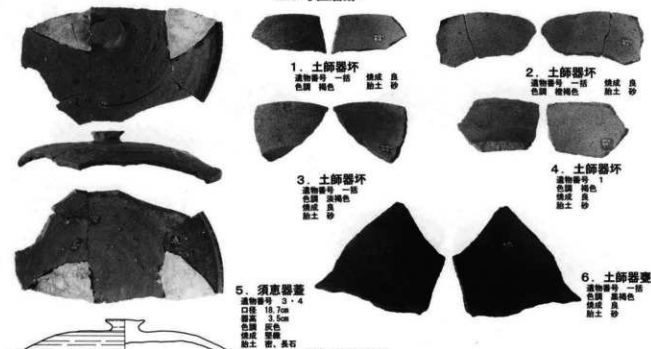
11. 砥石  
 遺物番号 21  
 長 8.4cm  
 幅 5.7cm  
 厚 5.1cm  
 重量 404.7g  
 素材 砂岩



205号住居跡②



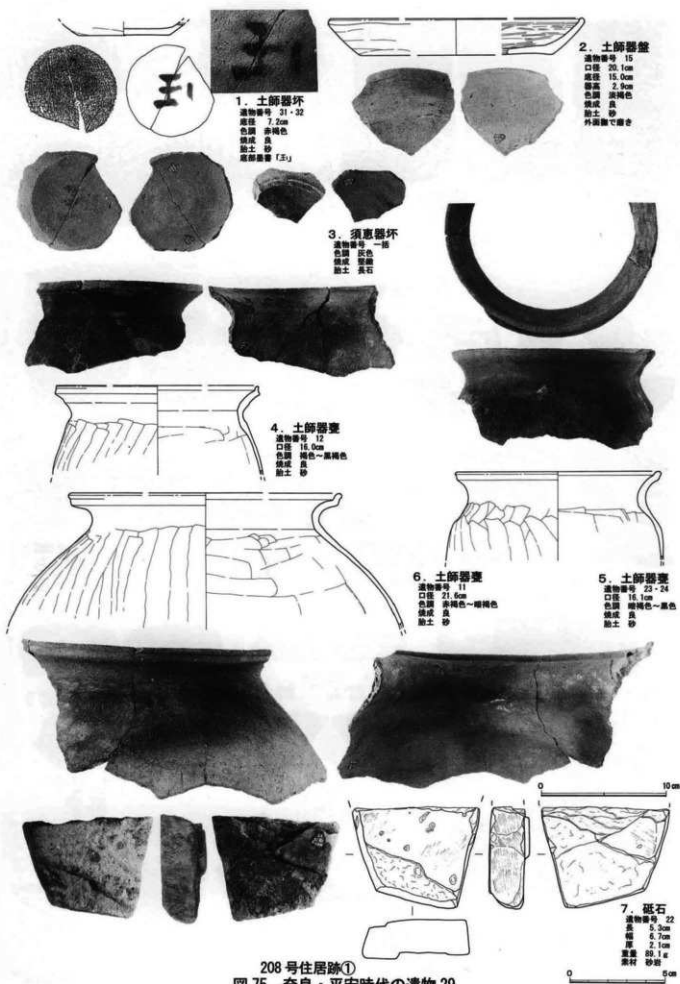
206号住居跡



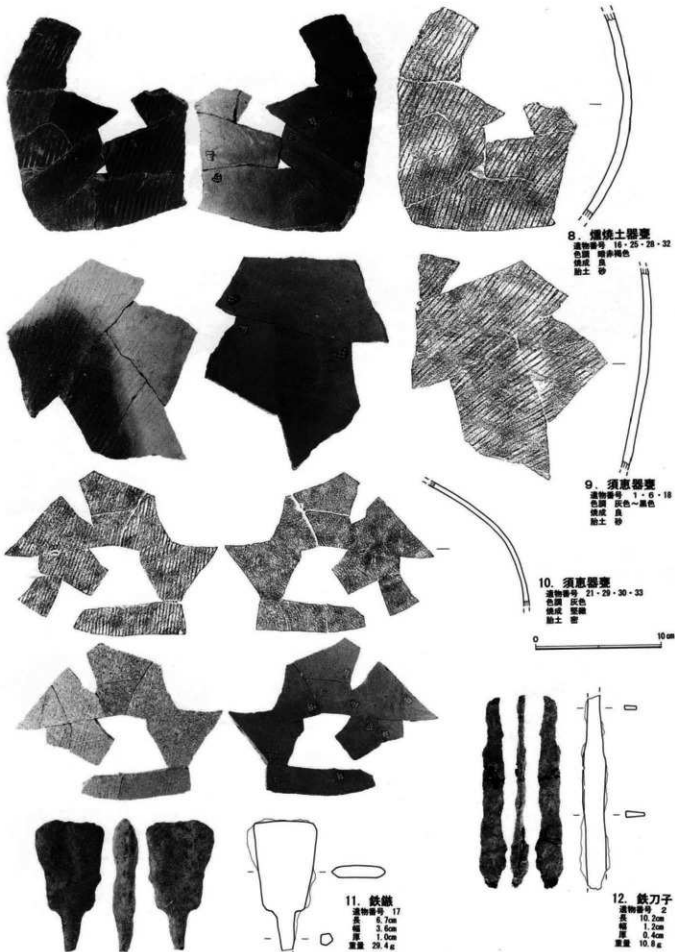
207号住居跡

図 74. 奈良・平安時代の遺物 28



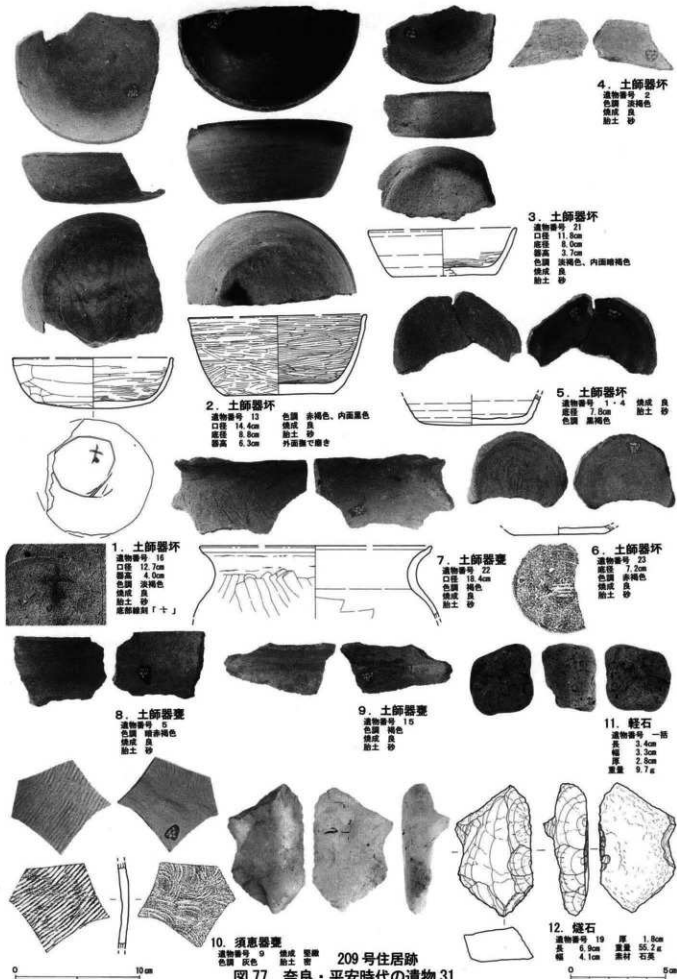






208号住居跡②

図 76. 奈良・平安時代の遺物 30



4. 土師器坏  
 遺物番号 2  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

3. 土師器坏  
 遺物番号 21  
 口径 11.8cm  
 底径 8.0cm  
 器高 3.7cm  
 色調 淡褐色、内面暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

2. 土師器坏  
 遺物番号 12  
 色調 赤褐色、内面黒色  
 口径 14.4cm  
 底径 8.8cm  
 器高 6.3cm  
 焼成 良  
 胎土 砂  
 外面無地で磨き

5. 土師器坏  
 遺物番号 1-4  
 口径 7.8cm  
 底径 7.8cm  
 色調 黒褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

1. 土師器坏  
 遺物番号 16  
 口径 12.7cm  
 器高 4.0cm  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂  
 底面刻線「十」

7. 土師器甕  
 遺物番号 22  
 口径 18.4cm  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

6. 土師器坏  
 遺物番号 23  
 口径 7.2cm  
 底径 7.2cm  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

8. 土師器甕  
 遺物番号 5  
 色調 暗赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

9. 土師器甕  
 遺物番号 15  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

11. 軽石  
 遺物番号 一石  
 口径 2.4cm  
 幅 3.3cm  
 厚 2.8cm  
 重量 9.7g

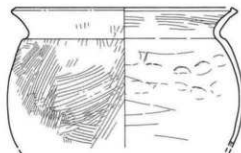
10. 須恵器甕

209号住居跡

図 77. 奈良・平安時代の遺物 31

12. 礎石  
 遺物番号 19  
 口径 1.8cm  
 長さ 6.9cm  
 重量 55.2g  
 幅 4.1cm  
 素材 石英

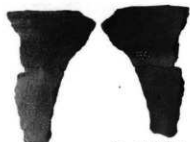




1. 土師器壺  
 遺物番号 13-15  
 口径 16.0cm  
 胴径 18.8cm  
 色調 灰褐色  
 焼成 良  
 胎土 菅  
 京師産か



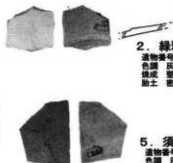
2. 緑釉陶器段皿  
 遺物番号 一括  
 色調 灰色・緑灰釉  
 焼成 整  
 胎土 菅



3. 土師器壺  
 遺物番号 12  
 色調 緑赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



4. 土師器壺  
 遺物番号 14  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂多



5. 須恵器瓶  
 遺物番号 2  
 色調 灰色  
 焼成 整  
 胎土 菅

210号住居跡



1. 土師器环  
 遺物番号 一括  
 色調 暗赤褐色、内面黒色  
 焼成 良  
 胎土 砂



2. 土師器环  
 遺物番号 一括  
 色調 黒褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



3. 土師器环  
 遺物番号 一括  
 色調 灰褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



4. 須恵器环  
 遺物番号 一括  
 色調 灰色  
 焼成 良  
 胎土 砂・黒色敷



5. 土師器台付环  
 遺物番号 一括  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



6. 土師器壺  
 遺物番号 一括  
 色調 赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



7. 土師器瓶  
 遺物番号 1-3  
 色調 黒褐色~暗褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂



屋外カマド

図 78. 奈良・平安時代の遺物 32



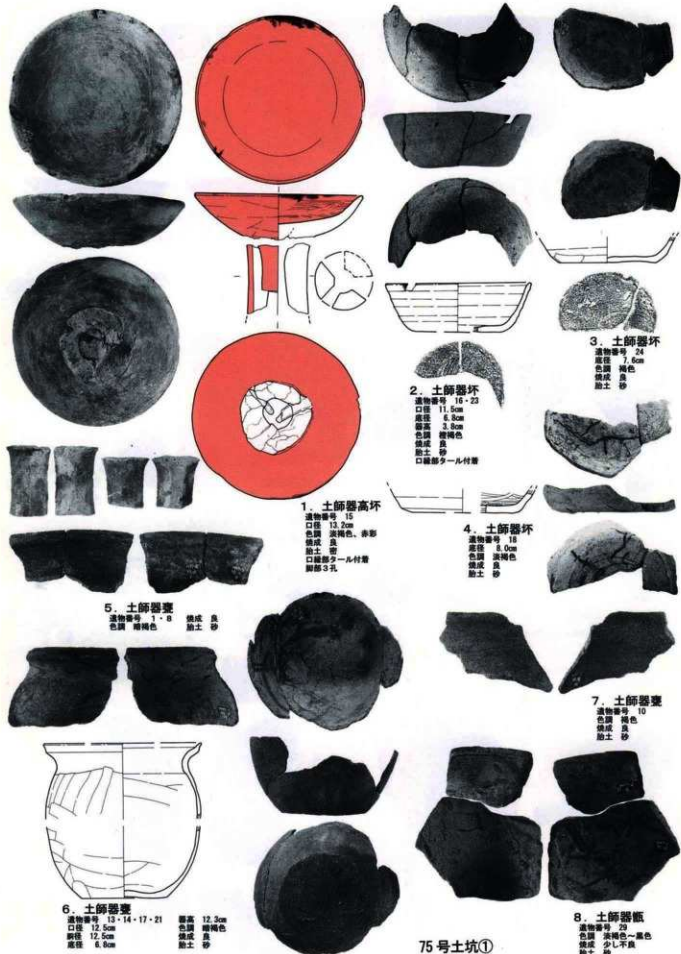


図 79. 奈良・平安時代の遺物 33



9. 土師器甕

遺物番号 22  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 粘土

10. 須惠器甕

遺物番号 一括  
色調 灰褐色  
焼成 良  
胎土 石灰・長石・雲母

11. 鉄釘

遺物番号 27  
長さ 0.5cm  
幅 0.9cm  
重 0.6cm

12. 鉄釘

遺物番号 27  
長さ 4.6cm  
幅 1.0cm  
重 0.4cm  
重 5.2g

75号土坑②



1. 土師器坏

遺物番号 一括  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 粘土



1. 土師器台付坏

遺物番号 2  
色調 褐色  
胎土 粘土



1. 須惠器甕

遺物番号 1  
色調 灰色  
焼成 良好  
胎土 粘土



2. 土師器甕

遺物番号 一括  
色調 暗褐色  
焼成 良  
胎土 粘土



2. 土師器甕

遺物番号 1  
色調 暗褐色  
胎土 粘土

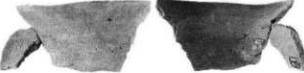


2. 須惠器甕

遺物番号 1・3  
色調 灰色  
焼成 良好  
胎土 粘土

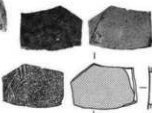
77号土坑

78号土坑



1. 土師器甕

遺物番号 35  
口径 13.8cm  
色調 赤褐色  
焼成 良  
胎土 粘土



2. 転用硯

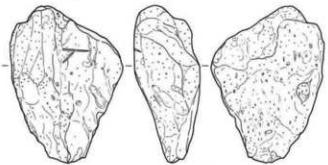
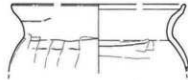
遺物番号 34  
長さ 5.1cm  
幅 3.6cm  
厚 0.6cm  
素材 須惠器甕  
色調 灰色  
焼成 良好  
胎土 粘土



3. 須惠器甕

遺物番号 2  
色調 灰色  
焼成 良好  
胎土 粘土

79号土坑



3. 軽石

遺物番号 41  
長さ 8.4cm  
幅 5.5cm  
厚 3.6cm  
重 26.7g

80号土坑



1. 土師器坏

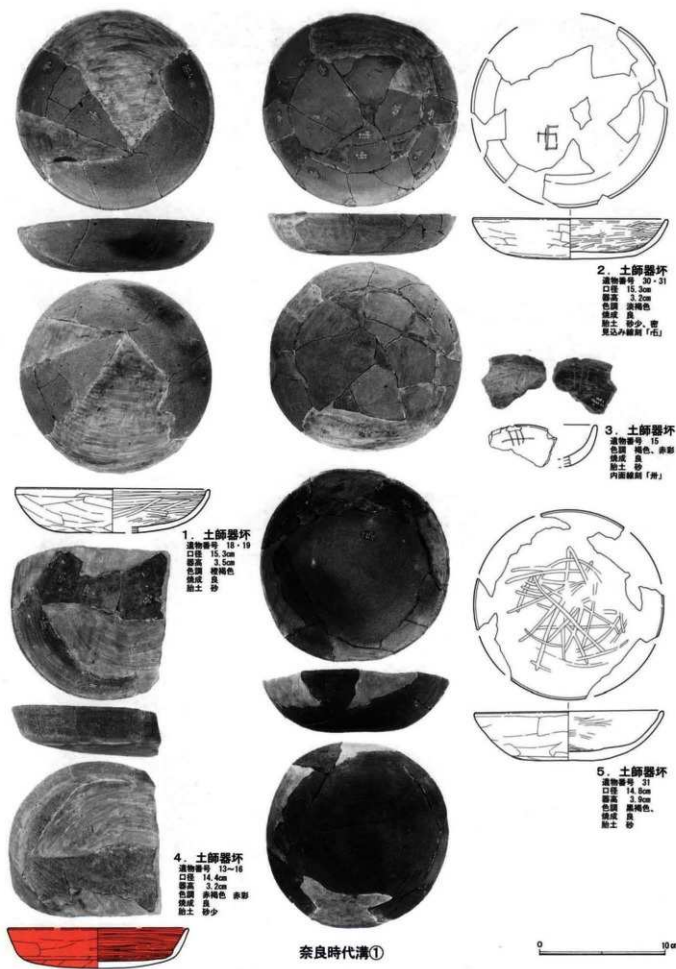
遺物番号 1  
口径 12.6cm  
色調 褐色  
胎土 粘土



82号土坑



図 80. 奈良・平安時代の遺物 34



1. 土師器杯

遺物番号 18・19  
口径 15.5cm  
器高 3.5cm  
色調 暗褐色  
焼成 良  
胎土 砂

4. 土師器杯

遺物番号 13~16  
口径 14.4cm  
器高 3.2cm  
色調 赤褐色、赤影  
焼成 良  
胎土 砂少

2. 土師器杯

遺物番号 20・31  
口径 15.3cm  
器高 3.2cm  
色調 淡褐色  
焼成 良  
胎土 砂少、曹  
夏込み雜割「石」

3. 土師器杯

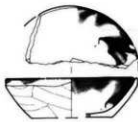
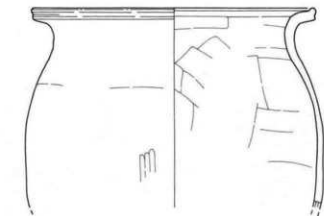
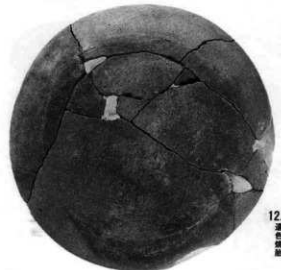
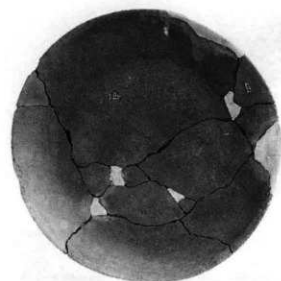
遺物番号 15  
色調 褐色、赤影  
焼成 良  
胎土 砂  
内面雜割「角」

5. 土師器杯

遺物番号 31  
口径 14.8cm  
器高 3.9cm  
色調 黄褐色、  
焼成 良  
胎土 砂

奈良時代溝①

図 81. 奈良・平安時代の遺物 35



7. 土師器環

遺物番号 17  
口径 10.4cm  
底径 6.4cm  
器高 2.1cm  
色調 暗褐色  
焼成 良  
胎土 砂  
口縁部9-11付着



8. 土師器環

遺物番号 一括  
色調 暗褐色  
焼成 良  
胎土 底部赤膏「□」



9. 土師器環

遺物番号 25  
口径 13.8cm  
色調 黄褐色  
焼成 良  
胎土 砂



10. 土師器環

遺物番号 3  
色調 暗褐色  
焼成 良  
胎土 砂

11. 土師器環

遺物番号 一括  
色調 暗褐色、赤紫  
焼成 良  
胎土 密



12. 土師器環

遺物番号 21  
色調 多褐色  
焼成 良  
胎土 砂

13. 須恵器環

遺物番号 9  
色調 灰褐色  
焼成 良  
胎土 磁砂



6. 土師器盤

遺物番号 21  
口径 21.4cm  
器高 2.2cm  
色調 黄褐色  
焼成 良  
胎土 砂多

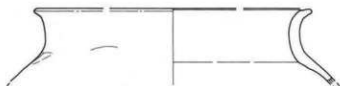
14. 土師器壺

遺物番号 32・33・35  
口径 22.5cm  
胴径 26.5cm  
色調 暗褐色  
焼成 良  
胎土 砂・石英・長石・磁砂

奈良時代②

図 82. 奈良・平安時代の遺物 36





15. 土師器壺  
遺物番号 34  
口径 22.0cm  
色調 赤褐色、内面褐色  
焼成 良  
胎土 砂



16. 土師器壺  
遺物番号 21  
色調 暗褐色  
焼成 良  
胎土 砂



17. 土師器壺  
遺物番号 9  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 砂



18. 土師器壺  
遺物番号 21  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 砂



19. 土師器壺  
遺物番号 9  
口径 9.5cm  
色調 褐色  
焼成 良  
胎土 砂



20. 土師器壺  
遺物番号 21-23  
口径 12.4cm  
色調 暗褐色～黒色  
焼成 良  
胎土 砂



21. 土師器壺  
遺物番号 21  
色調 暗褐色  
焼成 良  
胎土 砂

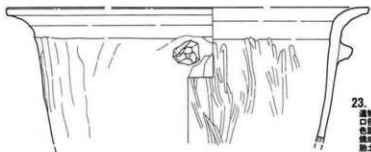
22. 土師器壺  
遺物番号 9  
色調 褐色～黒色  
焼成 良  
胎土 砂・白色粒

奈良時代溝③

図 83. 奈良・平安時代の遺物 37

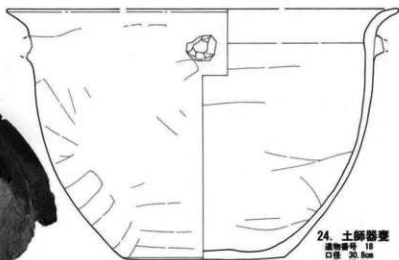
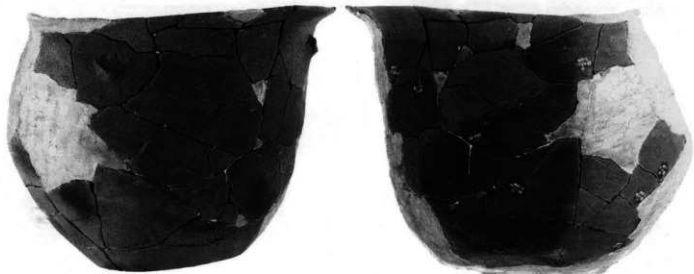






23. 土師器飯

遺物番号 9・10  
口径 26.6cm  
色調 赤褐色  
地質 粘土  
胎土 砂



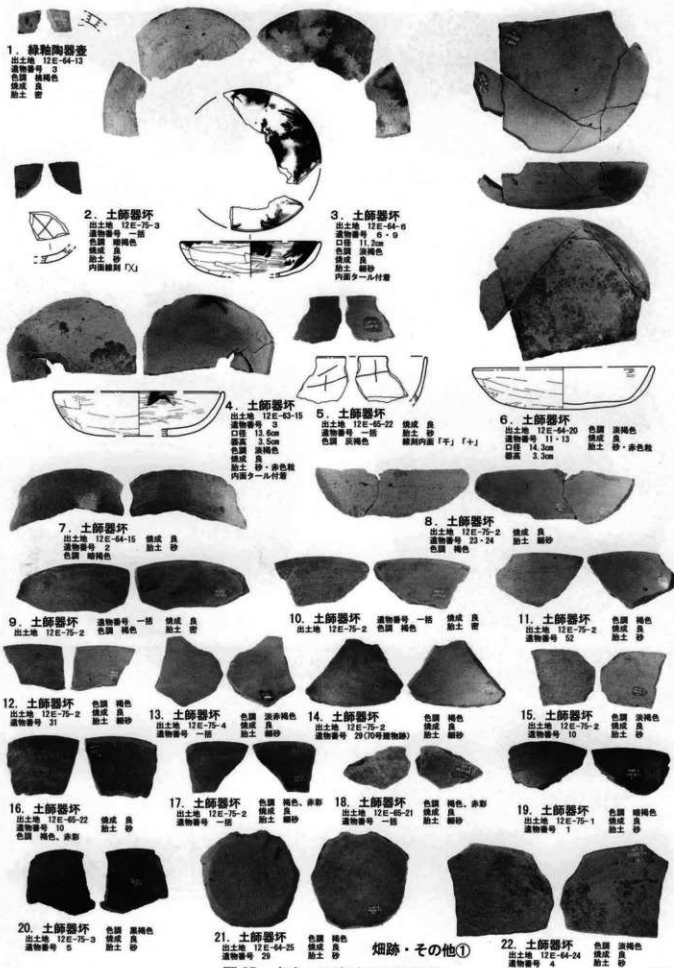
24. 土師器壺

遺物番号 18  
口径 20.8cm  
胴径 27.6cm  
底径 12.8cm  
器高 19.7cm  
色調 赤褐色  
地質 粘土  
胎土 砂

奈良時代清④

図 84. 奈良・平安時代の遺物 38





1. 緑釉陶器壺  
 出土地 12E-64-13  
 遺物番号 1  
 色調 緑褐色  
 焼成 良  
 胎土 堅

2. 土師器環  
 出土地 12E-75-3  
 遺物番号 一括  
 色調 緑褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂  
 内面刻劃 ㄨ

3. 土師器環  
 出土地 12E-64-6  
 遺物番号 6-9  
 口径 11.2cm  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 細砂  
 内面ターム付着

4. 土師器環  
 出土地 12E-63-15  
 遺物番号 3  
 口径 13.6cm  
 高さ 3.5cm  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂・赤色粒  
 内面ターム付着

5. 土師器環  
 出土地 12E-65-22  
 遺物番号 一括  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂  
 縁部内面「干」「+」

6. 土師器環  
 出土地 12E-64-20  
 遺物番号 11-13  
 口径 14.2cm  
 高さ 3.3cm  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂・赤色粒

7. 土師器環  
 出土地 12E-64-15  
 遺物番号 2  
 色調 緑褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

8. 土師器環  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 23-24  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 細砂

9. 土師器環  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 一括  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 堅

10. 土師器環  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 一括  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 堅

11. 土師器環  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 52  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

12. 土師器環  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 31  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 細砂

13. 土師器環  
 出土地 12E-75-4  
 遺物番号 一括  
 色調 淡赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 細砂

14. 土師器環  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 29(70号遺物跡)  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 細砂

15. 土師器環  
 出土地 12E-75-1  
 遺物番号 10  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

16. 土師器環  
 出土地 12E-65-22  
 遺物番号 10  
 色調 褐色、赤紫  
 焼成 良  
 胎土 砂

17. 土師器環  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 一括  
 色調 褐色、赤紫  
 焼成 良  
 胎土 細砂

18. 土師器環  
 出土地 12E-65-21  
 遺物番号 一括  
 色調 褐色、赤紫  
 焼成 良  
 胎土 細砂

19. 土師器環  
 出土地 12E-75-1  
 遺物番号 7  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

20. 土師器環  
 出土地 12E-75-3  
 遺物番号 5  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

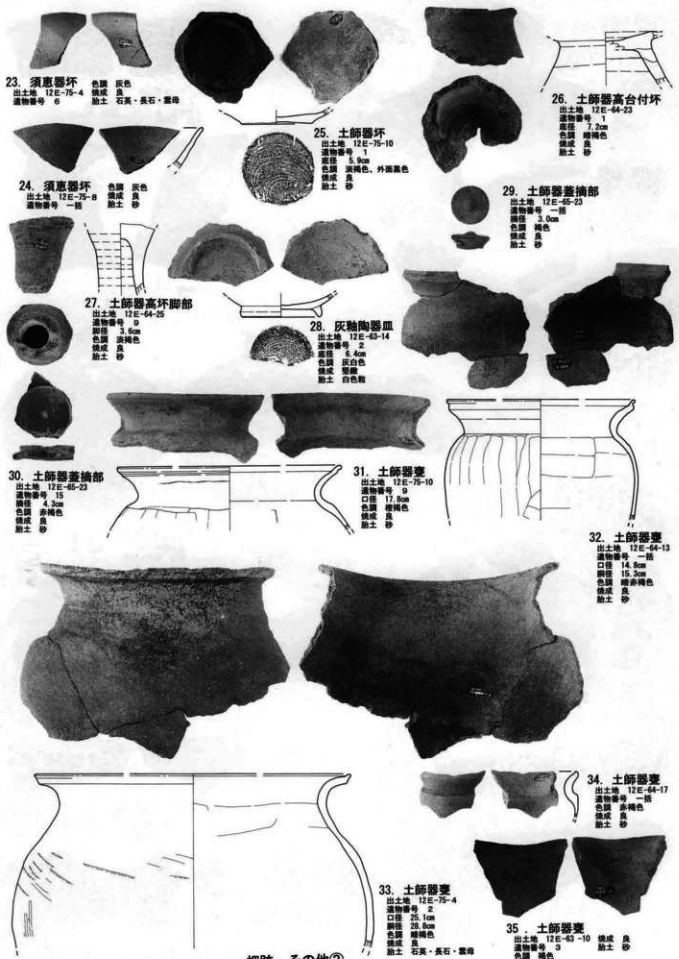
21. 土師器環  
 出土地 12E-64-25  
 遺物番号 29  
 色調 褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

烟跡・その他①

22. 土師器環  
 出土地 12E-64-24  
 遺物番号 4  
 色調 淡褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

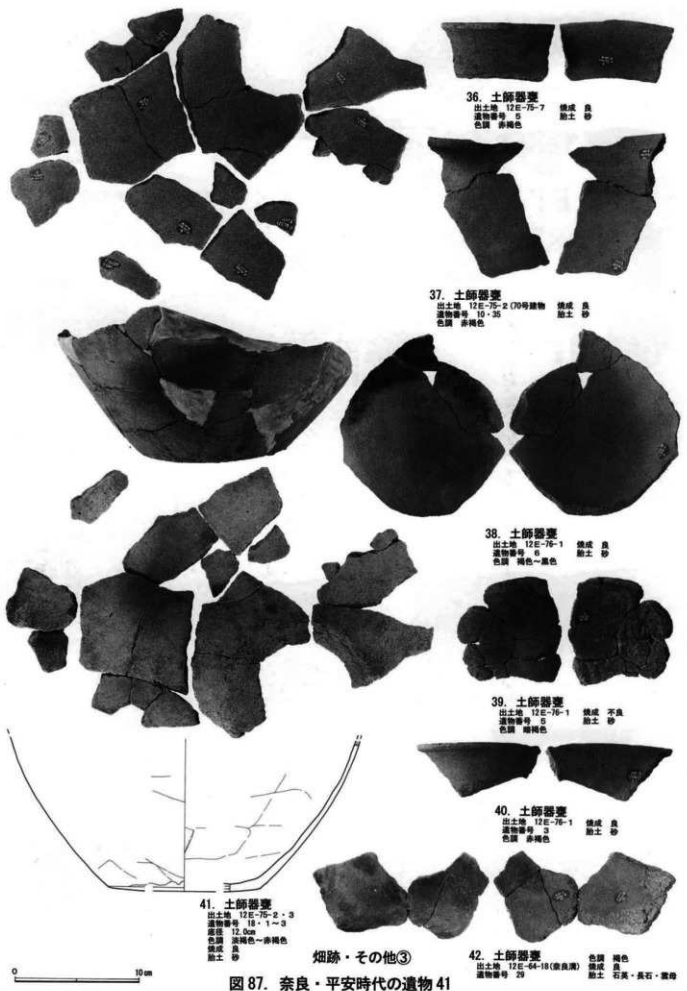
図 85. 奈良・平安時代の遺物 39





細跡・その他②

図 86. 奈良・平安時代の遺物 40



36. 土師器甕

出土地 12E-75-7 焼成 良  
 遺物番号 5 胎土 砂  
 色調 赤褐色

37. 土師器甕

出土地 12E-75-2 (70号建物) 焼成 良  
 遺物番号 10-35 胎土 砂  
 色調 赤褐色

38. 土師器甕

出土地 12E-76-1 焼成 良  
 遺物番号 6 胎土 砂  
 色調 褐色~黒色

39. 土師器甕

出土地 12E-76-1 焼成 不良  
 遺物番号 5 胎土 砂  
 色調 暗褐色

40. 土師器甕

出土地 12E-76-1 焼成 良  
 遺物番号 3 胎土 砂  
 色調 赤褐色

41. 土師器甕

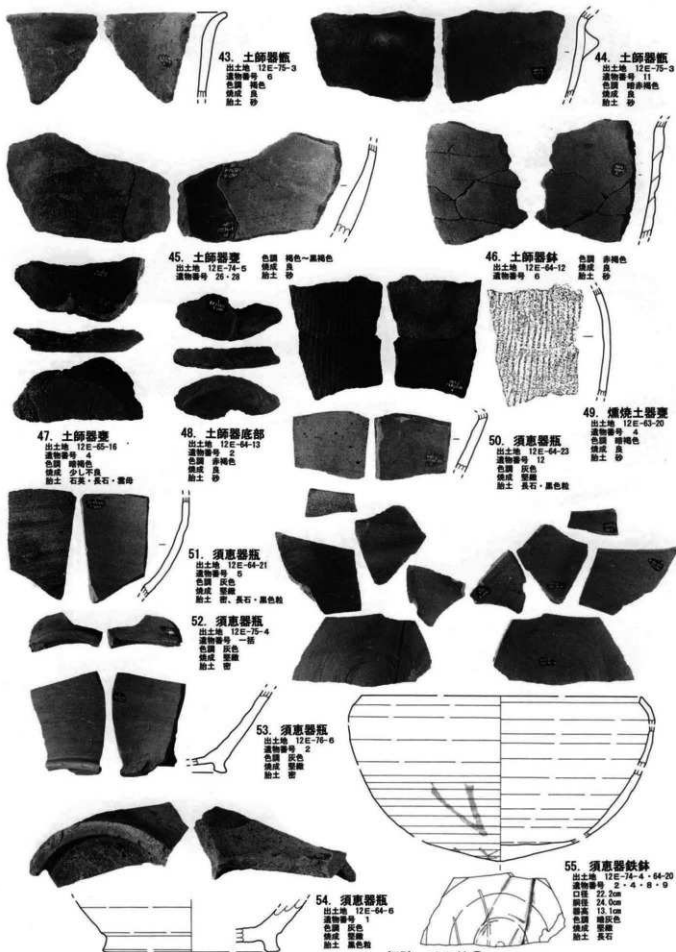
出土地 12E-75-2・3  
 遺物番号 15・1-3  
 直径 12.0cm  
 色調 赤褐色~赤褐色  
 焼成 良  
 胎土 砂

烟跡・その他③

42. 土師器甕

出土地 12E-64-18(奈良漬) 色調 褐色  
 遺物番号 29 焼成 良  
 胎土 石灰・長石・霞石

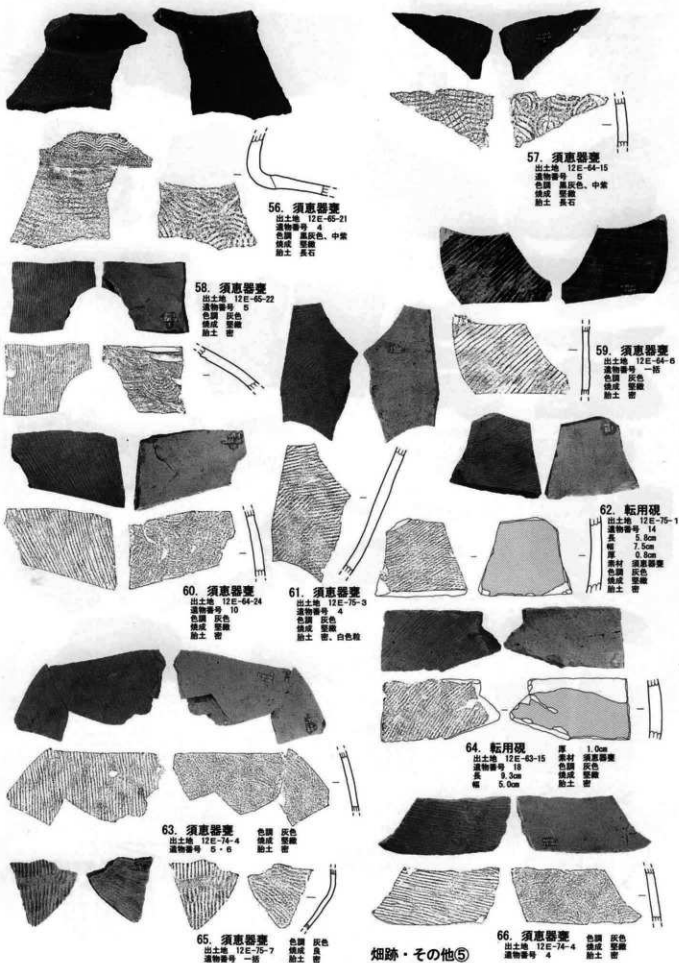
図 87. 奈良・平安時代の遺物 41



細跡・その他④

図 88. 奈良・平安時代の遺物 42





烟跡・その他⑤

図 89. 奈良・平安時代の遺物 43

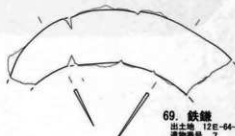
0 10cm



67. 紡錘車  
 出土地 12E-76-b  
 遺物番号 3  
 径 4.1cm  
 厚 2.3cm  
 重 39.7g  
 素材 土製  
 色調 褐色  
 肌理 良  
 胎土 細砂



68. 鉄刀子  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 45  
 長 9.1cm  
 幅 0.9cm  
 厚 0.3cm  
 重 12.9g



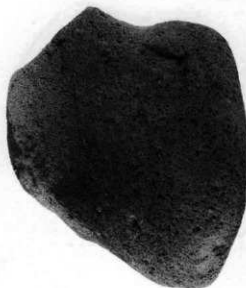
69. 鉄鏢  
 出土地 12E-64-11  
 遺物番号 7  
 長 11.3cm  
 幅 2.8cm  
 厚 0.2cm  
 重 33.5g



70. 鉄滓  
 出土地 12E-75-2  
 遺物番号 21  
 長 5.3cm  
 幅 4.9cm  
 厚 1.8cm  
 重 78.8g

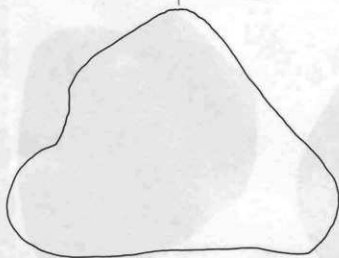
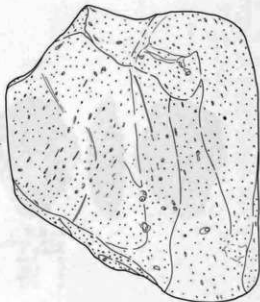
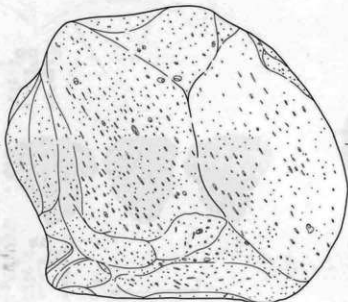
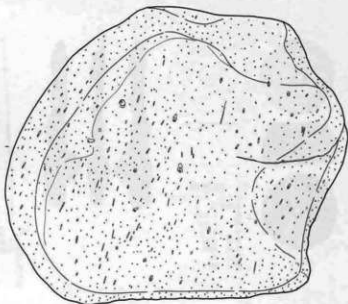
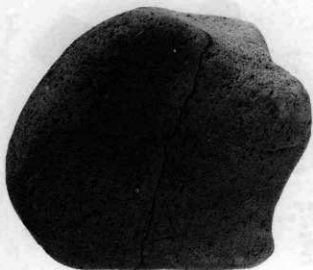


71. 鉄滓  
 出土地 12E-75-3  
 遺物番号 一箇  
 長 4.4cm  
 幅 4.8cm  
 厚 3.6cm  
 重 92.5g



畑跡・その他⑥

図 90. 奈良・平安時代の遺物 44



72. 軽石  
出土地 12E-64-19  
遺物番号 5  
長 23.8cm  
幅 22.4cm  
厚 17.4cm  
重 1566.7g



烟跡・その他⑦

図 91. 奈良・平安時代の遺物 45



芝崎遺跡は、下総台地東北部を流れる栗山川が、台地から九十九里浜の海岸低地に出る付近の左岸側に形成された微高地上に位置する。今回は、芝崎遺跡より出土した土師器片の分析を行い、産地等の情報を得ることを目的とする。

## 1. 試料

試料は、芝崎3遺跡より出土した土師器片の分析1点である。発掘調査所見により、付近で出土する土師器とは胎土の質が異なるとされており、近畿地方や東海地方からの搬入品である可能性のあることも指摘されている。

## 2. 分析方法

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。薄片は偏光顕微鏡による岩石学的手法を用いて観察し、胎土に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにする。

データの表示は、胎土に含まれる砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類を記載し、薄片下におけるその量比を多量は◎、少量は△などの記号で示す。また、胎土の基質は、孔隙の分布する程度と砂の配列や孔隙などの方向性の確認や、基質を構成する粘土が焼成の結果、どの程度ガラス化してどの程度粘土鉱物として残存しているか、酸化鉄などの鉄分の含まれる程度について定性的に記載する。

## 3. 結果

観察結果を表1に示す。胎土中の砂粒は中量程度であり、最大粒径は約1.3mm、粒径の淘汰度は不良である。胎土中の砂粒の主体は、石英の鉱物片と火山ガラスである。火山ガラスは、平板状のいわゆるバブル型が多く認められ、微量の発泡した軽石型も認められた。石英と火山ガラス以外には、カリ長石、斜長石、角閃石、緑帘石、ジルコン、不透明鉱物の各鉱物片とおそらく花崗岩類に由来すると思われる多結晶石英、さらに微化石である植物珪酸体などがいずれも微量認められた。

基質にはガラス化した部分はほとんど認められず、焼成温度の比較的低いことが推定される。また、基質は褐色を呈し、含鉄質である。

表1. 胎土薄片観察結果

試料名	砂粒			砂粒の種類構成								孔隙度	方向性	粘土残存量	含鉄量	備考	
	全量	淘汰度	最大径	鉱物片					岩石片								
				カリ長石	斜長石	角閃石	緑帘石	ジルコン	多結晶石英	火山ガラス	植物珪酸体						
芝崎3H47-3 12E76-6	○	△	1.3	△	+	+	+	+	+	+	+	△	+	△	△	◎	火山ガラスはバブルウォール型が主体で軽石型は極めて少ない。素地は褐色を呈し、含鉄質である。

量比 ◎：多量 ○：中量 △：少量 +：微量 ×：なし

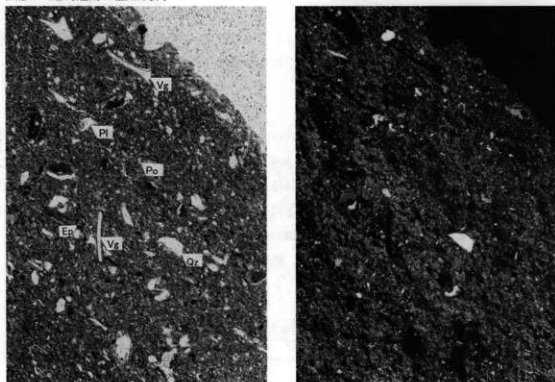
程度 ◎：強い ○：中程度 △：弱い ×：なし - 107 -

#### 4. 考 察

胎土中の砂粒の主体を占める石英は、一般には花崗岩や流紋岩などの酸性火成岩の主成分鉱物であるが、砂岩やチャートなどの堆積岩や片麻岩、結晶片岩などの変成岩にも多く産する。一方、バブル型の火山ガラスは、第四紀のテフラ層に由来するが、バブル型火山ガラスを主体としたテフラ層は、全国各地の第四紀層中に多数認められている。したがって、石英とバブル型火山ガラスが主体を占めるという胎土からは、その背景となる地質を推定することは難しい。また、他に認められた鉱物片・岩石片の中で、カリ長石や角閃石、多結晶石英などは、花崗岩類の分布する地質を示唆するとも言えるが、いずれも微量であることから、花崗岩類の分布地域における表層の堆積物に由来するというよりも、新生代の堆積岩類などを構成している碎屑物に由来する可能性がある。

以上のことにより今回の分析からは、関東地方も含めて、その製作地域を特定することはできない。本試料の胎土の地域性を検討するためには、今後も、本遺跡および周辺遺跡より出土した同時期とされる土師器の胎土の特性と発掘調査所見から本試料と同時期とされる近畿地方あるいは東海地方で出土した土師器の胎土の特性とを明らかにして、本試料との異質性あるいは類似性を確認することが必要と考えられる。

図版1 芝崎遺跡の胎土薄片



1. 芝崎3 H47-3 12E76-6

Qz:石英 Pl:斜長石 Ep:緑レン石 Vg:火山ガラス Po:植物珪酸体

0.5mm

写真左は下方ポーラー、写真右は直交ポーラー下。

### 3) 鎌倉・室町時代(中世)

日本の中世は、鎌倉時代から室町時代の約360年間である。武士が権力を握り、各地の土地をそれぞれ在地領主として支配し、平時は農民として土地を耕し、いざと言うと刀・槍を持って戦いにはせ参じた。戦いが多かったことから暗い時代のイメージが強いが、一面では行動は自由で、特に経済は中国銭の流入によって成長し、物資の流通は盛んになった。このような時代を中世、あるいは鎌倉・室町時代と呼ぶことにする。

この芝崎遺跡でも中国の陶磁器や銭貨が出土し、ほかに多くの国産陶磁器が入ってきたことが、発掘調査によって明らかになった。

#### (1) 遺構

芝崎遺跡のこの発掘調査では、鎌倉・室町時代の遺構は溝が数条と土坑1基を検出したのみで、道路部分の調査で検出した家の跡や畑跡などはなかった。溝は大きく2種類に分ることができる。

その1つは遺跡の西北西方向から延びてくる溝と、それに合流あるいは直角に付く溝などである。その中で中心となる31号溝は、側面が傾斜し底が平らな断面が逆台形で、深さが0.5m前後で一定している。直線ではなく、緩やかな曲線を描いたり曲折したりし、どういう溝であるか測りかねる。この溝の西への延長上では細くなって、覆土は黒色で、青磁碗B類の破片が出土しているところから、中世でも古い時期に当たる。そのことからこの31号溝も鎌倉時代ころに掘られ、長く使われたと考えられる。また、36号溝は少しゆがんだ長方形に周囲する溝であるが、溝の内側には同時期の遺構は検出されなかった。これも31号溝と同時期と思われる。

2つ目の種類の溝は調査区域東部で検出した41・42・44号の3条の溝である。まず41・42号溝は幅が広く直角に近い角度で曲がり、中に仕切を有している。深さは地山面から0.3~0.8mで、浅いが室町時代末期の堀とよく似ている。44号溝は方形穴が連続した形で、一見連続並列坑のようであるが、これも障子堀の底が残ったものと見れば、溝として納得できる。これら3条の堀が囲む構築物として考えられるものは、これら堀の北西側に居館か何かがあったらしいことである。ちょうどその場には水神祠があり、この中世末期の遺構と、地元伝承による水神と関連あるか、北側の調査で明らかになるかもしれない。

#### (2) 遺物

中世の遺物では、陶磁器、砥石、銭貨、それに銅製品がある。

陶磁器では、中国製青磁碗破片が1点あり、国産陶磁では古瀬戸の緑釉小皿、天目碗、播鉢、渾美の甕、常滑の甕、鉢、土器では小皿、内耳土鍋などがあり、時期的に幅があるが、室町時代中期の15世紀を中心に出土している。

図96に示した砥石は、形態から奈良・平安時代のもの、あるいは江戸時代のものである可能性もある。

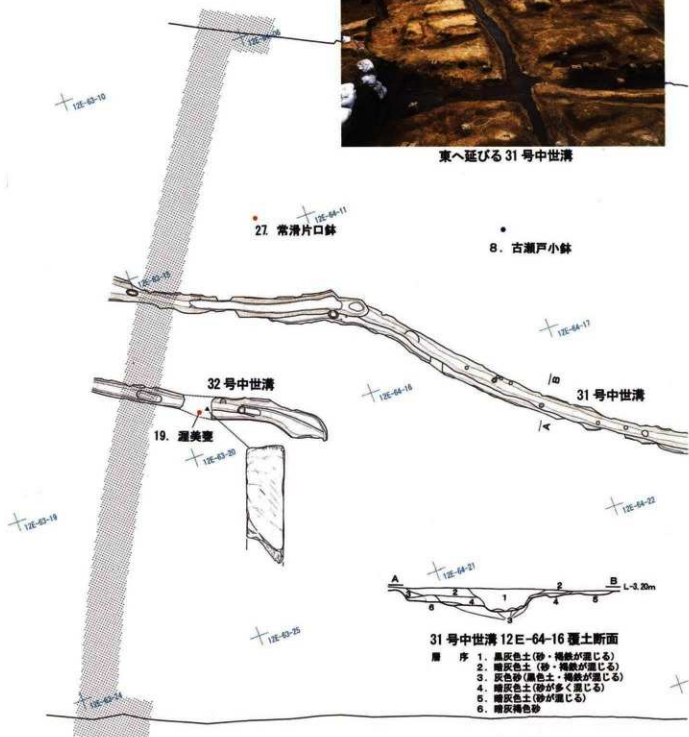
銭貨は、溝の中や東部地山面上から4点出土した。

12E-75-9で出土した銅製品は、銅地に塗金が少し残り、金銅製品であることが分った。下部に破損跡が見られ、何かの部品であった可能性が考えられる。

東部では81号土坑、及びその南東側斜面で、火葬骨片が出土した。決して多い量ではないので、ここで火葬をしたというのではない。



東へ延びる31号中世溝



31号中世溝 12E-64-16 覆土断面

- 層 序
1. 黒灰色土(砂・埴粒が混じる)
  2. 暗灰色土(砂・埴粒が混じる)
  3. 灰色砂(黒色土・埴粒が混じる)
  4. 暗灰色土(砂が多く混じる)
  5. 暗灰色土(砂が混じる)
  6. 暗灰褐色砂

**31号中世溝**  
 時期 13~15世紀  
 位置 12E-63-15~64-25  
 溝幅 幅1.0~1.5m, 長64m  
 主軸方向 N-50°~80°-W  
 深さ 0.5m  
 遺物 特になし  
 特記事項 西部から断続的に続く溝

**32号中世溝**  
 時期 13~15世紀  
 位置 12E-63-15  
 溝幅 幅0.8~1.2m, 長10m  
 主軸方向 N-60°-W  
 深さ 0.5m  
 遺物 特になし  
 特記事項 31号溝に平行して、西部から断続的に続く溝。

- 鉄貨・銅製品
- 青磁・古瀬戸
- 常滑・瀬美
- カワラケ・内耳土鍋
- ▲ 磁石・燧石
- 骨片

図 92. 鎌倉・室町

### 33号中世溝

時期 13~15世紀  
 位置 12E-64-13~64-17  
 規模 幅0.8m、長16.5m  
 主軸方向 N-32°-E  
 深さ 0.3m  
 遺物 周辺から瀬戸遺鉢、常滑甕・鉢  
 特記事項 31号溝に直角で並び、狭く連絡か、

+ 12E-64-13

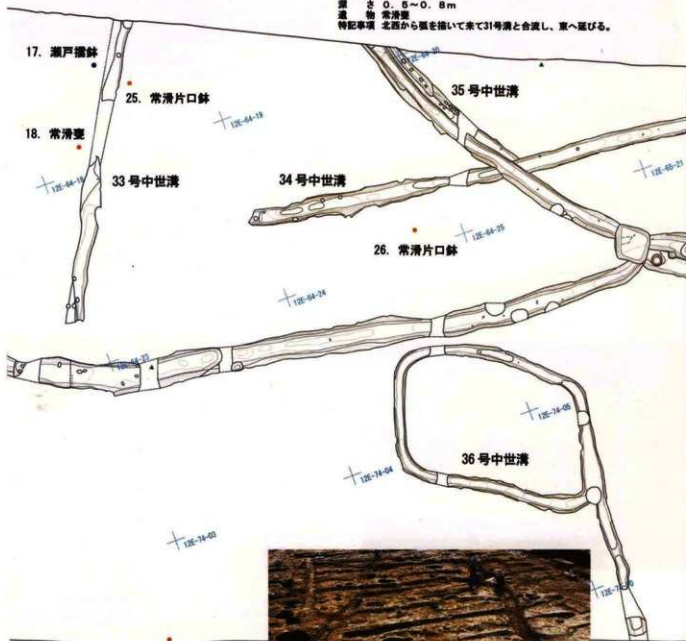
### 34号中世溝

時期 13~15世紀  
 位置 12E-64-19~65-16  
 規模 幅0.9~1.1m、長30m  
 主軸方向 N-80°-W  
 深さ 0.5m  
 遺物 周辺から常滑甕、内瓦土鍋  
 特記事項 31号溝に平行し、35号溝と交差して東へ延びる。



### 35号中世溝

時期 13~15世紀  
 位置 12E-64-14~75-5  
 規模 幅1.1~2.0m、長70m  
 主軸方向 N-20~30°-W  
 深さ 0.5~0.8m  
 遺物 常滑甕  
 特記事項 北西から弧を描いて来て31号溝と合流し、東へ延びる。



17. 瀬戸遺鉢

18. 常滑甕

25. 常滑片口鉢

33号中世溝

34号中世溝

35号中世溝

26. 常滑片口鉢

36号中世溝

23. 常滑甕

### 36号中世溝

時期 13~15世紀  
 位置 12E-64-24~74-10  
 規模 幅0.6~1.2m、長4.5m  
 主軸方向 N-60°-W  
 深さ 0.3~0.4m  
 遺物 特になし  
 特記事項 10×7.5mで周回し、南東で南へ支溝が延びる。

+ 12E-74-07



周回する36号中世溝

時代の遺構 1

0 5m



合流する31号と35号中世溝



東へ進む35号中世溝



37号中世溝

1. 青磁碗

### 37号中世溝

時期 13~15世紀  
位置 12E-65-23~75-7  
規模 幅1.0~1.3m、長27m  
主軸方向 N-15°-E  
深さ 0.5~0.6m  
遺物 特になし  
特記事項 北から直線来て35号溝と交差し、38号溝と合流する。

### 38号中世溝

時期 13~15世紀  
位置 12E-75-12~75-14  
規模 幅0.5~1.2m、長23m  
主軸方向 N-68~83°-W  
深さ 0.3~0.5m  
遺物 特になし  
特記事項 37号溝と合流し、41号溝に繋がる。

図 93. 鎌倉・室町

### 39号中世溝

時期 15世紀  
位置 12E-75-5~75-10  
規模 幅1.8~2.0m、長13m  
主軸方向 N-13°-E  
深さ 0.5~0.6m  
遺物 銭貨水虫通宝  
特記事項 35号溝と交差し、41号溝に繋がる。

### 40号中世溝

時期 13~15世紀  
位置 12E-75-5~75-10  
規模 幅1.0~1.5m、長10m  
主軸方向 N-1°-E  
深さ 0.5~0.6m  
遺物 瀬戸天目鏡、常滑壺  
特記事項 35号溝と繋がり、41号溝に合流する。

### 42号中世溝

時期 15~16世紀  
位置 12E-76-6~76-7  
規模 幅1.7~3.3m、長15m  
主軸方向 N-93°-W  
深さ 0.6分~0.8m  
遺物 銭貨「元禄通宝」、土器小皿(カワラケ)  
特記事項 く字に屈曲し、仕切がある。上に江戸溝が重なる。



発掘途中の42号中世溝



### 43号中世溝

時期 15~16世紀  
位置 12E-76-7~76-12  
規模 幅1.1~1.5m、長14.5m  
主軸方向 N-2°-E  
深さ 0.3~0.5m  
遺物 土器小皿(カワラケ)  
特記事項 42号溝と交差する。

### 41号中世溝

時期 15~16世紀  
位置 12E-75-14~76-11  
規模 幅1.5~3.0m、長25m  
主軸方向 N-103°-W  
深さ 0.3~0.8m  
遺物 内耳土鍋  
特記事項 直角に屈曲し、仕切がある。



仕切のある41号中世溝

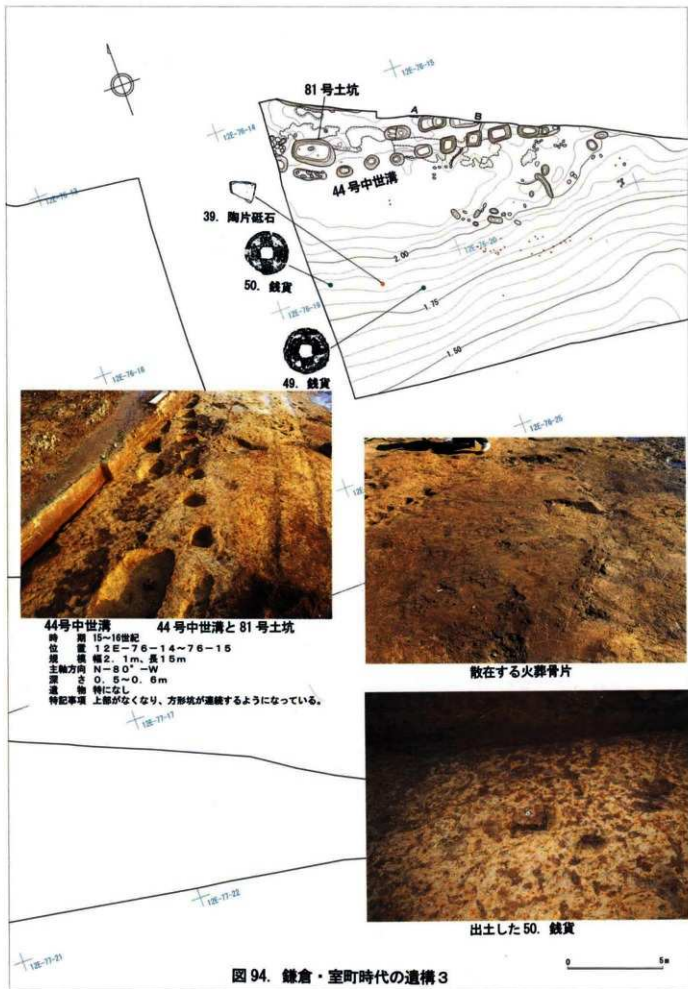
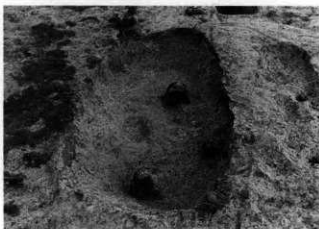


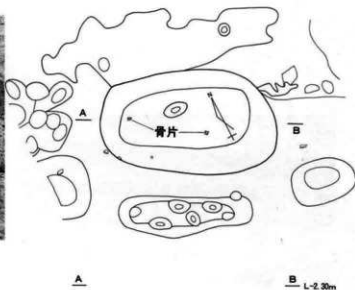
図 94. 鎌倉・室町時代の遺構 3





**81号土坑**

時期 15~16世紀  
 位置 12E-76-14  
 規模 2.33m×1.38m  
 主軸方向 N-61°-W  
 深さ 0.32m  
 遺物 火跡骨片  
 特記事項 44号中世溝中にある



**84号土坑**

時期 15世紀  
 位置 12E-64-25  
 規模 1.83m×1.80m  
 主軸方向 N-32°-E  
 深さ 0.46m  
 遺物 座敷に木炭粉  
 特記事項 31・35号中世溝の合流点にある

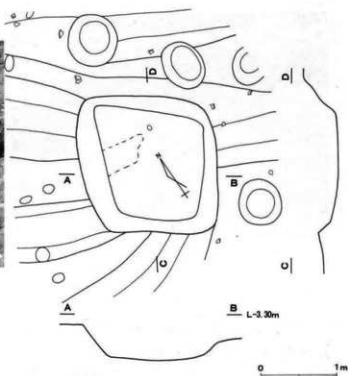
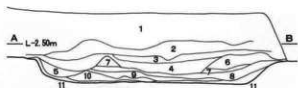


図95. 鎌倉・室町時代の遺構4



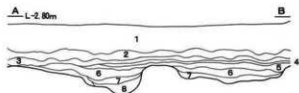
### 31号中世溝土層断面

- 層序
1. 黒色土 (灰色砂が混じる)
  2. 黒灰色土 (砂・褐鉄が混じる)
  3. 黒灰色土 (砂が混じり、堅い)
  4. 黒色砂 (砂が混じり、堅い)
  5. 黒灰色土 (砂が多く混じり、堅い)
  6. 黒灰色土 (砂が混じり、粘質)
  7. 暗灰色土 (砂・褐鉄が混じる)
  8. 黒灰色土 (砂・褐鉄が混じる)
  9. 黒灰色土 (砂が混じり、堅い)
  10. 黒灰色土 (砂が多く混じり、堅い)



### 42号中世溝土層断面

- 層序
1. 暗灰色土 (黄土)
  2. 黒灰褐色土 (砂が混じり、堅い)
  3. 黒灰色土 (砂が多く混じり、褐鉄が入り、堅い)
  4. 黒灰色土 (砂が混じり、褐鉄が入り、堅く粘質)
  5. 黒灰色土 (砂が混じり、堅い)
  6. 灰～赤褐色砂 (これから下部は中世層)
  7. 黒灰色土 (砂が混じる)
  8. 褐色粘砂
  9. 暗灰色砂 (灰色土が混じる)
  10. 灰色砂
  11. 黒灰色土 (砂が混じり、粘質)



### 44号中世溝土層断面

- 層序
1. 暗灰色土 (黄土)
  2. 暗褐色土 (砂が多く混じる)
  3. 暗灰褐色土 (砂が混じり、粘質)
  4. 黒色砂 (宝水灰山灰)
  5. 黒灰色土 (砂が混じり、粘質)
  6. 暗灰色土 (褐色砂が多く混じる)
  7. 灰色砂 (黒灰色土・赤褐色砂が混じる)
  8. 黒灰色土 (灰色砂が多く混じる)

図 96. 鎌倉・室町時代の遺構 5

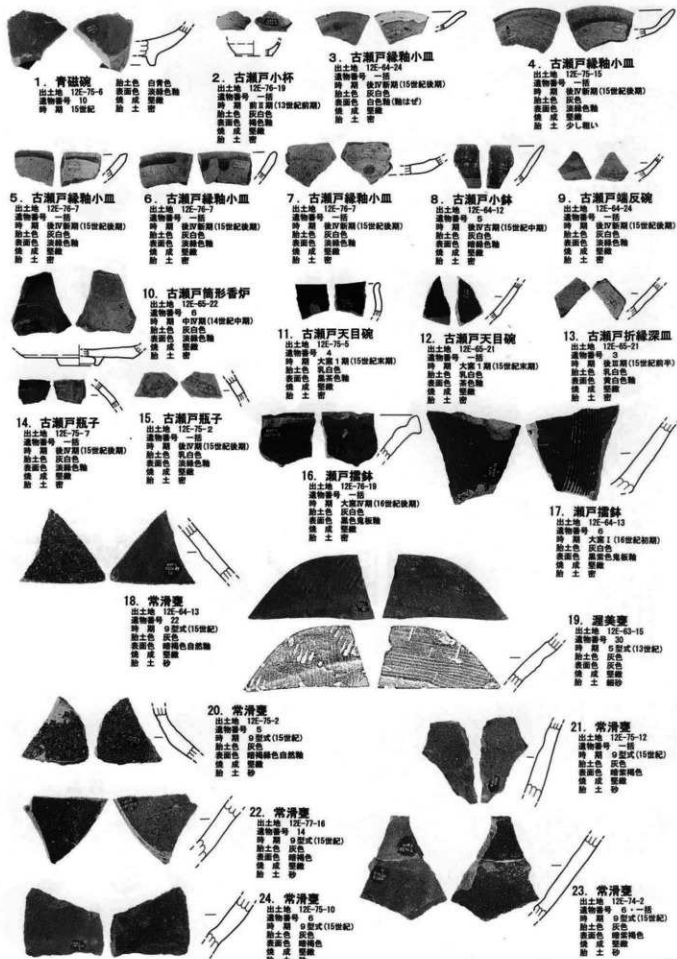


図97. 鎌倉・室町時代の遺物 1

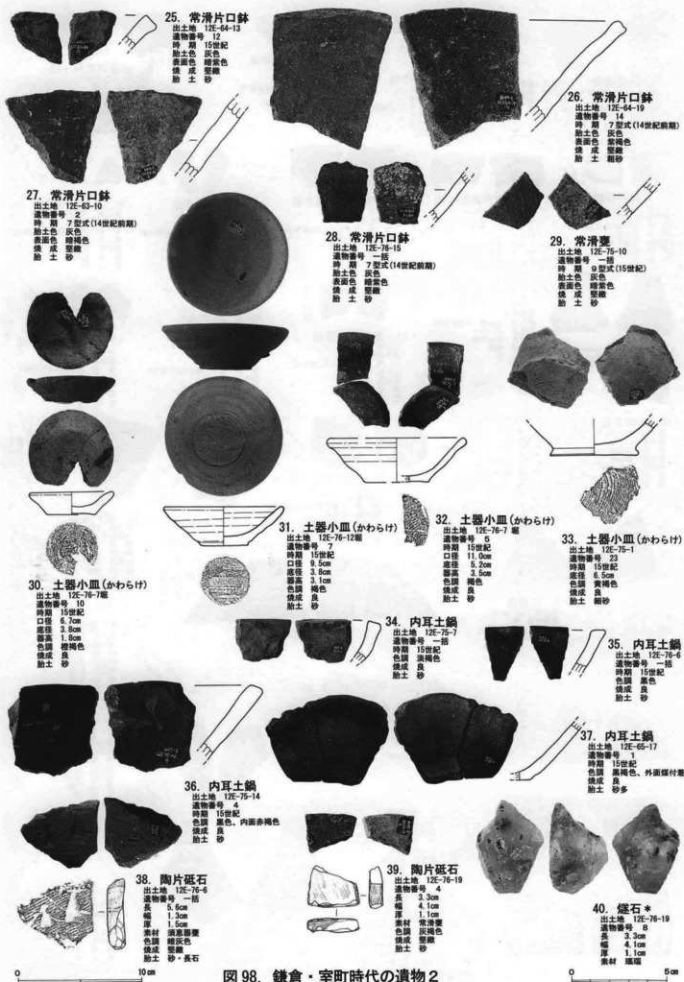
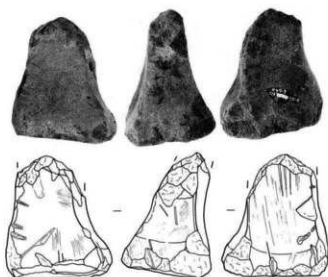


図 98. 鎌倉・室町時代の遺物 2



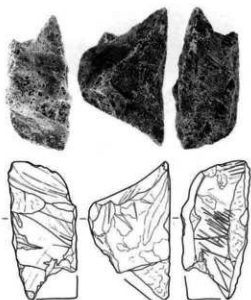
41. 磁石

出土地 12E-75-4  
 遺物番号 15  
 長さ 6.5cm  
 幅 5.6cm  
 厚 4.7cm  
 重 140.6g  
 素材 砂岩



44. 磁石

出土地 12E-76-6  
 遺物番号 9  
 長さ 6.4cm  
 幅 2.0cm  
 厚 2.9cm  
 重 43.3g  
 素材 流紋岩



42. 磁石

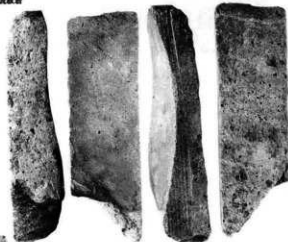
出土地 12E-63-4  
 遺物番号 4  
 長さ 7.5cm  
 幅 3.5cm  
 厚 4.3cm  
 重 101.4g  
 素材 流紋岩



43. 磁石

出土地 12E-75-13  
 遺物番号 一箇  
 長さ 4.2cm

幅 3.8cm  
 厚 1.6cm  
 重 32.2g  
 素材 砂岩



46. 磁石

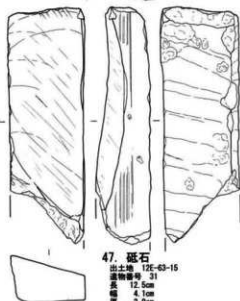
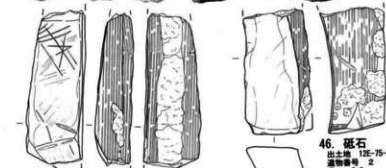
出土地 12E-75-4  
 遺物番号 2  
 長さ 6.6cm  
 幅 3.6cm  
 厚 3.4cm  
 重 101.3g  
 素材 流紋岩



45. 磁石

出土地 12E-76-6  
 遺物番号 10  
 長さ 8.1cm

幅 3.0cm  
 厚 2.1cm  
 重 61.9g  
 素材 流紋岩



47. 磁石

出土地 12E-63-16  
 遺物番号 31  
 長さ 12.6cm  
 幅 4.1cm  
 厚 2.9cm  
 重 167.5g  
 素材 流紋岩

図 99. 鎌倉・室町時代の遺物 3



48. 銭貨(元祐通宝)

出土地 12E-76-7  
遺物番号 11  
径 2.4cm  
重 2.7g



49. 銭貨(判読不可)

出土地 12E-76-19  
遺物番号 9  
径 2.4cm  
重 3.1g



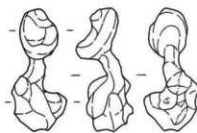
50. 銭貨(熙寧元宝)

出土地 12E-76-14  
遺物番号 6  
径 2.5cm  
重 3.0g



51. 銭貨(永樂通宝)

出土地 12E-76-10  
遺物番号 2  
径 2.5cm  
重 2.2g



52. 金銅製品

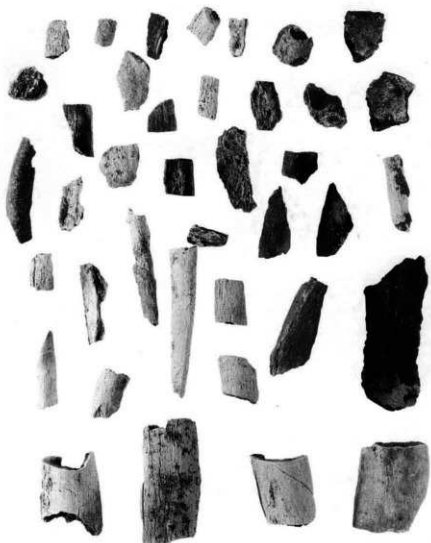
出土地 12E-76-9  
遺物番号 6  
径 3.2cm  
高 1.5cm  
厚 1.2cm  
重 12.9g

0 2cm

図 100. 鎌倉・室町時代の遺物 4



53. 81号土坑出土の骨片



53. 12E-76-20周辺出土の骨片



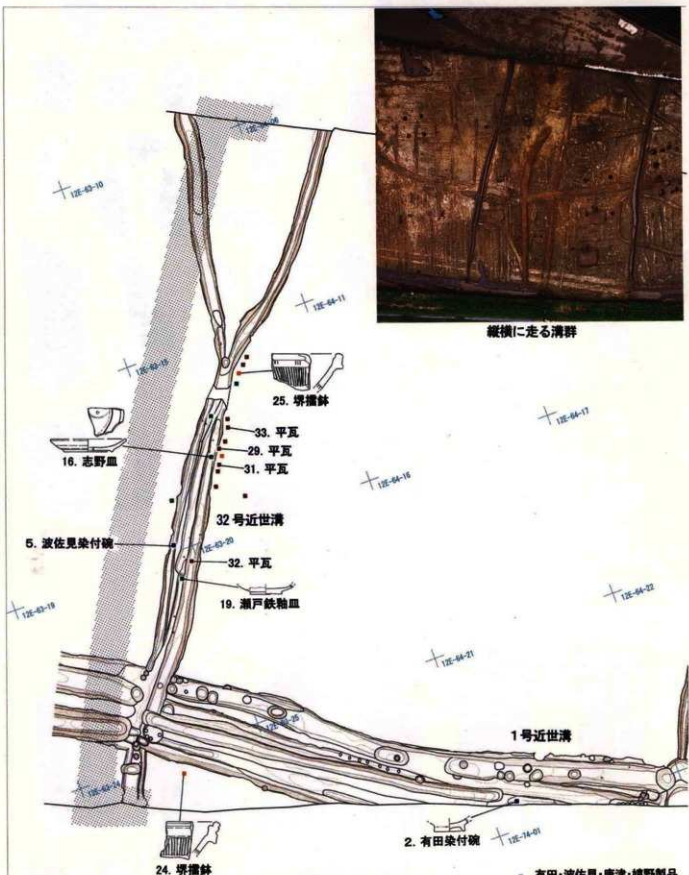
53. 12E-77-16出土の馬歯



図 101. 鎌倉・室町時代の遺物 5



縦横に走る溝群



**32号近世溝**

時期 17~18世紀  
位置 12E-63-10~63-24  
規模 幅0.7~1.8m, 長37m  
主軸方向 N-33°-E  
深さ 0.6~0.8m  
遺物 志野皿、瀬戸鉄軸皿、堺搥鉢、瓦  
特記事項 北端で二又に分れ、南で1号溝と交差する。

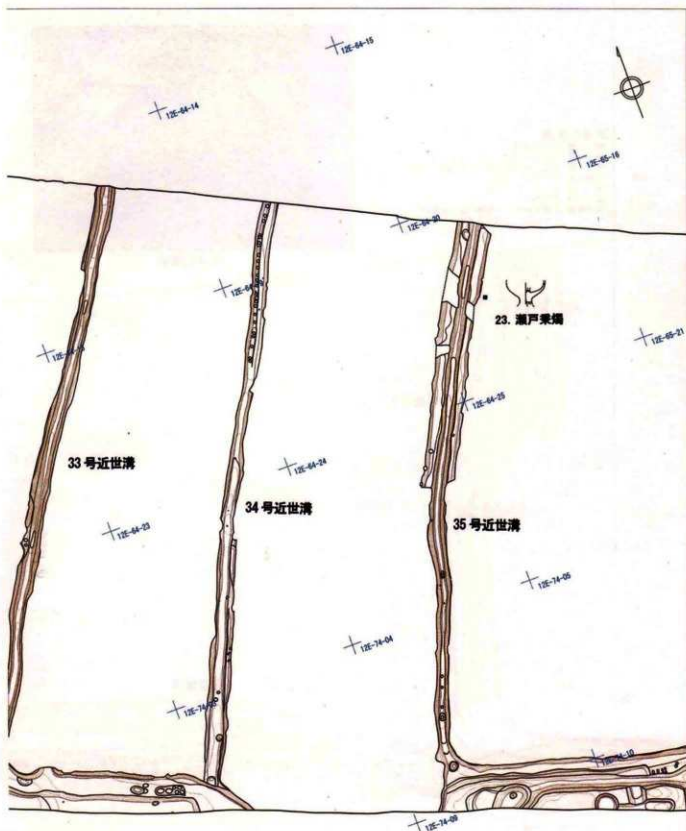
**1号近世溝**

時期 17~18世紀  
位置 12E-63-19~76-7  
規模 幅1.6~4.6m, 長140.0m  
主軸方向 N-50~105°-W  
深さ 0.8~1.2m  
遺物 有田染付碗、志野皿  
特記事項 荒山川に沿っている。

- 有田・波佐見・唐津・雄野製品
- 瀬戸・美濃製品
- 堺製品
- 瓦

図 102. 江戸





### 33号近世溝

時期 17~18世紀  
 位置 12E-64-13~64-22  
 規模 幅1.0m、長31.5m  
 主軸方向 N-35°-E  
 深さ 0.3~1.0m  
 遺物 特になし  
 特記事項 1号溝に直角で繋がる。

### 34号近世溝

時期 17~18世紀  
 位置 12E-64-14~74-3  
 規模 幅0.6~1.1m、長31.0m  
 主軸方向 N-34°-E  
 深さ 0.4~0.8m  
 遺物 特になし  
 特記事項 1号溝に直角で繋がる。

### 35号近世溝

時期 17~18世紀  
 位置 12E-64-20~74-4  
 規模 幅0.7~1.6m、長28.6m  
 主軸方向 N-24°-E  
 深さ 0.5~0.8m  
 遺物 堀田から瀬戸衆堀  
 特記事項 1号溝に直角で繋がる。

時代の遺構 1

0 5m

36号近世溝

時期 17~18世紀  
位置 12E-65-17~75-6  
規模 幅2.4~4.5m、長26.5m  
主軸方向 N-26°-E  
深さ 0.5~0.7m  
遺物 志野皿  
特記事項 遺跡も付き、1号溝に直角で繋がる。



36号近世溝

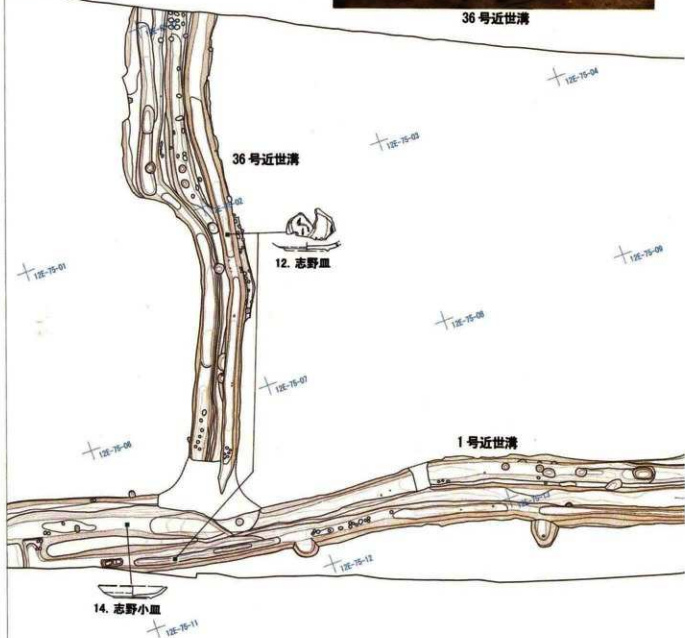


图 103. 江戸



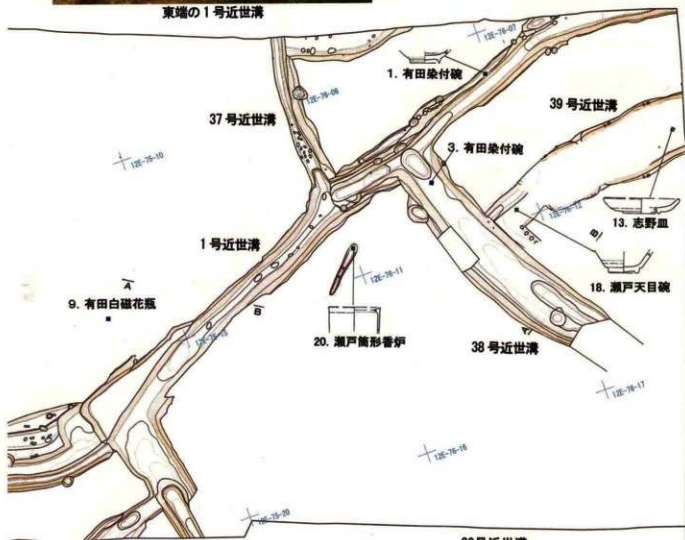
東端の1号近世溝

### 37号近世溝

時期 17~18世紀  
 位置 12E-76-1-75-10  
 規模 幅0.7~1.2m、長8.0m  
 主軸方向 N-6°-E  
 深さ 0.6~0.8m  
 遺物 特になし  
 特記事項 1号溝に直角で繋がる。

### 38号近世溝

時期 17~18世紀  
 位置 12E-76-6-76-12  
 規模 幅2.5~3.2m、長12.5m  
 主軸方向 N-29°-W  
 深さ 1.0~1.3m  
 遺物 有田染付碗  
 特記事項 1号溝に直角で繋がる。



### 39号近世溝

時期 17~18世紀  
 位置 12E-76-6-76-7  
 規模 幅0.8~3.5m、長17.0m  
 主軸方向 N-92°-W  
 深さ 0.2~0.3m  
 遺物 志野皿、瀬戸天目碗  
 特記事項 38号溝と交差する。

#### 4) 江戸時代 (近世)

江戸時代は中世と違って身分が分けられ、土地の移動も厳しく制限された、完全な封建社会であった。そのため農村社会は260年間変化せず継続した様であるが、中世に発達した流通経済は廃れることなく、続いたことが発掘によって分った。

##### (1) 遺構

芝崎遺跡の本調査区域では、江戸時代の遺構は溝と道跡が検出されたのみである。主な溝は調査区域南部を栗山川に沿って走る1号溝で、幅が4mあってさらに複数の溝が中にあり、何回も掘り返されている。これに直行するようにいくつも溝が連結し、排水溝の様である。また、これらの溝の多くは、現在の畑地割の下から検出されることが多い。このことから、現在の畑地割が江戸時代からほとんど変化していないことが分った。1号溝の底からは、所々で1706年噴火の富士宝永火山灰の堆積が確認された。このことから18世紀初めには溝がすでに掘られていたことが分り、17世紀にも存在した可能性も考えられる。また東部の39号溝の下には、42号中世溝があり、中世溝を踏襲して近世溝を作っていて、中世から近世への継続性が見られる。

東部で検出された道跡は、富士宝永火山灰を敷き詰め、よく踏み固めて路盤としている。これも44号溝の上に重なっていて、中世からの継続性が考えられる。

##### (2) 遺物

江戸時代の遺物は、陶磁器と瓦である。

陶磁器は、北九州の肥前系陶磁器と呼ばれる有田染付碗、嬉野碗、唐津香炉を中心に、中部の瀬戸・美濃産と呼ばれる志野皿、天目碗、香炉、また畿内堺産の播鉢などがあり、近世陶磁器の主な組み合わせがそろっている。これらの中で、志野皿や天目碗、染付碗の一部などは17世紀のものと思われ、波佐見染付碗、嬉野碗、堺播鉢などは18世紀のものと思われ、時代によって産地別の製品に変化が認められる。

瓦は、主に32号溝の中央部から集中的に出土した。ほとんどが湾曲の弱い平瓦と思われるが、ポジティブ(裏)面が丁寧に仕上げられ、ネガティブ(表)面が粗い仕上げになっているため、考えている表裏が逆か棟上に葺く瓦であったかもしれない。地元の方の話では、「昔、近所で瓦を焼いていた」というので、地元産の瓦であろうか。

### 道跡

時期 18世紀  
位置 12E-76-14~76-15  
規模 幅1.6~2.1m、長16.0m  
主軸方向 N-68°-W  
特記事項 宝永火山灰を敷き詰め、踏み固めて道の路盤としている。

### 道跡

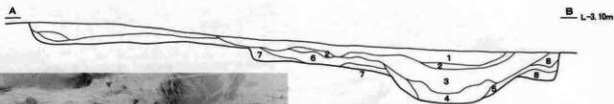


40号近世溝と地層断面

### 40号近世溝

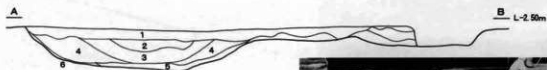
時期 17~18世紀  
位置 12E-77-16  
規模 幅0.6~1.1m、長7.0m  
主軸方向 N-10°-E  
深さ 0.2~0.5m  
遺物 特になし  
特記事項 等高線に直角で掘られる。

図 104. 江戸時代の遺構 3



### 1号近世溝土層断面

- 層序 1. 暗灰褐色土(灰色砂が混じる)  
 2. 暗灰褐色土(宝永火山灰が混じる)  
 3. 暗灰褐色土(砂・黒土が混じる)  
 4. 黒色砂(宝永火山灰)  
 5. 暗灰褐色土(砂が混じり、少し堅い)  
 6. 暗灰褐色土(砂が混じり、堅く粘質)  
 7. 暗灰色土(砂が多く、堅く粘質)  
 8. 暗灰色砂(黒土が混じる)

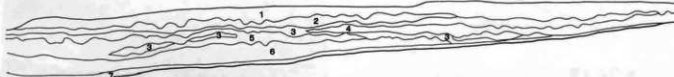


### 38号近世溝土層断面

- 層序 1. 暗赤褐色砂(赤褐鉄が多く、砂が混じる)  
 2. 暗灰色土(砂・赤褐鉄が混じり、堅い)  
 3. 黒灰色土(砂・褐鉄が混じり、堅く粘質)  
 4. 黒灰色土(砂が混じり、軟らかい)  
 5. 黒灰色土(堅く粘質)  
 6. 灰色砂(土が混じる)



A L-2.40m



### 12E-77-16 南北土層断面

- 層序 1. 暗褐色砂(細砂・黒灰色土が混じる)  
 2. 黒灰色土(細砂が混じり、粘質)  
 3. 灰褐色砂(細砂・褐鉄・黒灰色土が混じる)  
 4. 黒灰色土(砂が混じり、粘質)  
 5. 黒灰色土(砂が多く、暗灰褐色土が混じる)  
 6. 灰褐色砂(細砂・暗褐色土が混じる)  
 7. 暗褐色砂礫(1~2cm粒礫・土器片・火葬骨片が混じる)



図 105. 江戸時代の遺構 4

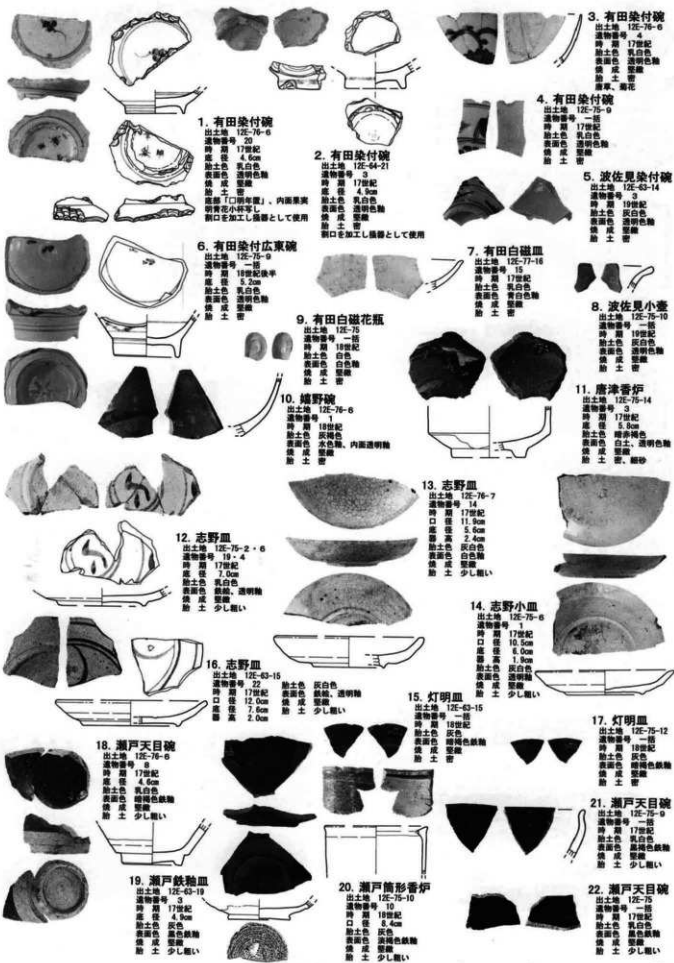


図 106. 江戸時代の遺物 1



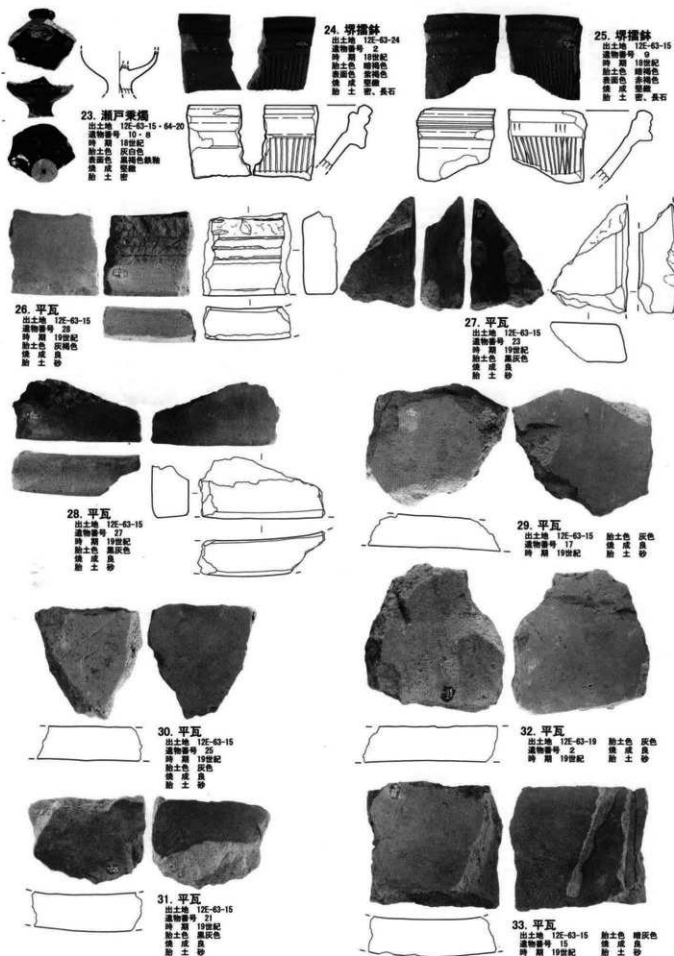


図 107. 江戸時代の遺物 2

0 10cm



## 5) 芝崎遺跡の自然科学分析

### <目次>

はじめに	132
I. 中世欽状遺構での栽培植物の推定	132
1. 試料	132
2. 分析方法	132
3. 結果	133
(1) 栽培植物の産状	134
(2) 他の種類の産状	134
4. 考察	135
II. 粘土層および砂層の由来に関する調査	135
1. 試料	135
2. 分析方法	135
(1) 鉱物分析	135
(2) 珪藻分析	135
3. 結果	136
(1) 鉱物分析	136
(2) 珪藻分析	136
4. 考察	137
引用文献	138

### <図表・図版一覧>

表1 畑跡の植物珪酸体分析試料	132
表2 畑跡の植物珪酸体分析含量	133
表3 地山層の鉱物分析試料	135
表4 粘土層の鉱物分析結果	136
表5 粘土層の珪藻分析結果	
図1 畑跡の植物珪酸体含量	134
図2 粘土層および地山層の重軽鉱物組成	137
図3 粘土層の主要珪藻化石群集	137
図版1 植物珪酸体	140
図版2 重軽鉱物	141
図版3 珪藻化石	142

# 芝崎遺跡の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

芝崎遺跡は、下総台地北東部を流れる栗山川が、台地から九十九里浜の海岸低地に出る付近の左岸側に形成された微高地上に位置する。貝塚ほか(2000)による地形分類図では、下総台地北東部のほとんどは下末吉面相当の下総上位面に区分されているが、栗山川の谷沿いにはそれよりも一段低い下総下位面に区分される狭小な台地が点在している。ただし、本遺跡の背後の台地は、その標高から下総上位面に対比される台地である。また、本遺跡の位置する標高2.5~3.3mの微高地は九十九里海岸低地の最奥部に形成された砂堤の一部であり、縄文海進時に入江となっていた栗山川の谷を塞ぐバリアとして形成されたものと考えられている(森脇, 1979)。

今回の調査では、中世の畝状遺構が検出された。同様な遺構は周辺の中島遺跡や芝崎中島遺跡でも検出され、イネ属などのイネ科作物に由来する植物珪酸体が認められた。今回の遺構についても、イネ科植物珪酸体の有無を明らかにし、栽培植物に関する情報を得る。

また、畝状遺構と同時期とされる堀跡の内側の集落内では、遺構確認面で粘土層が確認された。当初、これは整地層と考えられたが、継続調査の中でその上位および下位にも粘土層および砂層が続くことから、自然堆積層であることが考えられた。そこで、この粘土層および砂層の由来を明らかにするために鉱物分析を行い、堆積環境の検討をするために珪藻分析を行った。

## I. 中世畝状遺構での栽培植物の推定

### 1. 試料

今回の畝状遺構は、前回、中島遺跡において畑跡が検出された調査区の南方に位置し、栗山川に沿う調査区で検出された。この中から、12E-64-7溝の北壁に見られた畝から3点、畝間から3点、12E-75-1溝の畑から2点、12E-74-5溝の畑から5点が採取され、この3地点の試料の中から、7点を選択した(表1)。

表1 畑跡の植物珪酸体分析試料

採取地点	試料名	土色	土質
12E-64-7	畝1	黒褐色	砂混じりシルト
	畝3	褐灰色	砂混じりシルト
	畝間1	褐灰色	砂混じりシルト
	畝間3	灰褐色	砂混じりシルト
12E-74-5	畑跡	灰黄褐色	砂混じりシルト
	畑跡	灰褐色	砂混じりシルト
12E-75-1	畑跡	黒灰黄色	砂混じりシルト

土色と土質は、分析時の所見。

### 2. 分析方法

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後に、プレパラートで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細

胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレバート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレバートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量を求める。

結果は、検出された植物珪酸体の種類と植物珪酸体含量の一覧表で示す。また、各種類の植物珪酸体含量とその層位的変化から畑作物の種類や古植生について検討するために、地点間の植物珪酸体含量の変化を図示する。

### 3. 結果

#### (1) 栽培植物の産状

各試料での植物珪酸体含量を表2、図1に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、その保存状態は悪く、同定できないものも多い。なお、中島遺跡および芝崎中島遺跡で検出されたヒユ属やキビ属は認められない。以下に、栽培植物に由来する植物珪酸体を中心に各地点の産状を述べる。

##### ・12E-64-7北壁

畝1では、イネ属の短細胞珪酸体が約2万個/g、機動細胞珪酸体が約6.5千個/g、穎珪酸体が約2.8千個/gである。この中には、短細胞列などの珪化組織片として認められるものも多い。また、オオムギ族の短

表2 畑跡の植物珪酸体分析含量

種	試料番号	12E-64-7北壁				12E-74-5		12E-75-1
		畝1	畝3	畝間1	畝間3	畑3	畑5	畑2
イネ科葉部短細胞珪酸体								
イネ族イネ属	20,254	2,720	1,210	163	51	44	40	
キビ族チゴザサ属	971	0	121	0	0	44	0	
タケ亜科ネザサ節	3,329	453	2,662	0	51	174	40	
タケ亜科	8,879	1,587	3,024	1,087	460	785	890	
ヨシ属	13,179	6,573	8,590	4,510	2,198	6,933	3,481	
ウシクサ族コブナグサ属	277	113	605	54	0	0	81	
ウシクサ族ススキ属	2,636	907	968	761	102	523	405	
イチゴツナギ亜科オオムギ族	3,329	0	484	54	0	0	0	
イチゴツナギ亜科	1,249	907	726	326	102	174	121	
不明キビ型	19,422	7,027	7,985	2,880	1,073	2,616	1,295	
不明ヒゲシバ型	7,769	2,607	5,081	1,359	358	829	1,498	
不明ダンシク型	5,549	2,153	3,508	380	153	567	769	
イネ科葉身機動細胞珪酸体								
イネ族イネ属	6,520	1,360	1,573	109	0	44	81	
タケ亜科ネザサ節	3,191	453	847	272	51	87	162	
タケ亜科	2,913	1,360	1,694	815	358	392	445	
ヨシ属	2,636	3,627	968	598	0	741	445	
ウシクサ族	6,798	4,080	4,113	1,250	460	610	607	
シバ属	277	227	0	0	0	0	40	
不明	5,133	2,267	1,452	326	102	480	769	
珪化組織片								
イネ属穎珪酸体	2,774	567	121	54	0	0	0	
合計								
イネ科葉部短細胞珪酸体	86,843	25,047	34,964	11,574	4,548	12,689	8,620	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	27,468	13,374	10,647	3,370	971	2,354	2,549	
イネ属穎珪酸体	2,774	2,774	2,774	2,774	2,774	2,774	2,774	
総計	117,085	41,195	48,385	17,718	8,293	17,817	13,943	

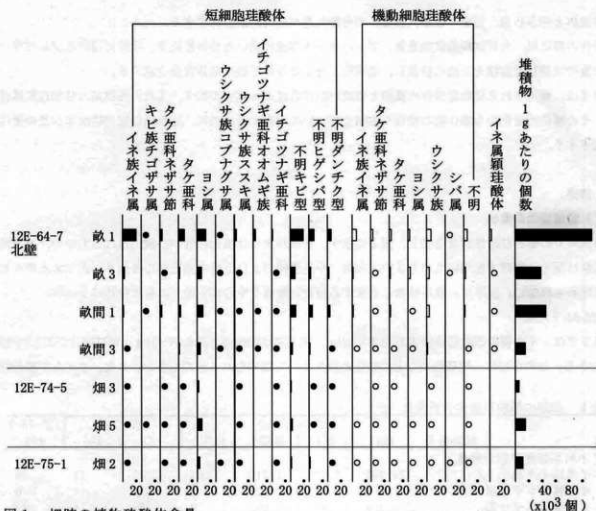


図1 畑跡の植物珪酸体含量

堆積物 1gあたりに換算した個数を示す。●○は 1,000 個未満で検出された種類を示す。

細胞珪酸体が約3.3千個/g含まれるものの、栽培種か否かの判別が明確にならない。畝3では畝1よりもイネ属の含量が少なく、短細胞珪酸体が約2.7千個/g、機動細胞珪酸体が約1.4千個/gである。オオムギ族は、検出されない。

畝間1は、イネ属の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が約1.2~1.5千個/g、畝間3は100~160個/g前後と少ない。またオオムギ族も検出されるが、畝間1は約480個/g、畝間3は約50個/gである。

・12E-74-5

畑3・畑5のうち、畑3ではイネ属の機動細胞珪酸体が検出されず、短細胞珪酸体が約50個/gである。畑5では短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体がそれぞれ約40個/gである。

・12E-75-1

畑2では、イネ属の短細胞珪酸体が約40個/g、機動細胞珪酸体が約80個/gである。

(2) 他の種類の産状

植物珪酸体含量の総計は、12E-64-7北壁の畝1で約12万個/gと最も多く、12E-64-7北壁の畝3と畝間1・畝間3・畑5が約1.7~4.8万個/g、12E-74-5の畑3と12E-75-1の畑2が約0.8~1.3万個/g前後である。

他の種類は1千個/g未満のものが多い。なかではヨシ属短細胞珪酸体やウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立ち、ネザサ節を含むタケ亜科、ススキ属などを含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められ

る。この他、計数はしていないが、珪藻化石の破片や海綿骨針が数多く認められる。

#### 4. 考察

検出された栽培植物のうち、イネ属の含量は12E-64-7北壁の畝1で最も多く、単細胞列など珪化組織片として認められるものも多い。これは、畑跡の土壤中に稲籾や稲藁が混入したことを示唆する。この要因として、イネ属が栽培されたこと、あるいは敷き藁や施肥として稲藁や籾殻が利用された可能性が考えられる。また12E-64-7の畝3と畝間1・3でもイネ属が検出され、栽培あるいは稲藁利用が想定されるが、その含量は畝1よりも少ない。この点は、混入量や耕作地と休耕地などの違いを反映する可能性があるが、遺構の形成過程が明確でない現段階では判別がつかない。一方、12E-74-5の畑3・5や12E-75-1の畑2でもイネ属が検出されるものの、12E-64-7北壁の畝状遺構よりも含量が少ない。他の地点と同様にイネ属の栽培や畑作でのイネ属植物体の利用が想定されるが、蓄積しにくい状態であったことがうかがえる。

この他、オオムギ族の短細胞珪酸体が畝1や畝間1・3で検出され、イネ属と同様に畝1で多い。検出されたオオムギ族が栽培種に由来するものであれば、12E-64-7の畑ではムギが栽培された可能性が考えられる。これまでの調査ではヒエあるいはキビなどのイネ科作物が栽培された可能性が指摘されたが、今回はキビ類の栽培の痕跡は認められず、栽培植物に違いがあったことも考えられる。

また、畑作地周辺の植生をその産出状況から考えると、いずれの試料にも目立つヨシ属をはじめとしてタケ亜科やススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたと思われる。ヨシ属は、湿潤な場所に生育する種類であり、海面骨針なども多く見られることから、今回の調査からも低地の堆積物を畑土壌に用いていることが示唆される。

今後、耕土を対象とした種実分析を試み、生育していた植物や作物について検討したい。また、植物珪酸体を形成しないソバ属などの作物についても、花粉分析により調査することが望まれる。

## II. 粘土層および砂層の由来に関する調査

### 1. 試料

中世堀の内側にみられた整地層と考えられていた粘土層では、鉱物分析と珪藻分析を実施する。また別の地点の粘土層（地山層4～6）をはさむ上下の砂層、いわゆる地山層についても鉱物分析を行う。なお地山層の試料を採取した断面は、現地表面の標高約3m、表層10cmは現耕作土、その下位におおよそ7つに区分される砂質な堆積物が見られる。

表3 粘土層の鉱物分析試料  
試料は、区分された各層から1点ずつ、合計7点が採取された。これらの土層を、ここでは便宜的に上位より順に地山層1～7とする。発掘調査者による各層の所見は表3に示す。

試料名	層厚	土色	土質	備考
地山層1	25cm	灰～赤褐色	砂	
地山層2	10cm	灰色	粗粒砂	地山層3と地山層2の間に不整合
地山層3	20cm	暗茶灰色	細粒砂	
地山層4	15cm	灰色	粘土混じり砂	
地山層5	30cm	灰白色	砂混じり粘土	生痕らしき孔あり
地山層6	25cm	灰色	粘土混じり砂	粘土は灰白色
地山層7	／	灰色	砂	

### 2. 分析方法

#### (1) 鉱物分析

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置にて分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステート(比重約2.96に調整)により重液分離、重鉱物および軽鉱物を偏光顕微鏡下にてそれぞれ250粒に達するまで同定する。

重鉱物の同定の際、不透明な粒については斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質などで同定の不可能な粒子は、「その他」とする。また火山ガラスは便宜上、軽鉱物に含め、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を多く含むスポンジ状あるいは気泡の引き伸ばされた纖維束状のガラスである。

## (2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュワックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer and Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b)、Witkowski, Lange-Bertalot and Metzeltin(2000)などを参照する。

同定結果は、海水生種、海水〜汽水生種、汽水生種、淡水〜汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数200個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。

堆積環境の解析は、海水〜汽水生種については小杉(1988)、淡水生種については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性については、Asai and Watanabe(1995)の環境指標種を参考とする。

## 3. 結果

### (1) 鉱物分析

結果を表4、図2に示す。全試料ともに類似した重鉱物組成および軽鉱物組成である。重鉱物組成は斜方輝石が60〜70%と多くを占め、他に少量の単斜輝石、角閃石、不透明鉱物の3鉱物を伴う。詳細にみれば、斜方輝石以外の鉱物の量比に試料による違いが認められる。すなわち、粘土層と地山

表4 粘土層の鉱物分析結果

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	強化角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
粘土層	2	160	51	10	1	24	2	250	1	0	8	51	109	81	250
地山層1	4	162	47	22	0	11	4	250	0	1	0	58	143	48	250
地山層2	4	172	31	23	0	14	0	250	0	0	0	62	155	33	250
地山層3	3	180	29	25	0	4	0	250	0	0	1	56	128	65	250
地山層4	3	157	36	17	0	19	18	250	0	0	1	65	117	61	250
地山層5	1	157	45	20	0	20	7	250	1	0	5	69	133	42	250
地山層6	1	157	45	13	0	29	5	250	0	0	0	66	121	63	250
地山層7	1	175	24	10	0	30	10	250	1	0	0	52	154	43	250

層4～6の4点は単斜輝石、不透明鉱物、角閃石の順に多く、地山層1～3の4点は、単斜輝石、角閃石、不透明鉱物の順に多い。地山層7は不透明鉱物、単斜輝石、角閃石の順である。軽鉱物組成は、いずれの試料も長石が多く、少量の石英と微量または極めて微量の火山ガラスを伴う組成である。それらの中で粘土層と地山層4・5には火山ガラスがやや多く含まれる傾向があり、パブル型と軽石型が混在する。

## (2) 珪藻分析

結果を表5、図3に示す。粘土層からは、珪藻化石が豊富に産出する。完形殻の出現率は約60%で、比較的良好な保存状態である。産出分類群数は、31属53種類である。このうち、海水生種が26.2%、海水～汽水生種が14.0%、汽水生種が41.6%、淡水～汽水生種が3.3%を占め、海水生種～汽水生種が産出種の大部分である。淡水生種は、15.0%を占める。

産出種の特徴は、汽水付着性で海水泥質干潟指標種群の *Nitzschia granulata*、汽水泥質干潟指標種群の *Pseudopodosira kosugii*、内湾指標種群の *Paralia sulcata* が11～17%と多産することである。また、海水付着性の *Grammatophora hamulifera*、海水藻場指標種群

の *Cocconeis scutellum*、汽水泥質干潟指標種群の *Diploneis smithii*、海水～汽水付着性の *Delphineis surirella*、淡水生で流水不定性（流水域にも止水域にも普通に生育する種）の *Cocconeis placentula*、止水性（止水域に最もよく生育する種）の *Fragilaria construens fo. venter* などに伴う。なお、多産する *Pseudopodosira kosugii* は完新世の海進によって形成された海成層の最上部付近で出現のピークを示すことから、海成層の上限高度の認定に有効な指標種と考えられている（Sato et al, 1996）。

## 4. 考察

前述のように芝崎遺跡は、縄文海進時に入江であった現栗山川の谷の出口に形成された砂堤上に立地している。今回、いわゆる地山層として認められた砂層および粘土層は、標高と層厚および層相から、いずれも砂堤を構成する堆積層であると考えられる。なお、砂層と粘土層からなる層相などは、背後の台地の地形面構成層である常総層（紀村ほか、1981）にも類似する。しかし、背後の台地の上面高度は標高約40mであり、台地表層のローム層とその下位の常総層の厚さはいずれも数m程度であるから、標高約3mよりも下位に堆積する今回の地山層が常総層に対比される可能性は無い。このことは、今回分析を行った重鉱物組成によっても明瞭に支持され、常総層の重鉱物組成は概ね、どの地域においても斜方輝石と角閃石がほ

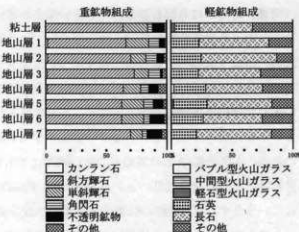


図2 粘土層および地山層の重軽鉱物組成

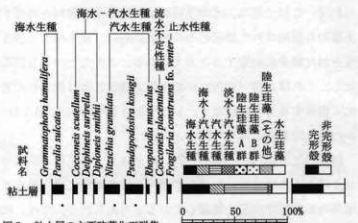


図3 粘土層の主要珪藻化石群集  
海水～汽水～淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数として百分率で算出した。

ほぼ同量、あるいは角閃石の方がやや多い場合が多い（例えば紀村ほか（1981）など）ということからわかる。このような重鉱物組成は、地山層のいずれの層にも認められない。さらに、軽鉱物組成で微量認められた火山ガラスの屈折率を地山層4について概査（古澤（1990）による温度変化法）した結果、 $n_{1.498} \sim 1.510$ の広いレンジを示し、特定のテフラに由来を求めることができなかった。町田・新井（1992）に示されているテフラの屈折率などから、おそらく御岳第1テフラ（On-Pm1）、始良Tn火山灰（AT）、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）の3テフラに由来する火山ガラスが混在している可能性がある。これらのテフラのうち、ATとK-Ahは常総層の堆積時期よりも後に噴出したテフラである。このことから、地山層が常総層である可能性は低いといえる。なお、約6300年前に噴出したとされているK-Ahが地山層中に混在しているとすれば、遺跡の位置する砂堤の形成を6000～5500年前頃とする森脇（1979）の記述と調和する。

ところで、地山層4～6が粘土質であることは、砂堤の形成時期の中で砂堤の後背に形成されている潟湖が一時的に拡大し、調査地付近も潟湖となったことを示唆していると考えられる。また、整地層と考えられていた粘土層は、その重軽鉱物組成および層相を考慮すると地山層5に対比される。さらに、この粘土層から採取された珪藻化石の産状からは、淡水域で形成された堆積性ではなく、海水または汽水域で形成された粘土に由来すると考えられる。このことから砂堤背後の潟湖における堆積層と考えられる。ただし、これは森脇（1979）が海水準の変化により説明した九十九里海岸の地形発達史における5段階の変化に相当するものではなく、1つの段階（具体的には第1砂堤群の形成期）内における、より小さなスケールの変化であると考えられる。

以上のことから、森脇（1979）による九十九里浜の地形発達史などを考慮すると、栗山川の谷底低地内および九十九里海岸における砂堤間の低湿地内には、海水または汽水の潟湖あるいは干潟であった時期の堆積物が地表下に広く堆積していると考えられる。今後、周辺域における粘土層の分布、原地形についての資料を蓄積し、遺跡の立地との関わりを考えていきたい。

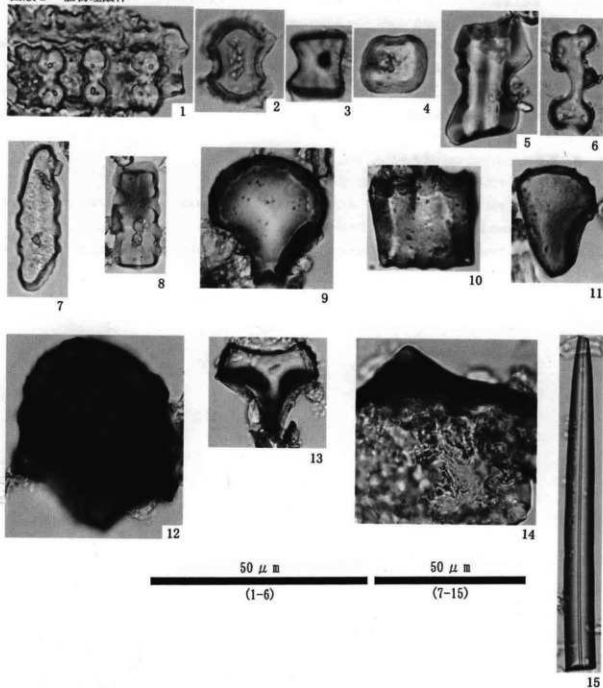
## 引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理，42，p.73-88。
- Asai, K. and Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.
- 古澤 明（1995）火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別。地質学雑誌，101，p.123-133。
- 原口和夫・三友 清・小林 弘（1998）埼玉の藻類 珪藻類。埼玉県植物誌，埼玉県教育委員会，p.527-600。
- 伊藤良水・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用。珪藻学会誌，6，p.23-45。
- 貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編（2000）日本の地形4 関東・伊豆小笠原。349p. 東京大学出版会。
- 紀村雅裕・寺岡達朗・小玉喜三郎（1981）下総台地南部における洪積台地の変形と埋没段丘。地質学論集，20，p.103-111。
- 近藤謙三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用。第四紀研究，25.1，p.31-64。
- 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究，27，p.1-20。
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND26, p.1-353., BERLIN · STUTTGART.



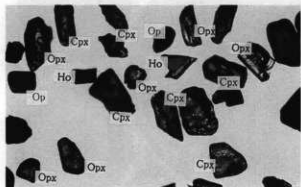
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- 町田 洋・新井朋夫 (1992) 火山灰アトラス. 276p., 東京大学出版会.
- 森脇 広 (1979) 九十九里浜平野の地形発達史. 第四紀研究, 18,1, p.1-16.
- Sato, H., Tanimura, Y. and Yokoyama, Y. (1996) A Characteristic Form of Diatom *Melosira asan* Indicator of Marine Limiting the Holocene in Japan. The Quaternary Research, 35,2, p.99-107.
- Witkowski, A., H. Lange-Bertalot, and D. Metzeltin (2000) Diatom flora of Marinecoast I. Iconographia Diatomologica 7 : 881p., Koeltz Sci. Koenigstein.

図版1 植物珪酸体

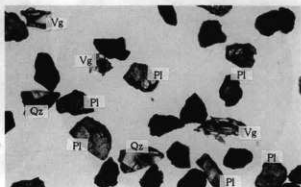


- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1. イネ属短細胞列 (12E-64-7; 畝1)       | 2. トゴザサ属短細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝間1) |
| 3. ネザサ節短細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝1)    | 4. ヨシ属短細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝3)    |
| 5. コブナグサ属短細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝間1) | 6. ススキ属短細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝1)   |
| 7. オオムギ族短細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝1)   | 8. オオムギ族短細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝間1) |
| 9. イネ属機動細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝1)    | 10. ネザサ節機動細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝1) |
| 11. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝1) | 12. ヨシ属機動細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝3)  |
| 13. シバ属機動細胞珪酸体 (12E-64-7; 畝1)   | 14. イネ属穎珪酸体 (12E-64-7; 畝1)     |
| 15. 海綿骨針 (12E-74-5; 畑5)         |                                |

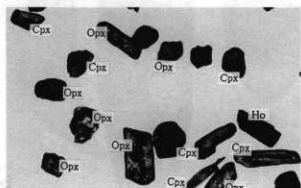
図版 2 重軽鉱物



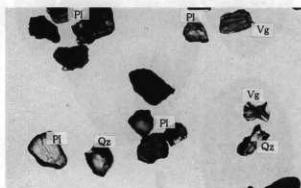
1. 重鉱物；粘土層



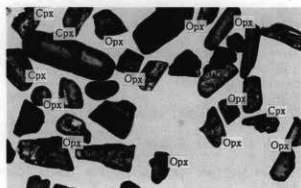
2. 軽鉱物；粘土層



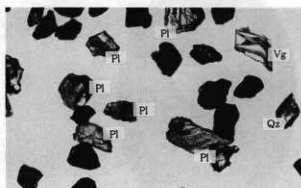
3. 重鉱物；地山層 4



4. 軽鉱物；地山層 4



5. 重鉱物；地山層 5

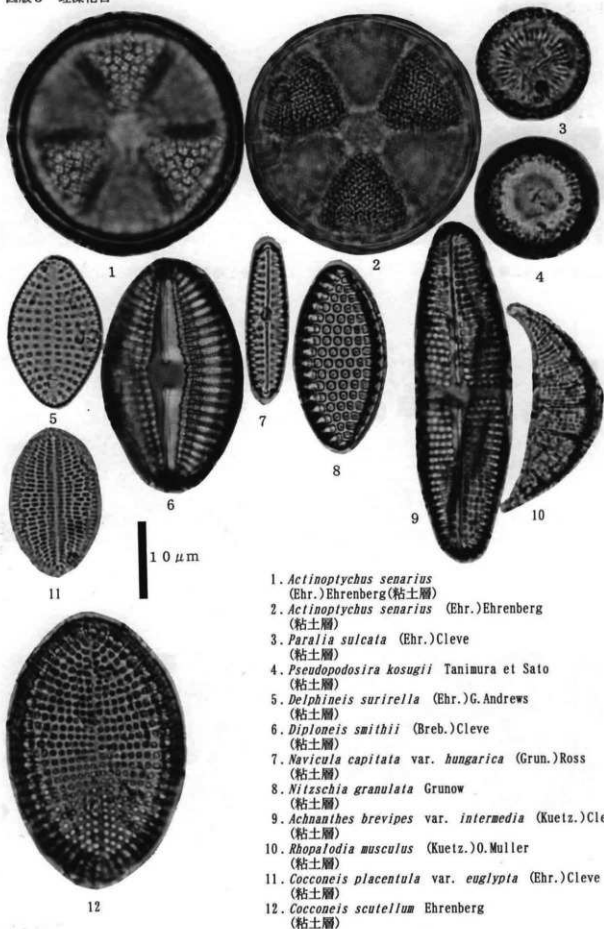


6. 軽鉱物；地山層 5

Opx: 斜方輝石. Cpx: 単斜輝石. Ho: 角閃石. Op: 不透明鉱物.  
Qz: 石英. Pl: 斜長石. Vg: 火山ガラス.

0.5mm

图版 3 珪藻化石



1. *Actinoptychus senarius* (Ehr.) Ehrenberg (粘土層)
2. *Actinoptychus senarius* (Ehr.) Ehrenberg (粘土層)
3. *Paralia sulcata* (Ehr.) Cleve (粘土層)
4. *Pseudopodosira kosugii* Tanimura et Sato (粘土層)
5. *Delphineis surirella* (Ehr.) G. Andrews (粘土層)
6. *Diploneis smithii* (Breb.) Cleve (粘土層)
7. *Navicula capitata* var. *hungarica* (Grun.) Ross (粘土層)
8. *Nitzschia granulata* Grunow (粘土層)
9. *Achnanthes brevipes* var. *intermedia* (Kuetz.) Cleve (粘土層)
10. *Rhopalodia musculus* (Kuetz.) O. Muller (粘土層)
11. *Cocconeis placentula* var. *euglypta* (Ehr.) Cleve (粘土層)
12. *Cocconeis scutellum* Ehrenberg (粘土層)

## 4. 結 語

以上、芝崎遺跡のこの発掘調査では、縄文時代の土器、奈良・平安時代の農村跡、鎌倉・室町時代の性格不明の溝、江戸時代の畑地割の溝などが出土し、この地域の歴史の流れを知ることができた。芝崎遺跡は低地であって、なおかつ栗山川に接している。このような所で「はたして遺跡があるだろうか」と言うのが、調査前の実感であった。ところが発掘をしてみると、遺跡がないどころか足の踏み場もないくらいの密度で、遺構が検出された。そのほとんどは奈良・平安時代の畑跡で、銚子連絡道路予定地調査区域35,000㎡も含めて大部分のところで発見された。また同じ所に重なって同じ時代の住居跡が検出された。これで問題になることは、畑跡と住居跡がどのような関係で配置し、並存したかである。この調査区域の中でも、本文中に示したように、奈良時代から平安時代中頃あるいは後期まで続いたとしたら、300～400年間の期間、ここで古代農村集落が営まれたことになる。その期間、どのように変遷したか、検討することは至難に近い。この報告書ではその復元は難しいため、銚子連絡道路予定地調査報告書に先送りすることにした。

中世では、溝と土坑が検出されたのみであるが、同時代は周辺に多くの城郭があり、特に境目の城として背後に芝崎城跡、対岸には坂田城跡があり、その接点として栗山川に接した本遺跡が、何らかの役割を果たしていたことも十分考えられよう。

近世も溝のみの検出であったが、この溝から富士宝永火山灰が出土したことから、すでに江戸前期には存在したことが明らかとなり、この時代の溝のほとんどが、現在の畑地割の下から出てきた。これらのことから、現在から遡ってみると、現在芝崎にある畑は江戸時代の地割を残していることが判明した。また江戸時代の溝の中には中世溝に重なるものもあり、地割の源流は中世にまで遡ることが分った。しかし、中世とそれ以前である平安時代の遺構（畑跡）とは重なる所がなく、断絶を感じる。

このように芝崎の歴史は、そのあけぼのである縄文時代は別として、奈良・平安時代に本格的に農村集落が営まれるも、平安時代の終わりには一旦断絶があり、また鎌倉時代以降今日まで継続して農耕が営まれた流れが解明された。

### （参考文献）

- 日本考古学協会2000年度鹿児島大会実行委員会（2000）はたけの考古学  
千葉県史料研究財団（1998）千葉県歴史資料編 考古3（奈良・平安時代）

## 報告書抄録

ふりがな	しばさきいせき							
書名	芝崎遺跡Ⅰ							
副書名	住宅地関連公共施設等総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査							
シリーズ名	財団法人 東総文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第30集							
編著者名	道澤 明							
編集機関	財団法人 東総文化財センター							
所在地	〒289-1727 千葉県匝瑳郡光町宮川字宮内前2334 TEL. 0479-84-3368							
発行年月日	西暦2005年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しばさきいせき 芝崎遺跡	ちばさきいせき 千葉県匝瑳郡光町 芝崎字水神1262-1	12381	47	35度 40分 00秒	140度 29分 30秒	20030207 ～ 20041222	5,157 m <sup>2</sup>	河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
芝崎遺跡	集落跡	縄文時代  奈良・平安時代  鎌倉・室町時代  江戸時代	住居跡・掘立柱 建物跡・土坑・ 溝・畑跡	縄文中期・後期・晩期 土器  土師器・須恵器 基石・砥石・鉄鎌  青磁碗、古瀬戸小皿常 滑甕・鉢、渥美甕・土 器小皿・内耳土鍋、銭 貨、砥石、火葬骨		調査区域西半分に畑跡を検 出。奈良・平安時代の農村 集落を復元できそう。  周辺中世城郭との関連が想 定される。  溝は畑地割で現在も継承さ れている。		

財団法人 東総文化財センター調査報告書第 30 集

## 芝崎遺跡 I

—住宅地関連公共施設等総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査—

---

平成17年3月25日発行

編 集 財団法人 東総文化財センター

発 行 千葉県海匝地域整備センター  
千葉県八口市堀市イの1,999

財団法人 東総文化財センター  
千葉県匝路郡光町宮川字宮内前2334

印 刷 三 陽 工 業 株 式 会 社  
千葉県原市五井5510-1

---